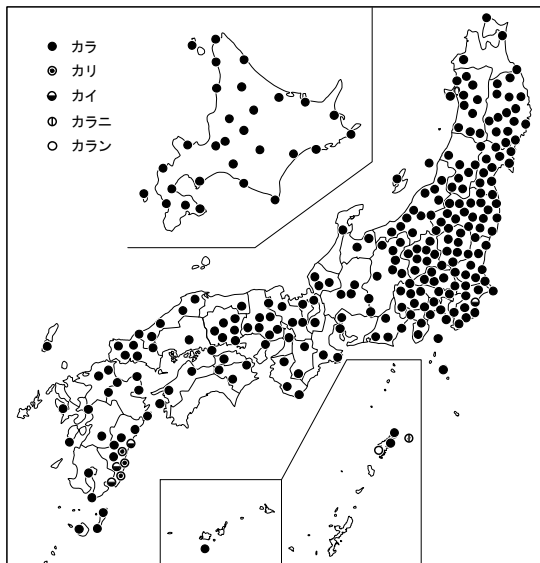


カラ【接続助詞・原因理由】

カリ・カイ・カラニ・カラニ

〔分布〕



(GAJ33 図「雨が降っているから行くのはやめろ」より)

○全国に広く分布するが、他の形式との併用も多い。

○東北地方南部から関東地方にかけては、特にカラ類のみが分布する。

○東北地方日本海側・中部地方・西日本にはカラ類が少なく、他の形式が主流である。

○宮崎県にカリ、千葉県・宮崎県・鹿児島県にカイがある。

○鹿児島県奄美地方の喜界島にカラニ、加計呂麻島にカラニがある。

〔意味用法〕

○原因・理由の接続助詞。から。ので。

○用法の制限はほとんどみられない。

〔接続〕

○活用語の非過去形／過去形に後接する。

○推量形に後接する。

○丁寧形に後接する。

〔語誌〕

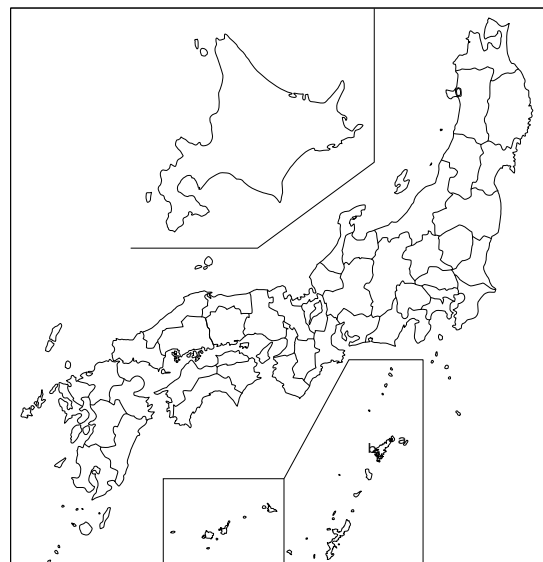
○接続助詞「から」は、原因・理由を表す用法の格助詞「から」が、活用語の連体形に下接して用いられ、のちに接続助詞に転成したものと考えられる。連体形に下接する際は、奈良時代は「からに」の形で用いられ、平安時代以降、「に」の付かない形も使われるようになった。原因・理由を示す場合は「(連

体形+) からに」であったが、鎌倉時代以降には「(連体形+) から」でも原因・理由を示すようになった。

○方言形式においては、カラニ、カラニ、ガラニなど、古語のカラニに由来するとみられる形式がある。また、カラ以外にも、カラ、カナ、カイ、カル、カチ、ガー、ガラなどの形式がある。

○方言のカラ類の用法は、共通語のカラよりも広く、動作を行う手段(九州・琉球)、動作を行う場所(中国・琉球)、動作の対象(東北・九州・琉球)、受身表現の動作主(東北・九州)、不確定(北陸・中部)、比較の基準(九州)、仮定表現(東北)などでも用いられる。これらの地域の多くでは、原因・理由表現にカラ以外の形式も用いられる。

〔報告地点〕



(アルファベット: 方言文献資料)

a 鹿児島県大島郡喜界町羽里〔全国〕

b 鹿児島県大島郡瀬戸内町阿木名〔全国〕

※ここでは、カラ類の用例は省略し、カラニ類が分布する鹿児島県喜界町(喜界島)と、鹿児島県瀬戸内町(奄美大島南部)の用例を示す。

(a) 鹿児島県大島郡喜界町羽里〔全国〕

○カラニが、従属節用法において確認される。

○ほかに、GAJ33 図ではソーが回答されている。

【1】従属節用法

・カンヌ ウカギニ ネン チュム アン チュム
ヤッパイ インヌ シュクズィム カムネーニ ナ
ットウンカラニ フォントー イヌチム ナガラク

ムッティリョーッテン ウムユン。(国のおかげで、ない人もある人もやっぱり同じように、食事もあるようになってから、本当に命も長くもつのだらうと思う。)

・ワーサンムンティヤー シマヌ アスピニ イズ
イッティモ ニヤマヌ フュズインチャー ムカ
シヌ ウター ヲカランカラニ イカンワー。(若い
者たちは部落の遊びに出て、今の婦人たちは昔の
歌がわからないからいけないよ。)

【2】述語用法

(該当例なし)

【3】文末用法

・ムッカシガ ヲアティドゥ ニヤマガ アスズヤ
ンカラニ ヲティ ウムティ アンマサー アッ
ティム ユロー アノー ユンツチャニディム イ
ズイティ アッシ アンナニ ナラワチュンドール
チョー ンヤマー。(昔があつてこそ今があるのだから、
と、思つて、体がつかなくても夜などにも出て、あ
れたちに教えているところですよ、今は。)

【4】接続詞用法

・アシジャンカラニ ヤッパイ ユヌナカー アシ
ジャローテ ワンナヤ オムアリンガヤー。(そうだ
から、やっぱり世の中はそうだろうと我々は思われ
るのですがね。)

(b) 鹿児島県大島郡瀬戸内町阿木名〔全国〕

○カランが、従属節用法、文末用法において確認さ
れる。

○ほかに、バも用いられる。(⇒バ)

【1】従属節用法

・チュヌー チカラーヤ カランガイシー ガーシ
ー キカイリョクシ シュンカラニ ニンギンナ
ダクー シウーティ ウレー ニヤー ムンヌ ミ
ショラリンチョーヤー。(人の力は借りないで、そう、
機械力でするから、人間は楽をして食べ物が食べら
れるものですよ。)

・ウツリヤ ミヤーギヤー ニヤー クアンキャヌ
タミ ユンマ ウラ タミ アレ ムンクム コー
ティ ムッチ キュムカラニ キバトウリョー。(み
やげはもう、子どものためよりはお前のために、何
でも買って持ってくるから、元気でいろよ。)

・バツサー ハチズインー ハヌン イズイユンチ
ユムンジャンカラニ ウッカイ スグ ムッティ
キャンバ ラスカ ヤーヌ クタヤ ウッラー タ
ングヘ ユッドヤー。(バスは八時半に出ると言つて
いるから、それに乗っていかなければならないが、
家のことはおまえに頼むよ。)

【2】述語用法

(該当例なし)

【3】文末用法

・ズィブンノ シリョクノ アティー アシリバ
マタ ナマノ チュームン ヲティクティム チリ
ョーガ ヤッサンカラニヤー。(自分の資力があつて、
そうすれば、また、今の他人の物を作つても、小作
料が安いからね。)

・ワンナ チャンマドゥジャンカラニナヤ。(私は午
前中だからね。)

・ヤッパドゥ ガシュン ユヌナカ アタンカラニ
ガヤー。(やっぱりそういう世の中であつたから。)

【4】接続詞用法

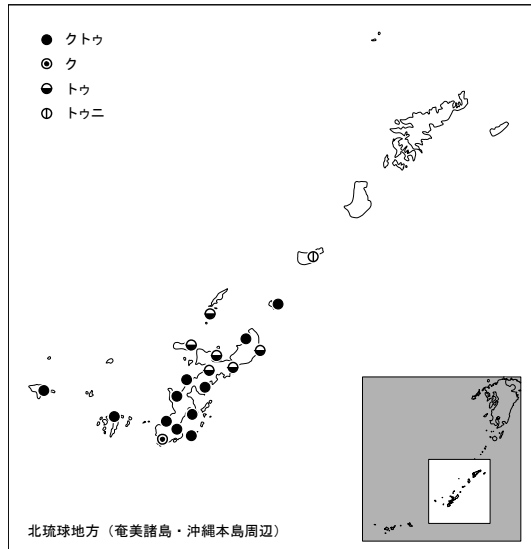
(該当例なし)

(竹田晃子)

クトゥ【接続助詞・原因理由】

クトゥ・グトゥ・フトゥ・トゥ・ツトゥ・ットゥ・ト
ウニ・ク

〔分布〕



(GAJ33 図「雨が降っているから行くのはやめろ」より)

○鹿児島県の奄美諸島、沖縄県の沖縄島諸島で使
される。

○沖縄島の中部から南部地方にかけてクトゥ、グ
トゥが用いられている。また、沖縄本島北部の周辺諸
島でも用いられている。(⇒[資料 04])

○沖縄本島北部では語頭のク〜がh音化したフト
ゥが用いられている。(⇒方言文献資料e)

○また、k音のh音化の後に子音が脱落したとみ
られるットゥ、ツトゥ、トゥが奄美諸島から沖縄本島北
部の周辺諸島などで用いられている。

○奄美諸島の沖永良部島では、上記のトゥの他に、
ニが下接したトゥニも用いられている。(⇒方言文献
資料c)

○語尾が消失したとみられるクの例もわずかにみ
られる。(⇒方言文献資料e)

〔意味用法〕

○原因・理由の接続助詞。から。ので。

○従属節用法では、(1)事態の原因、(2)行為の理由、
(3)判断の根拠、(4)発言・態度の根拠、(5)理由を表さ
ない用法のすべてをカバーする。

○述語用法での使用も可能である。

○文末用法での使用も可能である。

○接続詞用法での使用も可能である。

〔接続〕

○活用語の非過去形／過去形の尾略形に接続する。

「尾略形」は「短縮形」(apocopated form)や「下
略形」とも呼ばれる。琉球諸方言では非過去形／過
去形の終止形の場合、動詞の連用形に「居り」が付
いた語形(奄美諸島に分布)や、連用形+居りに「ン」
(推量の「む」に由来か)が下接した語形が用いら
れている。この尾略形は、語尾のンを省略した語形
で、準体助詞や接続助詞などが下接する形。

○活用語の否定形の場合は語尾を省略せず、否定の
語尾「ン」にそのまま接続する。サキ ヌマンクト
ウ、クルマ ヌティイチュサ。(酒を飲まないから、
車に乗っていくよ。)

○名詞や形容動詞(ナ形容詞)にはヤン(だ)の尾
略形に接続する。

○推量形にも後接する。

○丁寧形にも後接する。(⇒[共通調査報告]《補説》)

〔語誌〕

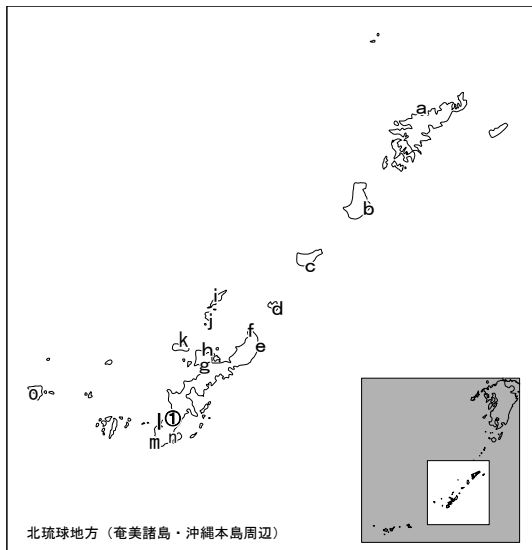
○名詞「事(こと)」に由来する。首里王府[編]『お
もろ御さうし』(以下『おもろさうし』と表記。
1531-1623年)、同じく首里王府[編]『組踊集』(1838
年編纂)を底本にして編まれた伊波普猷(1929)『校
註琉球戯曲集』などでは、「こと」や「事」の形で用
いられている。このうち、『おもろさうし』では、原
因・理由よりも「〜したところ」と解釈した方が適
切である。一方、「組踊」の『執心鐘入』では、現在
の首里方言の原因・理由表現と同様の「から、ので」
にしか訳せない例が用いられるようになる。

・「一 はひやが、まいとかずに、／いぢや、こと、
はひ／はひやよ、とよでゝ、／まへちへ、はひ／又
はひやが、しまなかに、／いぢやれば、はひやよ、
どけでゝ、／やなで はひ」(『おもろさうし』492[巻
9-17]番、用例は外間守善・波照間永吉[編著](2002)
『定本 おもろさうし』角川書店より引用、傍線は
引用者。傍線部分の現代日本語訳は「行ったら」)

・「昔から寺や／女 禁止さらめ／いきやる事あとて、
／とまいてきちやが。」(用例は「執心鐘入」『伊波普
猷全集 第三巻』平凡社より引用、傍線引用者。傍
線部の現代日本語訳は「どのような理由があつて」)

高橋俊三（1972）は、琉球国時代の文献にみられる「こと」と「もの」の事例を集めて通時的な分析を加え、『おもろさうし』の頃は「もの」の方が「原因・理由」を表していたが、その後次第に「こと」が「原因・理由」を表すようになると分析している。

〔報告地点〕



北琉球地方（奄美諸島・沖縄本島周辺）

（丸数字：共通調査 アルファベット：方言文献資料）

① 沖縄県那覇市首里

- a 鹿児島県大島郡大和村大和浜〔資料 01〕
- b 鹿児島県大島郡徳之島町亀津南区〔全国〕
- c 鹿児島県大島郡知名町瀬利覚〔全国〕
- d 鹿児島県与論町麦屋〔資料 02〕
- e 沖縄県北部地区国頭村安波〔全国〕
- f 沖縄県北部地区国頭村宇嘉〔全国〕
- g 沖縄県北部地区名護町城〔全国〕
- h 沖縄県北部地区今帰仁村与那嶺〔資料 03〕
- i 沖縄県伊平屋村我喜屋〔全国〕
- j 沖縄県伊是名島諸見〔資料 04〕
- k 沖縄県伊江島東江・川平〔全国〕
- l 沖縄県那覇市久米〔全国〕
- m 沖縄県糸満市糸満〔全国〕
- n 沖縄県知念村久高（現・南城市知念久高）〔全国〕
- o 具志川村仲泊（現・久米島町仲泊）〔全国〕

〔共通調査〕

〔1〕 従属節用法

(1) 事態の原因

・メーナチ アミヌ フイクトウ アレームノー

カーラカン。

・メーナチ アミヌ ヤクトウ アレームノー カーラカン。

(2) 行為の理由

・ドゥーヌ アンペーヌ ワッサクトウ シクチェー
ヤシムル クトゥンカイ サン。

(3) 判断の根拠

・フシヌ ツンジトー クトウ アチャン イイー
ツワーチチンカイ ナイラハジ。

(4) 発言・態度の根拠

・ウカーサ クトウ クヌ カーラウウテー アシバン
ケー。

(5) 理由を表さない用法

・シグ ムドゥティ チューク クトウ クマウウティ
マツチャーティ クイレ。

〔2〕 述語用法

・A「ブクチャン。」B「アングトウ ウフォーク
ヌム クトウ ヤー。」

〔3〕 文末用法

(1) 倒置

・クマウウティ イットウチェー マツチャーケー。
シグ ムドゥティ チューク クトウ。

(2) 終助詞的用法

・アトゥカラ ナー チュケーン デンワ スクトウ ヨ
ー。

〔4〕 接続詞用法

・チカグロー メーナチ アミヌ フトーン。{ヤクトウ
／アンスクトウ} アレームノー カーラカン。

《補説》

○首里方言では、原因・理由表現としてクトウの他にムンヌが使用されるが、クトウとは違い、動詞の連体形に接続する。また、「のに」や「けれど」の意で使用される用例も多くみられる。

○丁寧形の場合も尾略形に接続する。

・イフェー ウファナシヌ アイビー クトウ、クマン
カイ ツウエンソーチ ウタビミシェービリ。（少し
お話がありますので、ここにいらっしやってください。）

○接続詞用法では積極的な理由がある場合には断定
辞＋「から」のヤクトウよりも代名詞＋「から」の

アンスクトゥが用いられている。

○首里方言の形容詞（イ形容詞）の原因・理由表現には、名詞形（あるいは「語幹＋さ」）にクトゥを付けて表すほかに、形容詞語幹にサヌを付けることで原因・理由を表すことができるが、後件に否定的な内容を想起させるため、「のに」に当たる形式とも考えられる。なお、形容詞語幹＋サヌの用法では、後件の部分を省略した文末用法の例が多くみられる。

・クレー ンジャサクトゥ、カマラン。（これは苦いから、食べられない。）

・クレー タカサヌ、（ヌブラランサ）。（これは 高くて、（登れないよ）。）

【方言文献資料】

（a）鹿児島県大島郡大和村大和浜〔資料 01〕

○ットゥが用いられている。

【1】従属節用法

・ガシナツタットゥ アンシン シャ。（そうだったので、安心した。）

・ウン ツユー ヒューサツタットゥ、ツトナリーツチダツカ オシウティウ。（その魚は大きかったので、隣家へもあげた。）

【2】述語用法

（該当例なし）

【3】文末用法

（該当例なし）

【4】接続詞用法

（該当例なし）

（b）鹿児島県大島郡徳之島町亀津南区〔全国〕

○主にットゥが用いられている。

○用例が少ないがキウも用いている（1例）。

○接続詞用法ではガントゥニが多く用いられている。

【1】従属節用法

・ナー、シウリウカツチウ ユシウツトウガ ウウー
ムン ウマツチウ シウリウカツチウ イジウクン
マシウマンチウ エウーツタットゥ ツクンデヤ ワ
ンマ マジウン イキユンガチウ イケツタン チ
ウヨ。（さあ、白井によしがいるから、そこまで白井
へ行ってこなければならぬと言いましたので、今
度はわたしもいっしょに行きましょうと言って行き
ました。）

・ワツキヤ ナデノヌ ヤドウイナ トウンゲウス
アンキウ トウティ イケウ イチャツツテウ。（わ
たしたちの ナデの小屋に鰻があるから、取って行
けと言った。）

【2】述語用法

（該当例なし）

【3】文末用法

・ヤーヤ マタ イキャシウガチウカ、ワン ツウウ
ーチウキウツチウ、ハルカラ クンチウ、タワクシ
ウガ イジウ クムンナティ、ヤドウイ イジウ
ウシウ マツキウツティ キアタットゥ。（家ではま
たどうしたのかと〔心配し〕、わたしを探すというて、
畑からこないと、田の耕作をしに行つてこないの
で、牛小屋へ行って牛を繋いでこなければならなかつた
ので。）

【4】接続詞用法

（該当例なし）

（c）鹿児島県大島郡知名町瀬利覚〔全国〕

○主にトゥニが用いられているが、トゥも用いられて
いる。特にヤントゥニの用例が多く見られる。

【1】従属節用法

・ワガ ヘーサ イジキユントウニ ウラム キバ
ティ ドウクサ シューリョー。（わたしだ一晩ば
かりだからわたしが早く行ってくるからあなたもよ
く元気にしていなさい。）

・イキヤー シャンテ ナマヌ ワランキャ ミュ
ートウ ガッコーネティム エイヨー ツクチュヌ
ムン ヤントウニ ヌーサ フディーサデョヤー。

（どうしても今の子供たちを見ると学校でも栄養を
とっているものだから、非常に大きくなるさねえ。）

・インクシャニカラ マーサン ムヌ カディ フ
ディティ、ガンシトウ カラダム ウード フディ
トウン ギー。（小さいときからおいしいものを食べ
て大きくなって、そうだから体も大きく生長したわ
け。）

・ハマー マーネ アヤブントウ ムチ モーリー。
（鎌がここにありますから、持っていらっしゃい。）

【2】述語用法

（該当例なし）

【3】文末用法

・ナー ヤマトウカラ タニヌ キュール ムン
ヤントウニ アマナム タマネギム ヌーム ヒー
ム チュクイトウニヤー。(まあ本土から種が来るも
のだから、キャベツも玉ねぎもなにもかも作ってい
るからね。)

【4】接続詞用法

・ガントウニ キバティ ドウカサ シューリ。(そ
うだからせいぜい元気でいなさい。)

(d) 鹿児島県大島郡与論町麦屋〔資料 02〕

○主にクトゥが用いられている。

○なお、原因や理由を強調する場合は、係助詞ドウ
の前にクトゥではなく、接続助詞バとカラを一緒に
用いている。

・アミヌ ムリバカラドウ ギシキヤー サシュー
ル。(雨が漏ったので、[修繕のために] 芽を差す。)

【1】従属節用法

・ミンチャマサ ネンガネーコレクトゥ プダーシ
ヤッサイ。(好き嫌いなく食べるから育てやすい。)

・ワーガ コータクトゥ ウラチャガ ムンヤ ナ
ー ネンサ。(私が食べたから、あなたたちのものは
もうないさ。)

【2】述語用法

(該当例なし)

【3】文末用法

(該当例なし)

【4】接続詞用法

(該当例なし)

(e) 沖縄県北部地区国頭村安波〔全国〕

○トゥが用いられている。

○用例は少ないがクが用いられている。

【1】従属節用法

・ジョーシチャーヌ ウラントウ タルマッティ
クイリ。(下働きがいないから頼まれてくれ。)

・ナー ナー ヤマ ネーンク ナトートゥ ナー
パイン ウギ チュクティカラ ナー ヤマー ア
ッカン カンゲー。(もうもう山がなくなったから
もうパイン、キビを作ってもう山へ行かないように
したほうがいい。)

【2】述語用法

(該当例なし)

【3】文末用法

・マー フヌ クトウネーヤ ワシトーティ ヒー
ナガチーキン リットーマ アキラミトートウヤー。
(まあこのことは忘れていて日を過ごすということ
であきらめているからね。)

・ナチヤ ウトゥラハトウヤー。(夏は [ハブが] お
そろしいからね。)

【4】接続詞用法

(該当例なし)

(f) 沖縄県北部地区国頭村宇嘉〔全国〕

○フトゥが用いられている。ヤフトゥの用例が多く
見られる。

【1】従属節用法

・オー。ハク フィサンレーヤ アラーティモーテ
ィ ターンレー フカターフトウ インカギンソリ
ヨー。(はい。早く足でも洗っていらして、お茶もわ
かしてあるからおあがりください。)

・ニンビヤッサヌヨーナ シカットゥ イー アン
バーヤフトウ アンシル ワンヤ イティゴナー
ダラミンクワンレー ホーティ スミバヤーン リ
ムートールバーレンロー。(寝やすくてたいへんいい
ぐあいだから、だからわたしは 1 合も晩酌の酒でも
買って飲もうと思っているところですよ。)

【2】述語用法

(該当例なし)

【3】文末用法

・ララーミヌ ブンレー モーキーブーハンフトウ。
(晩酌の分さえもうけられないから。)

・ナー ユミン スメーデー ワヌン イソー
ク ナトーフトウヤ。(もう嫁をもらった、わたしもうれ
しくなったからね。)

【4】接続詞用法

(該当例なし)

(g) 沖縄県北部地区名護町城〔全国〕

○トゥが用いられている。アンストゥの用例のほか、
エトゥも見られる。

【1】従属節用法

・アチジャン ワカチェトウ ハク キヤーギレー。
(熱いお茶もわかしてあるから早くおあがりな
さい。)

【2】述語用法

(該当例なし)

【3】文末用法

・トー、クリャ マタ ペーク クートウ。ヤー マチカンディ スナヨーヤー。(まあ、きょうはまた早く帰るから。おまえ待ち遠しく思うなよ。)

・マー、ワジャーニ イットウキ アイトウル。(まあ、仕事が少しあるから。)

【4】接続詞用法

・アンストゥガ イター エージュニ ドゥーシーメー スグー マークマークートウシー リチイーシキランキネー ナランドーヤー。(そうだから、おまえたちの友だちに雑炊米をきちんとうまく炊けと言いつけなければならないよ。)

・トー、ピトウヤ ナー ハーマ ナンマー ウンナジャキヌ タンカール エトウ ナマー ユーユートウ アイサ。(まあ、イルカはまあずっとはるかみんな女崎の向かいだからいまゆっくりしていいですよ。)

(h) 沖縄県北部地区今帰仁村与那嶺〔資料 02〕

○トウが用いられている。

【1】従属節用法

・アミーヌ プイツトウ イジララーヌ。(雨が降るので出られない。)

・ツナンマ ヒツチュツトウ マツツチュレー。(今行くから待っておれ。)

【2】述語用法

(該当例なし)

【3】文末用法

(該当例なし)

【4】接続詞用法

(該当例なし)

(i) 沖縄県伊平屋村我喜屋〔全国〕

○トウが用いられているが、わずかにツトウが用いられている。アンストゥの用例が多く見られる。

【1】従属節用法

・ジローサ ムチ ハチジハングル チュートウホー マツチューティンホーロオー。(自動車を持って8時半ごろ来るから待っていて下さいね。)

【2】述語用法

(該当例なし)

【3】文末用法

・ウヌ ハタキ ナマ アリロー、トー、シゴヒヤクチュボビケー アチョートウヤー。(その畑は今あれだよ、そう、四、五百坪ばかり空いてるからね。)

・シー デーツトウ デーツトウ ヤツツトウ フーバ ウユッサ。(うん、値段次第だから、来れば売るよ。)

・アストウヤー ムカシヤ フニン フーサイ マタ ナハケ ヒチネー ハチジカンニル イチュタツトウヤー。(それでね、昔は船も小さくまた那覇へ1日のうち8時間でぞ行ったからね。)

【4】接続詞用法

・アンストゥ ヌーン ズーネンニ チュケーナータケーイヤ アトゥナ ナハンカイ イチガス。(そうだから何も10年に1回ずつ、2回はそうだから那覇に行ったかどうか。)

(j) 沖縄県伊是名村諸見〔資料 04〕

○トウが用いられている。

【1】従属節用法

・ナマ ネントウ マチョーリ。(今無いから待っておけ。)

・ワガー ユヌトウ チキョー。(私が読むから聞けよ。)

【2】述語用法

(該当例なし)

【3】文末用法

(該当例なし)

【4】接続詞用法

(該当例なし)

(k) 沖縄県伊江島東江・川平〔全国〕

○トウ、ツトウ、ツツトウが用いられている。ヤツツトウのほか、ヤユツツトウの用例も見られる。

○ムヌーの使用例もみられる。

○未然形や已然形に下接するバの使用例もみられる。
⇒バ

【1】従属節用法

・ワヌン マーダーティーラー アイチュタトウチャーロー。(わたしもまだ[この付近に]出歩いていたので来たよ。)

・イー。ナツパンツカイ イチドゥン シューラバ
ジーマミー フッターマ ムチチ アユツトウ
ワラビンツチャンカイ ムツチ イツチバ。(ええ。

那覇に行ったならば、落花生を少しばかり取って来
てあるから、子供たちに持って行ってくれ。)

・トー、ツニャンマヌ ユーヤ トウシユイ タカラ
ヤユツトウ ウタキー テーシチシー ゲンキ
ナヨーラシヨー。(それで今の世の中は年寄りが宝な
んだから、大いに大切に、元気になるようにな
おしなさいよ。)

【2】述語用法

(該当例なし)

【3】文末用法

・ウリン ナゲナゲヌ ヤニー ヤ^ツタシガ ^ツニャ
ー ビョーキネー マキ^ツティ
ウラン^ツトウ。(それも長い長い病いだったが、もう
病気には負けていないので。)

【4】接続詞用法

・アニ ウムユシガ ツニャ ワン ワザ シーアイ
チェチー、ツニャ ヤツトウヨー マタ フヌ ア
トウ フー。(そう思うんだが、まあ わたしは仕事
をやりかけている、まあ だから、またこの次に来
る。)

(1) 沖縄県那覇市久米〔全国〕

○グトウが用いられている。

【1】従属節用法

・アン シルンセー ウヌ トゥーロー ワッター
チョーレー ウフスタグトウ シ [グ] チョーレー
ヌチャ カンシ ナー ナーカマーシ ッシ……。
(そうするとそのアンドンはわたしたちのきょうだ
いが多かったからすぐきょうだいたちがこうしても
うとり囲みして……。)

・ナー、ヨージョー チャール クトゥン ソーミ
セーグトウ ヤスンジミセーセー ヤサタイ。(もう、
養生はどんなこともなさったのであきらめなさるこ
とですよ。)

【2】述語用法

(該当例なし)

【3】文末用法

(該当例なし)

【4】接続詞用法

(該当例なし)

(m) 沖縄県糸満市糸満〔全国〕

○クトウが用いられている。ヤクトウやヤタクトウ
などの用例が多く見られる。

【1】従属節用法

・クーヤ イユグワー ネーンクトウ タカウイ
グワー ッシ トウラサリリヨー。(今日は魚がない
から高値で売ってくださいよ。)

・エー。クンロー ヤーガ イーンネー ッシ サ
キグワーヤ スーイサンヨーイ チューイサーイ
ナー ヌマン ナタクトウ ジヌン モーキヤッチ
ヤイ マタ サキン ヌマンタクトウ クェートウ
ンロー ハーメー。(おい。今度はおまえが言ったよ
うに酒は注意してもう飲まなくなったから、
お金ももうけやすく、また酒も飲まなかったのでふ
とったよ、おばあさん。)

【2】述語用法

(該当例なし)

【3】文末用法

・イッチュ ヌマーマ アイカール カンゲーヤク
トウ、アカヒギグワータルーヤ。(いっしょに飲んで
あやかるつもりだから、赤髭の太郎は。)

・ンムグワー ムツチャッカビータクトウ。(サツマ
イモを持って歩いていましたから。)

【4】接続詞用法

(該当例なし)

(n) 沖縄県知念村(現・南城市知念)久高〔全国〕

○クトウが用いられている。

【1】従属節用法

・ウミチ イメンスアコー イユグワー ニサンギ
ノー チューモン スアシビークトウ ムツチチ
スウラシン スォーリッチリ エービンタル。(海へ
いらっしゃるなら魚を2、3斤は注文しますから、持
って来てくださいということでした。)

【2】述語用法

(該当例なし)

【3】文末用法

・チョーレンシャーガ マーナカイ ハッキトウー
ンドーリ チカスクトウ……。 (兄弟たちがどこに隠

れているよと聞かせるから……。)

・ウマン ウメー ナー アッキマーティ ナー
アッキスクロー ネーンクトウ。(その海はまあ歩
き回ってまあ歩くところはないから。)

【4】接続詞用法

(該当例なし)

(○) 具志川村仲泊(現・久米島町仲泊)〔全国〕

○クトウが用いられている。ヤクトウやアンサビー
クトウの用例が見られる。

【1】従属節用法

・サキヌ サシミグワー エーティ ウサギヤビク
トウ メッソーリヨ。 (酒の肴を特別にお出ししま
すから、いらっしやって下さいね。)

・ナー トウシヌ トウシ ヤクトウ ナー ダテ
イン タンキトゥル。(もう年が年ですからもう大変
注意している。)

【2】述語用法

(該当例なし)

【3】文末用法

・キーヤ ワッタームン シミソーチ アチャー
マタ ワッター オトーン ウンズチャーカティ
アラサビークトウ。(今日は私たちもの《畑》をやり
まして、明日はまた私たちのお父さんもあなたの所
に行かせますから。)

【4】接続詞用法

・アンサビークトウ、ナー アミ フリバ チュク
イムンテー マシ ヤビーシガ ヤー。(そうなんで
すよね、もう雨が降れば、作物などにもいいんです
けどねえ。)

*『日本方言大辞典』の関連形式と使用地域

くとう 沖縄県首里

《参考文献》

国立国語研究所編(1963)『沖縄語辞典』大蔵省
印刷局

高橋俊三(1972)「琉球方言の助詞『こと』『も
の』について」『国際大学国文学』第四巻

野原三義(1998)『新編 琉球方言助詞の研究』
沖縄学研究所

〔方言文献資料目録〕

資料 01: 長田須磨・須山名保子・藤井美佐子(1980)

『奄美方言分類辞典 下巻』笠間書院

資料 02: 菊千代・高橋俊三(2005)『与論方言辞典』
武蔵野書院

資料 03: 仲宗根政善(1983)『沖縄今帰仁方言辞典』
角川書店

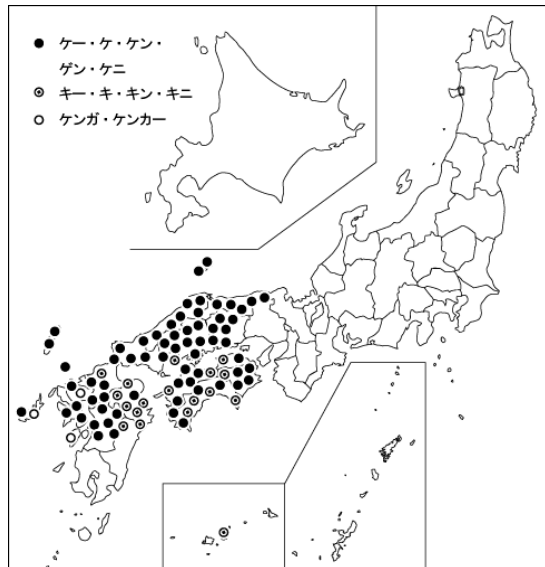
資料 04: 伊是名島方言辞典編集委員会(2004)『伊
是名島方言辞典』伊是名村教育委員会

(仲原 穰)

ケー【接続助詞・原因理由】

ケ・ケン・ゲン・ケニ・ケーニ・キー・キ・キン・
キニ・ケンガ・ケンカー・ケデ

【分布】



(GAJ33 図「雨が降っているから行くのはやめろ」より)

○九州、四国、中国地方および兵庫県北部にわたる西日本一帯でケー・ケ・ケン・ゲンが使用されている。

○高知県にキー・キ・キン・キニがある。キー・キは大方県、福岡県、宮崎県、沖縄県で、キン・キニは広島県、愛媛県・香川県・徳島県でも使用される。

○ケニは香川県、徳島県、高知県に見られるほか、岡山県、山口県、島根県隠岐諸島、富山県にも散見される。(⇒[共通調査]、方言文献資料c、d)

○長崎県、佐賀県、熊本県にはケンガ・ケンカーがある。これはケンとカラの複合・混交形だと考えられる。ケンカーは方言文献資料eに見られる。

【意味用法】

○原因・理由の接続助詞。から。ので。

○従属節用法では、(1)事態の原因、(2)行為の理由、(3)判断の根拠、(4)発言・態度の根拠、(5)理由を表さない用法のすべてをカバーしている。

○述語用法での使用も可能である。

○文末用法では、倒置も終助詞的用法も可能である。

○接続詞用法での使用も可能である。

【接続】

○活用語の非過去形／過去形に接続する。中国・四国・九州地方ではナ形容詞のナ終止形にもつく。ただし石垣市のキー・キは接続形（中止節を作るテに続く形）に接続する。(⇒方言文献資料g)

○推量形への後接には方言差がある。(⇒[共通調査]《補説》)

○丁寧形にも後接する。

【語誌】

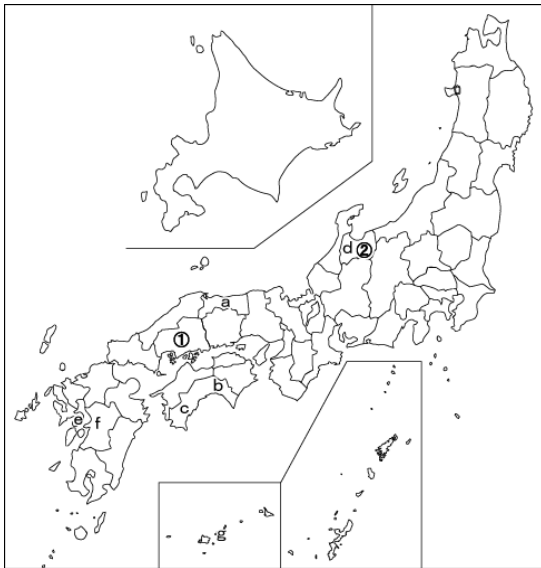
○ケー類の語源については、「からに」出自とする説、「境（さかひ）に」説、「故（け）に」説などがある。

○ケー類の語源が「からに」であるとする説をとると、西のケー類と東のカラとが近畿地方のサカイをとり囲む周囲分布と見なせる。しかしカラニからケーニへの音の変化に整合性がないなど、説明の難しい点が残る。

○「さかひに」説の場合、近畿地方の優勢形式サカイニを西日本にも広く伝播したものと捉えることは合理的である。ただし東日本に伝播したサカイ類は語頭音にサやハが残っているのに対して西日本ではこれが消失している点などの説明が困難である。

○「けに」説の場合、西日本だけでなく富山にあるケニも同系として、ケニをサカイ以前に分布していた形式と見なせ、またケニからケン、キニなどへの音変化も説明しやすい。ケー類使用地域で、老年層はケニを使用するが若い世代はケニ不使用との報告もある。ただし『日葡辞書』で卑語とされた形式が接続助詞として広まったことになる点に疑問が残る。

〔報告地点〕



(丸数字:共通調査 アルファベット:方言文献資料)

①広島県三次市

②富山県立山町

a 鳥取県倉吉市国分寺〔全国〕

b 高知県香美郡美良布町(現・香美市)〔全国〕

c 高知県幡多郡大方町(現・黒潮町)〔全国〕

d 富山県氷見市飯久保〔全国〕

e 長崎県南高来郡有家町(現・南島原市)〔全国〕

f 熊本県熊本市中唐人町〔全国〕

g 沖縄県石垣市登野城(石垣島)〔全国〕

〔共通調査〕

〔1〕従属節用法

(1)事態の原因

・マイニチ アメガ フルケー センタクモンガ
カワカンネー。(広島県三次市)

・マイニチ アメア フル {ケニ / モンダケニ} セ
ンタクモンナ カワカン {ジャイ / チャ}。(富山県
立山町)

(2)行為の理由

・タイチョーガ ワルイケー シゴトオ ヤスムコ
トニ シタンヨ。(広島県三次市)

・カラダノ チョーシア ワルイ {ケニ / モンダケ
ニ} シゴト {ア / オ / φ} ヤスムコトニシタ
チャ。(富山県立山町)

(3)判断の根拠

・ホシガ デトルケー アシタモ イー テンキニ

ナルジャローネー。(広島県三次市)

・ホシヤ デトルケニ アスモ テンキ イーチャ。
(富山県立山町)

(4)発言・態度の根拠

・アブナイケー コノ カワジャー アソビンサン
ナ。(広島県三次市)

・アブナイケニ コノ カワデ アソバレンチャ。
(富山県立山町)

(5)理由を表さない用法

・スグ モドッテクルケー ココデ マットッテ
ネ。(広島県三次市)

・スグニ カエッテクッケニ ココデ マットッテ
クレッシヤイマ。(富山県立山町)

〔2〕述語用法

・A「キブン ワルイ。」B「アンナニ エット ノ
ムケーヨ。」(広島県三次市)

・A「キブンナ ワルイナ。」B「アンナニ イッ
パイ ノムケニデヤガヨ。」(富山県立山町)

〔3〕文末用法

(1)倒置

・ココデ チョット マットッテ。 スグニ モド
ッテクルケー。(広島県三次市)

・ハー ココデ チョット マットッテクタハレヨ。
スグ モドッテクルケニ。(富山県立山町)

(2)終助詞的用法

・アトデ モー イッカイ デンワ スルケー。(広
島県三次市)

・アトデ モー イッペン デンワシマスケニ。(富
山県立山町)

〔4〕接続詞用法

・サイキンワ マイニチ アメガ フル。 ジャケ
ニ センタクモンガ カワカンノヨー。(広島県三
次市)

・スグ モドッテクッチャ。 ダケニ ココデ マ
ットッテクレッシヤイヨ。(富山県立山町)

《補説》

○広島県三次市のケーは、伝聞・推定・推量・丁寧
などのモダリティ表現にも後接する。

○富山県立山町のケニは、伝聞・推定・丁寧などの
モダリティ表現には後接するが、推量表現には付き

にくい。ただし、否定推量「～ンマイ」と「名詞＋ダロー」にはケニが付くことがある。

- ・×アメ フローケニ カサ モツケヤ。(富山県立山町)
- ・タイシタ アメニチャ {ナランマイケニ／×ナランマイローケニ} カサ モツケカンチャ。(富山県立山町)

○接続詞用法のうち、前件・後件の間に話者交替があり、後件の結論部分を略して「だから？」のように上昇調で相手に問い返す表現（聞き手に結論を求める用法）には、ジャケーは不自然である（共通調査の調査項目 3・2・2）。この点で標準語の「だから」の機能よりも狭いといえる。

A「タイヘンジャー。アメガ フツエキター。」

B 1「ジャケー ドーシタ ユーン。」

B 2「ジャケー ナンナン。」

B 3「×ジャケー？」（広島県三次市）

○ケー類は一般に名詞・指示詞に続く場合は指定辞を介するが、指定辞を介さずに使われるところもある（『日本方言大辞典』）。

- ・「そうけん（そうだから）」（新潟県佐渡島）
- ・「そりきー（それ故）」（大分県）

【方言文献資料】

（a）鳥取県倉吉市国分寺〔全国〕

○ケー・ケ・ダケが多く用いられる。

○一例だけスケが見られる。

○接続詞は1例あるが、ダキヤーが用いられている。

【1】従属節用法

- ・ハットリ キナハットキダー ハットリー キナハル トキニ アノー シミ アノー ミセーナー ア オダノー オダノ ミセ アスコニ オチツキナッタダケ サー シューゲンダットコデ ミニイッタジェ。（服部に来られるときにあの店にね、小田の、小田の店、あそこに落ち着きになったので、さあ祝言だと言うので見に行っただよ。）
- ・コキツァン タノムケニ ナンダー カラサオヒトツ カシテーナ。（幸吉さん、頼むから、あの、からさおをひとつ貸してくれませんか。）
- ・サーイナー エーヨーナ ハナショ キイトッタダケ コガーニ ハヤー シンナハラートワ オ

モットラナンダニ。（そうですね、（具合が）いいような話を聞いていたから、こんなに早く死になさるとは思っていなかったのに。）

【2】述語用法

（該当例なし）

【3】文末用法

- ・エー イマ チョット ナンダッテ テガ ハナセンケ。（ええ、今ちょっと、何で、手が離せませんから。）
- ・マ イツェクルケナー。（まあ、行って来るからね。）

【4】接続詞用法

- ・アツカッタゾイナー ダキヤー ハヤ シマッテモドッタ。（暑かったともね。だから早くしまつて帰りました。）

（b）高知県香美郡美良布町（現・香美市）〔全国〕

○キニ・キを主に使用している。

○キンが2例、ケンが1例だけ見られる。

【1】従属節用法

- ・ニローノワ ムラガ カミヂャーキニ カミエイケト ユーテ。（菰生野は、村が上だから上へ行けと言って……。）
- ・ホリャ ホンナラ カマボー カマボー ユーテモ ワタシラー ワキヤー シランゾクヂャガ カマト ホノ サスオ モツテ イクキニ カマボート ユー トコロヂャロ。（それはそうなら、カマボー、カマボーといっても、わたしたちはわけはわからないままですが、鎌とそのサスを持って行くからカマボーという ところでしょう。）
- ・アレモ ヒトリヤ フターリノ シコトヂャーエー センケンド ミンナーガ ホリャ セーデヤルキンノーシ ヤレタケンド ナカナカ ヒトリフターリ デキル シゴトヂャ ナイゼヨ。（あれもひとりやふたりの仕事ではできないけれど、みんながそれはいっしょにやるのだからね、やれたけれど、なかなかひとりふたりでできる仕事ではないですよ。）

【2】述語用法

（該当例なし）

【3】文末用法

・ソーヨ ソレガ ソノ ジブンノ エテノガデ
ナイトノーシ ゾンガイ ノーガ ワルイキニ。(そ
うだよ、それが自分の使いなれたものでないとね。
存外ぐあいが 悪いから。)

・ソリヤ オンチャンラガノ ジダイニワ ソーヂ
ヤツツロケンド アタシラガノ ジダイニワ キカ
イソガ デキチョッタケンノーシ。(それはおじさ
んたちの時代にはそうでしたらうけれど、わたした
ちの時代には、紡績糸ができていましたからね。)

・ソリヤ アー イマカラ ユータラ エライ ド
ンナ モノヂャケンド ソリヤ ソノ ヨヂャキニ
ノーシ。(それはいまから言ったらたいへんのろく
さいものだけれど、それはその時代だからね。)

・チカゴロ ナカナカ ヨー ナッタキニノーシ。
(近ごろなかなかよくなりましたからね。)

【4】接続詞用法

(該当例なし)

(c) 高知県幡多郡大方町(現・黒潮町) [全国]

○ケニとケンを使用している。談話の前半の自由会
話ではケニ、後半の場面設定のある会話にはケンが
多くなる傾向が見える。

○接続詞にはヂャケンが使われている。

【1】従属節用法

・エーオンチャンワ アメリカイモ イチョッタ
ヒトヂャケニ ウソイーヂャ ユーテ ミンナ イ
ーヨッタガ イマヂャ チヤント ココラモ シゴ
ト スルニ クツ ハクヨーニ ナッテノー。(「え
えおじさんは、米国へまで行っていた人だからうそ
つきだ」と言って、(そのころ)みんな言っていた
が、いまでは、ちゃんとここらも仕事をするのに靴
をはくようになってねえ。)

・アレオ エー カワンモンヂャケニ ゴーリノ
ウライ ブリキガンオ ヤブッテノー ソイトー
ハイタ コトガ アラー。(あれ(雪駄)を買うこ
とができないもんだから、ぞうりの裏に、ブリキか
んを破ってねえ……。それをはいたことがあります
よ。)

・ヒサシカブリニ デキタガヂャケン コンドラ
チッター シルシバーデモ シャーガ イクカイノ
ー。(久しぶりにできたのだから、こんどは少しは

印ばかりでも(お祝を)しなくてはならないかねえ。)

【2】述語用法

(該当例なし)

【3】文末用法

・キョーワ エ ホンマニ コリヤー エライ カ
ゼデー ヒヤイケニノー。(きょうはほんとにこれ
はひどい風で寒いからねえ。)

・オーキニ オーキニ アノー マ モンタ トー
ジヂャケン マー ニサンニチ オチツイチョイテ
カラ マタ ヨセテ モラウケン。(どうもどうも。
まあ、帰って来たばかりだから……。まあ2・3日落
ちついてから、また寄らせてもらうから。)

【4】接続詞用法

・ヂャケンノー ドコカシコ イタチ イッコ ソ
ノ ミンナニ シンパイ スルニヤー ヨーバン。
(ええ、だからねえ、どこへ行ったといってもいつ
こうみんなに 心配するにはおよばない。)

・ヂャケン マー ウルソーテモ デテ イカナ
イカナノー。(だから、まあ骨が折れても出てい
かなければいけないのさ。)

(d) 富山県氷見市飯久保 [全国]

○サカイ系の形式(サカイ・サカイニ・スケ)とケ
ニ系の形式(ケニ・ケネ・ケー・キニ)、デ系の形
式(デ・ガデ)を使用しているほか、ケデも見られ
る。

○ケデはケニやケーの「ケ」と「デ」の混交形と考
えられる。

【1】従属節用法

・ソ タイソナモンヂャケニ タベルトキニ ナ
ーム チロエガ イトワンガエトコト ソノ カツ
コト イヤンモンヂャサカイ。(そう、(米つきは)
たいへんな労働だから、食べるときになにも白いこ
とが気にならなかったですよ、米つきがつらいもの
だから。)

・イヤー イノスビモ トッタス ソイカラ アン
ター オトコヤキニ ホール コメ カッタネー
ケ カツウス ナカエーエ コメ エレテ。(いや、
いのしべもとったし、それから、あなた、男だから、
ほれ、米をついたものだ、つき臼の中へ米を入れて。)

・ハー アツカレド イマ ウソー ナルモンヂャ

ケデ アヴァテテ。 (うん、暑いけれど、もう遅くなるものだからあわてて……。)

・エ クッ ナヤノ マエニ アルケデー ソレカタンデ イツテクダッセ。 (はい、くわは納屋の前にありますから、それをかついで行ってください。)

【2】述語用法

(該当例なし)

【3】文末用法

・ダッチャ パバー ナンウ ソルガー ムカシノガー オモタッチャー ホントニ イマノシューワー ダークナ コッチャナート モーテ ソル クチー ダエテ イオーモンナラ ダエソードノモンジャケネ (笑)。 (だから、わたしはね、それが、昔のことを思ったらほんとうにいまの人たちは楽なことだなと 思って (いますが)、それを口に出して言おうものなら、大騒ぎものだからね。)

・ホンドニユー マー ハヤガト マイトキヤー イーソナケデー。 (ほんとうに、まあ早めにまいておけばいいそうだから……。) (注: 「ハヤガト」は「ハヨナト」の誤り)

【4】接続詞用法

・ホントネー ジャケニー イマノー イマノシュアー ムカシノ コトー ワロウエドー ショヤエドー ムカスー タイソー シテキタサカイニ ヤッパル ナンデモ オモイダエテヤー ソノーオイマノシュワ ラク スルナト オムコトアル。 (ほんとうです。だからいまのいまの人たちは昔のことを笑うけれど、でも昔苦勞してきたから、やはりなんでも思い出しては、いまの人たちは楽をしているなと思うことがあります。)

(e) 長崎県南高来郡有家町 (現・南島原市) [全国]

○ケン・ケンカーを使用している。

○ケンカーは「ケン」と「カラ」の複合・混交形と考えられる。(⇒カラ参照)

【1】従属節用法

・(略) モー アタ タナニ アゲトル モンガ カタカタ アエーチ モー アンマル コー ウカウカシタモンジャルケン ハハー イマガ ヨノナカ

シ カヤルトバイナテ コー ワシヤ オモータゴタル フージャッタデ……。 ((略) もうあなた、棚に上げてある物がかたかたと落ちて、もうあまりこう驚きあわてたものだから、「ははあ、いまが世の中がひっくり返るんだな」と、こうわたしは思ったようなことでしたよ。)

・ヘー マタ アウヤンヒョーケン アータ ヨロシユー モシテ オクレンナヘー/ (ええ、また会いましょうから、あなた、よろしく申してください。)

・アッテー ウ ワンノ タノーダケンカー モサカンパッドミヤー コリヤ ドッサル カテチコーチキタタイ。 (おまえが頼んだから、もう魚鉢などたくさん加えて買ってきたよ。)

・イエーノ ナカケンカ ヤッパー キモーチャヨーガヘントヤモン アスコワ。 (家がないから、やはり気持ちがよくないですもの、あそこは。)

【2】述語用法

(該当例なし)

【3】文末用法

・コガミチャー ナンカ モンデヒケンナイー。 (小川道は長いものですからねえ。)

・ソーデヒナイー ソンナリヤ ワタヒガ アーキンジョバー シンパイシテー タノージミヤヒケン。 (そうですね。それではわたしが近所を手配して頼んでみますから。)

【4】接続詞用法

・デヒケンカー マーダ ジシンノ ジブンナ ドーザクマデーデシタモンナイー。 (ですから、まだ地震の時分には堂崎まででしたものね。)

(f) 熊本県熊本市中唐人町 [全国]

○ケンを中心に使用している。

○「モン」に付いたモンダケンが使われることも多い。

【1】従属節用法

・ソールバー ワタシ ヤッテ イナハルケン モタイーシェツナコッテ ソギヤントバ モローテビョーキドン スンナラテ。 (それをわたしにしてくれると言われるから、もう「まっぴらごめんだよ、そんなものをもらって病気でしたら (大変だ)」と……。)

・コッチガ ショーカノ フルマチガ ショーカノ
オーカッタケン ショーバイ ミナライテ ユーテ
ウリヤイヨラシタ。(ここらは商家が、古町は商家
が多かったの、商売見習いといってふれ売りにや
られたものでした。)

【2】述語用法

(該当例なし)

【3】文末用法

・ダケン ヤッパ サンセンノ チクワー カウ
ホガー アクルヒマデデン ネマランワケダイ ト
ーフノ スクニャーモンダケンナ。(だからやはり3
銭の 竹輪を買う方が翌日まででも腐らないわけ
ですよ、とうふが少量いものですからね。)

・コンヤワ ユルット トマツチクルケンネー。
(今夜はゆっくり泊まって来るからね。)

【4】接続詞用法

・ソッダケン アンマル ココジャ ツレン。(そ
れだからあまりここではつれない。)

・ダケン モ ナーンサマ ノミキラン サケバ
ノーデ ヤタラ オドツタイ アータ モ ホナー
ニ。(それだから、もうなにしろ飲めない酒を飲ん
で、やたらに踊りましたよ、あなた、もうほんとに。)

(g) 沖縄県石垣市登野城(石垣島) [全国]

○キだけでなく、カラ、ダ、バ、ニャ(リャ)も併
用している。

○キは接続形(中止節を作るテに続く形)に後接
する。

【1】従属節用法

・hwsaN 'ariki mada 'aQcanu sigutuN 'ukurisoR
'aNma(暗いので、またあすの仕事が遅れるよ、ね
えさん。)

・'ebiseN 'arī mada bisukituN 'ariki zireRrubaN
mucī 'iki saNdīR(えびせんがある。またビスケッ
トもあるから、どちらでも持って行け、サンデ。)

・banaR kijuRja sigutoR cuRsaRriki pa'isaR
harabadī jasuNga NboN hunajaRta(わたしはきよ
うは仕事もたてこんでいるから早く行かないといけ
ないが、弁当を入れたか。)

【2】述語用法

(該当例なし)

【3】文末用法

(該当例なし)

【4】接続詞用法

・'aNziki jaRNgareR mada meR 'ujanu meRja meR
bugarisjarī basjoRja mana juku'i juku'ide
'aNgoRta sīNgadī keRraNneRra dusuzaRN
jarījuNkara meR 'umusaRN siri bagadaR
ma'inaci 'aNzi hariri bugarisideN bagadaR noRN
sisidaR waRraR(だから家ではまたね、親はね、疲
れたときはだめだ、休め休めとおっしゃいましたが、
みんなは仲間だからね、楽しくして、わたしたちは
毎日そのように行って疲れたとはわたしたちはなに
も感じなかったよね。)

・'aNziki 'izareR waR sa'isa'i waR 'izaridaRraR
waR(そうだから、しかられて、おまえ、いつもお
まえしかられただろう、おまえ。)

*『日本方言大辞典』の関連形式と使用地域

けん 《けー》新潟県三島郡、兵庫県美方郡、鳥取
県東部、島根県、岡山県、広島県、山口県、徳島県
海部郡、愛媛県、福岡県浮羽郡、長崎県対馬、大分
県、宮崎県西臼杵郡 《け》新潟市、奈良県吉野郡、
山口県大島、高知市、福岡県小倉市・企救郡、長崎
県対馬、宮崎県西臼杵郡 《けん》新潟県佐渡島、
兵庫県加古郡、鳥取県西伯郡・日野郡、島根県、岡
山県、広島県、徳島県、香川県、愛媛県、高知県、
福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県下益城郡・天草郡、
大分県、宮崎県日南市・西臼杵郡 《けん(指定辞
がないもの)》新潟県佐渡島 《けに》新潟県佐渡
島、富山県砺波、鳥取市、島根県安来市・隠岐島、
岡山県、広島県賀茂郡、山口県、徳島県、香川県、
愛媛県伊予郡・喜多郡、高知県、福岡県粕屋郡、長
崎県壱岐島 《けね》富山県 《けで》富山県 《け
れ》愛媛県 《けーに》岡山県真庭郡、長崎県壱岐
島 《きー》高知県、福岡県、佐賀県、長崎県対馬、
熊本県阿蘇郡、大分県、宮崎県西臼杵郡、沖縄県石
垣島 《きー(指定辞がないもの)》大分県 《き》
愛媛県周桑郡・喜多郡、高知県、福岡県築上郡、大
分県大分郡・日田郡、宮崎県西臼杵郡 《きん》岡
山県児島郡、広島県大崎上島、徳島県美馬郡、香川
県、愛媛県周桑郡 《きに》新潟県佐渡島、福井県

足羽郡、岡山県児島郡、徳島県美馬郡、香川県、愛媛県、高知県 《けんが》福岡県八女郡・山門郡、長崎県東彼杵郡、熊本県玉名郡 《けんで》福岡県南部、長崎県長崎市・壱岐島、熊本県 《けんでー》佐賀県東松浦郡 《けんぞ》長崎県壱岐島

《参考文献》

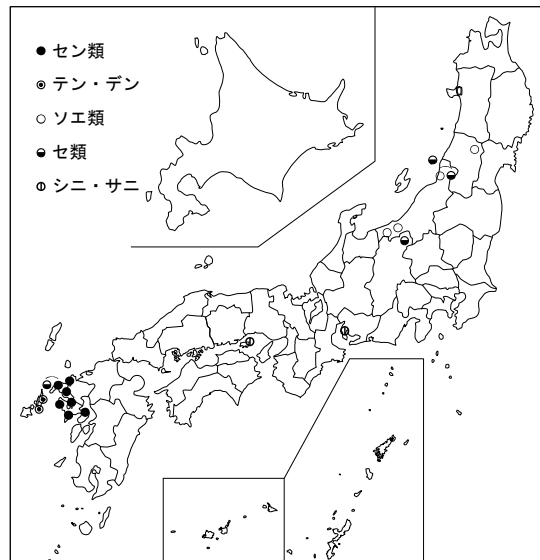
- 内間直仁（1984）『琉球方言文法の研究』笠間書院
 瀬戸口俊治（1982）「15 内海諸島の方言」『講座方言学 8 中国四国地方の方言』国書刊行会
 土井忠生他編訳（1980）『日葡辞書』岩波書店
 彦坂佳宣（2001）『全国方言地図と文献との対照による助詞・助動詞の発達・伝播に関する研究』科研費成果報告書
 ———（2005）「原因・理由表現の分布と歴史—『方言文法全国地図』と過去の方言文献との対照から—」『日本語科学』17号

（船木礼子）

セン【接続助詞・原因理由】

シェン・センカ・センカー・シェンカ・シェンカー・テン・デン・ソエ・ソイ・サエ・シャエ・セ・セニ・セー・セーネ・セーデ・セニ・シニ・サニ・エニ・エネ・ソエネ

【分布】



（GAJ33 図「雨が降っているから行くのはやめろ」、37 図「子供なのでわからなかった」より）

○セン類としてまとめたものは、セン・シェン・センカ・センカー・シェンカ・シェンカーであり、長崎県に分布する。

○セン類分布の西側、長崎県五島列島にテン・デンが分布する。

○ソエ類としてまとめたものはソエ・ソイ・サエ・シャエである。山形県北東部と、新潟県北部・西部に分布する。

○セ類としてまとめたものはセ・セニ・セーである。セ・セニーは新潟県北部と粟島で、セーは長野県北部に分布する。方言文献資料 d に見えるセ類の形式にはセーネ・セーデがあるが GAJ には現れていない。

○シニは香川県小豆島に、サニは愛知県知多市に分布する。

○エニ、エネ、ソエネは新潟県西部に分布する。エニ・エネは方言文献資料 b に、ソエネは方言文献資料 c に見え、GAJ には現れていない。

【意味用法】

○原因・理由の接続助詞。から。ので。

○従属節用法では、(1)事態の原因、(2)行為の理由、
(4)発言・態度の根拠、の用例がある。(3)判断の根拠
と(5)理由を表さない用法の用例は見られない。

○述語用法の用例は見られない。

○文末用法での使用がある。

○接続詞用法での使用がある。

【接続】

○活用語の非過去形／過去形に後接する。

○丁寧形に後接する。

○推量形への接続の用例は見られない。

【語誌】

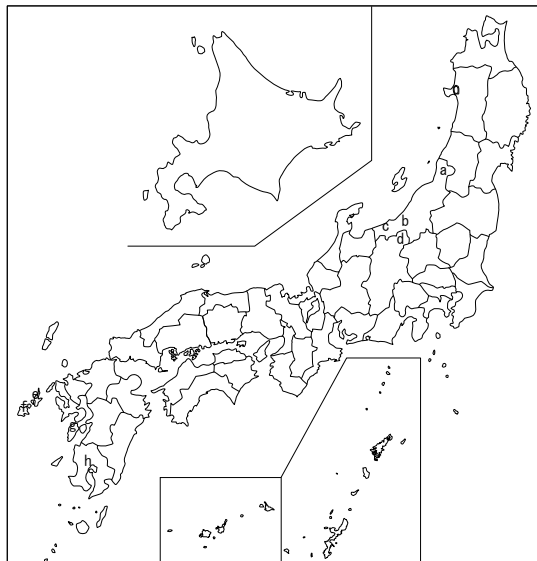
○語源についてはさまざまな説があるが、未だ明らかではない。

○センの語源には以下の諸説がある。

- ・サカイを語源とする音変異形である。
- ・古語の「そゑに」を語源とする。
- ・佐賀県下で共通語のセイ(所為)と関係のあるセーニ(例「才前ノセーニ損バシタ」)という形式があるが、そのセーニが長崎県下ではセンとなり接続助詞化した。
- ・九州方言の方向格助詞「さまに」が接続助詞化した。いずれも推考の余地があり、センの語源は明らかにはされていない。

○テンは、逆接の「のに」にあたるトニから転じたテ(一)が順接になり、そのテ(一)にンが付いて形成されたと言われる。しかし、分布図を参照するとわかるように、センの西にのみ分布し他地域では見られず、センの音変異形である可能性も考えられる。

【報告地点】



(アルファベット: 方言文献資料)

- a 新潟県岩船郡朝日村高根 (現・村山市) [全国]
- b 新潟県柏崎市大字折居字餅粮 [談話]
- c 新潟県西頸城郡能生町 (現・糸魚川市) [講座]
- d 長野県下水内郡栄村秋山郷 [資料 01]
- e 長崎県壱岐郡里ノ浦町里舩 (現・壱岐市) [全国]
- f 長崎県福江市上大津 (現・五島市) [全国]
- g 熊本県天草郡苓北町坂瀬川 [資料 02]
- h 鹿児島県鹿児島市 [資料 03]

【方言文献資料】

(a) 新潟県岩船郡朝日村高根 (現・村山市) [全国]

○サニの使用が多い。

○ほかにスケ・スケニ・ンガが使われる (⇒サカイ、ンガ)。

【1】 従属節用法

・ハー アイダ イッテ マズ オーデ コネバ
コッチデ シンペイダサニ マズ イッテ クルワ
(あれです。行ってちょっと会って来ないとこっ
ちで心配ですからちょっと行って来ますよ。)

・アイダ ソレ タヨリ キタサニ マズサ イッ
テ クルワ。(あれです、たよりが来たので、ち
ょっと行って来ますよ。)

・ヘー ンダラ ソイデ ネダンナ リーサニ サ
ンビヤクメモ ンダラ ユズツテ クダセーチャ。
(それならそれで値段はいいですから、三百
円もそれでは譲ってくださいね。)

・マーチト ゲーダバ ヨガッダノ ドーモ コーモ ナンネイサニ マズ ミンナ セーワン ナッテ マズ タデデ エガネバ ネーコデ ドーモ コーモ ナンネーガ。(もう少し丈夫だったらよかったのに、どうにもこうにもならないので、みなさんのお世話になって、家を立てていかなければならないことで、どうにも こうにもなりませんよ。)

【2】述語用法

(該当例なし)

【3】文末用法

・クサゴエバリ シーテナー シタンダサニ。ニサンボ タデテ ホントニ カッタンダサニ。(草肥えばかりやってね、作ったんだから。二、三本のびさせて本当に(そんなのを)刈ったんだから。)

【4】接続詞用法

(該当例なし)

(b) 新潟県柏崎市大字折居字餅糠〔談話〕

○エニという語形が使われている。

○他にンガ、スケが使われている。(⇒ンダンガ、サカイ)

○〔講座〕に、おそらく同地点で同話者より得られた方言文例と共通語訳と解説が掲載されているので、以下に引用する。

「エニ 明治三四年生まれの女性が友人に

アメバッカ フッテマスエネ ソトエモ デランネアシ(雨ばかり降っていますので外にも出られないし)

と言っていた。エネはエニとも言い、刈羽郡高柳町にもある老人語である。意味用法は共通語のノデに似ている。」(〔講座〕6, p270)

【1】従属節用法

(該当例なし)

【2】述語用法

(該当例なし)

【3】文末用法

・ダ マタ アノ コンスキテノワ マタ アラーアレダスモンガ アノ ラクダシ ムコアーエ ナゲンニワネー ヨケー エクエニ ハー。 ワリアエニ ハヤエー モンデスワネー ハー。(しかしまたあの木鋤というのはまたあれはあれですから、あ

の楽だし、遠くへ投げるにはねえ、余計とぶから、はい。割合に早いものですよねえ、はい。)

【4】接続詞用法

(該当例なし)

(c) 新潟県西頸城郡能生町(現・糸魚川市)〔講座〕

○ソエ、ソエネの用例が見られる。

【1】従属節用法

・アメ フットルソエ ヤメロ。(雨が降っているからやめろ。)

・テンキカ° イイソエネ オラ マチ イッテクルゾ。(天気がいいから私は町へ行って来るぞ。)

【2】述語用法

(該当例なし)

【3】文末用法

(該当例なし)

【4】接続詞用法

(該当例なし)

(d) 長野県下水内郡栄村秋山郷〔資料01〕

○セー、セーネ、セーデの用例が見える。

○ほかにスケァ類(スケァ、スケアー、スケァデ、スケアレ、スケネ)、ンダンガ類(ンダンガ、アンダンガ)が使われている。(⇒サカイ、ンダンガ)

○話者の内省によると、併用しているセー類とスケァ類とンダンガ類には意味の違いがある。「降る」を例に取ると、フロセーとフロスケアーは「降るから」に相当し、フロアンダンガは「降るのだから」に相当するとのことである。(⇒ンダンガ)

また話者の内省では「降るから」に相当するフロセーとフロスケアーの差異は、フロセーの方が古いとのことである。併用しているセー類とスケァ類とでは、セー類による表現の方が古形と判断されている。

【1】従属節用法

・アメガ ゲァネ フロセー カソァ セアーシテエゲ。(雨がひどく降るから傘を差して行け。)

・コノ メカンナ スッケァセーネ ボチャレ。(この蜜柑は酸っぱいから捨てろ。)

・コドシャ オーエチダセーデ ヨアーチャ エーカナ。(今年は大雪だから(春以後の)陽気が良いかな。)

・エチガ ゲァネ フロッケデモ ヘアー フガン

ダシハロエチダセーネ アッチタ コトア ネアー
ナー。(雪がたくさん降ったけれどももう彼岸だし、
春雪だから心配したことはないなあ。)

【2】述語用法

(該当例なし)

【3】文末用法

・エチャ フッテロドモ アッチャ ネア タマリ
ヤーシネアセー。(雪は降っているけれども心配はな
い、つもりはしないから。)

【4】接続詞用法

(該当例なし)

(e) 長崎県壱岐郡里ノ浦町里触(現・壱岐市)〔全
国〕

○セン、セーンが使われている。

○他にケン、ケニ、ケー、ケーニも同頻度使用され
ている。(⇒ケー)

【1】従属節用法

・ナ アスケ ナントンシレン ムンヌ アルセン
イッチョ ノコルセン モッチ オイキナ。(なあ、
あそこにつまらぬものがあるから、一丁残るから持
ってお行きなさいな。)

・マ ベントーワ コケー シコー Cholケ ナー
ニモ オカズ ナカーセー タマゴドン イェー
チ イレ Cholケン ソーシ モ トシウオリヤー
ノンデ ツムルケン ツメト ナルバツテカー
ワカシサマシバ イレ Cholセン モッチ オイキ
ナ。(まあ弁当はここに支度してありますよ、なんに
もおかずがないから卵を焼いて入れてありますよ、
そうしてもう、老人はのどにつかえるから、つめた
くなくても、湯ざましを入れておくから、持っ
てお行きなさいな。)

【2】述語用法

(該当例なし)

【3】文末用法

(該当例なし)

【4】接続詞用法

(該当例なし)

(f) 長崎県福江市上大津(現・五島市)〔全国〕

○テン、テンカという語形が使われている。

○他に出ている形式はケン 1 例のみで、テンが最も

使用されている。

【1】従属節用法

・ワエ ソリャ キョーワ アツカテン ウルッ
ドダイ キバツテ イッテ コヨー。(そう、そりゃ
今日は暑いから売れるだろう、精を出して行って来
なさい。)

【2】述語用法

(該当例なし)

【3】文末用法

(該当例なし)

【4】接続詞用法

・オヤドガ シテミセジャー ニンゲンナ スット
ター。ホンチャテン ムカヒノ ジューギオ フ
スットト イカントヨノ。(親たちがしてみせなけれ
ば人間はするものですよ。それだから、昔の流儀を
捨ててしまうとイケないのですよね。)

(g) 熊本県天草郡苓北町坂瀬川〔資料02〕

○シェン、シェンカという語形が使われている。

○他に使われている形式にはケンがある。シェンに
比べてケンは新来の形式であり、他郷人を意識した
敬体の表現にケンが出やすいのに対し、シェンは親
しさが増すと使われると指摘している。同様のこと
は長崎県西臼杵半島でも見られることを、上野智子
(1979)を引きながら示している。

【1】従属節用法

・ソリョー マイーニチ ノグヨーッタシェン モ
ー アンタ ヒカリカタガ ヒカリカタ。(それを毎
日拭いていたから、もうねえ、光ること光ること。)

・ヂェン モタンヤッシェン イカンヤッター。(お
金を持っていなかったから行かなかった。)

・ヂキ イクシェン マットケ。(すぐ行くから待っ
ている。)

・コンヤ オスー ナルシェンカ メシャー クー
トケ。(今夜(帰りが)遅くなるからご飯は食べてお
け。)

【2】述語用法

(該当例なし)

【3】文末用法

(該当例なし)

【4】接続詞用法

(該当例なし)

(h) 鹿児島県鹿児島市〔資料 03〕

○セーの用例が掲出されている。用例として出ている「セエ」に併記されている発音記号は[see]で、「セー」に併記されている発音記号は[se □]だが、調査時に得られた発音の違いであり、二重母音か長音かによる弁別はないと見られる。

【1】従属節用法

アッガ イテッセエ アルッガ ナラン(足が痛いので歩けない。)

ビンタガ イテッセー オキキラン(頭が痛いので起きられない。)

【2】述語用法

(該当例なし)

【3】文末用法

(該当例なし)

【4】接続詞用法

(該当例なし)

*『日本方言大辞典』の関連形式と使用地域

せん 《せん》長崎県、熊本県天草郡 《せんか》長崎県・佐世保市 《せんかで》長崎県 《そえで》新潟県佐渡島 《そい》新潟県糸魚川市・西頸城郡 《せー》青森県、岩手県、秋田県、静岡県、岡山県、香川県、長崎県、熊本県、鹿児島県 《せに》香川県・小豆島 《せーに》岡山県和気郡 《すえに》長崎県壱岐島 《しに》香川県大川郡 《さに》新潟県、山口県 《せで》青森県南部、香川県仲多度郡 《せでが》秋田県 《せーで》鹿児島県肝属郡 《へーで》岩手県九戸郡

《参考文献》

上野智子(1979)「長崎県西臼杵半島方言の接続助詞「から」「けれども」について」『広島大学文学部紀要 39』

上村孝二(1983)「1 九州方言の概説」『講座方言学 9』国書刊行会

小林好日(1950)『方言語彙学的研究』岩波書店

原田芳起(1953)『熊本方言の研究』(郷土文化叢書 第4篇)日本談義社

〔方言文献資料目録〕

資料 01: 馬瀬良雄他執筆・長野県編集(1992)『長野

県史 方言編』長野県史刊行会

資料 02: 神部宏泰(1992)『九州方言の表現論的研究』和泉書院

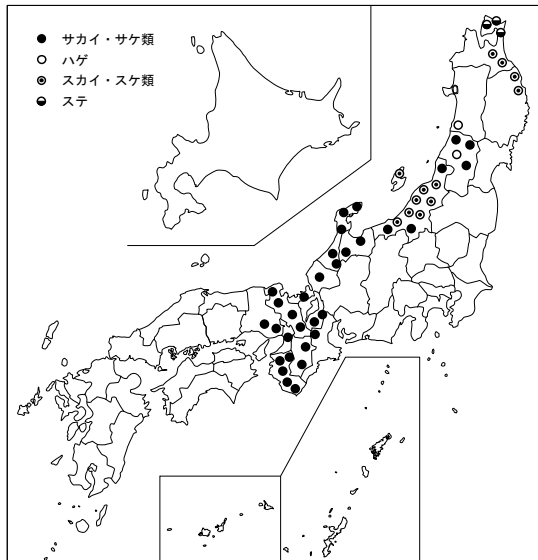
資料 03: 平山輝男他編(1992-1994)『現代日本語方言大辞典』明治書院

(吉田雅子)

サカイ【接続助詞・原因理由】

サカイニ・サカライニ・サカ・サカエ・サカエ・サケ
ケー・サケ・シェケ・サゲ・サゲテ・ハゲア・ハゲ・
ハゲッテ・ハゲンデ・スケアニ・スケーニ・スケニ・
スカイ・スケアー・スケア・スケー・スケ・ステ

【分布】



(GAJ33 図「雨が降っているから行くのはやめろ」より)

○秋田県沿岸南部から北陸・近畿地方にかけての地域と青森県・岩手県北部の太平洋岸に分布する。

○サカイ・サケ類としてまとめたものは、サカイ・サカイニ・サカライニ・サカ・サケー・サケ・サゲである。北陸地方から近畿地方にかけてサカイ・サカイニが使用される。富山県にサカライニという形式があるが、サカイニとカラの混交形であろう。サゲは主に山形県で使用される。サカは主に和歌山県南部で使用される。

○秋田県沿岸南部から山形県にかけてハゲが使用される。この地域ではサゲテ・ハゲッテという形式もあるが、これは津軽地方から秋田県にかけて分布するハンデ系の形式とサカイ系の形式との混交形であると見られる。ハゲについても、サゲの語頭の **s** が **h** に変化して生じたと考えられる一方、ハンデ系とサカイ系の形式の混交によって生じた可能性もある。

(⇒ハンデ)

○スカイ・スケ類としてまとめたものは、スケアニ・スケーニ・スケニ・スカイ・スケアー・スケア・スケー・スケである。青森県東南部から岩手県沿岸北

部にかけてスケアーが見られ、新潟県では主にスケア・スケアニが用いられる。

○青森県下北半島にステが見られるが、これもハンデ系の形式とサカイ系の形式との混交形であると見られる。(⇒ハンデ)

○サカエ・シェケは方言文献資料 f に見られる。

○サカエは方言文献資料 e に見られる。

○ハゲア・ハゲンデは方言文献資料 a に見られる。

【意味用法】

○原因・理由の接続助詞。から。ので。

○従属節用法では、(1)事態の原因、(2)行為の理由、(3)判断の根拠、(4)発言・態度の根拠、(5)理由を表さない用法のすべてをカバーする。

○述語用法での使用には、方言差がある。(⇒ [共通調査]《補説》)

○文末用法での使用も可能である。

○接続詞用法での使用も可能である。

【接続】

○活用語の非過去形／過去形に後接する。

○推量形への後接には方言差がある。(⇒ [共通調査]《補説》)

○丁寧形にも後接する。

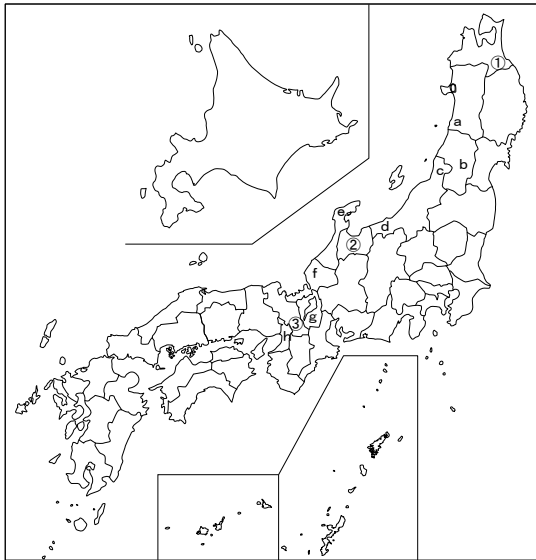
【語誌】

○名詞「境(さかひ)」に由来する。文献上は「さかひ」「さかひに」「さかいで」の形で用いられている。

○室町期の抄物やキリシタン資料から使用が見られるようになる。ただし、初期の使用例は上方文献には多くなく、北陸を中心に編まれた洞門抄物に多くの使用例が見られる。

○近世以降の使用例は上方文献に限って認められ、この時期には、上方語と意識されていたようである。

〔報告地点〕



(丸数字:共通調査 アルファベット:方言文献資料)

①青森県八戸市

②富山県富山市

③京都府京都市

a 秋田県由利郡鳥海町猿倉字芳原 (現・由利本荘市) [資料01]

b 山形県西村山郡河北町谷地 [談話]

c 新潟県岩船郡朝日村高根 (現・村上市) [全国]

d 新潟県糸魚川市砂場 [全国]

e 石川県輪島市名舟町 [全国]

f 福井県丹生郡織田町笈松 (現・越前町) [全国]

g 滋賀県犬上郡多賀町萱原 [全国]

h 大阪府大阪市 [全国]

〔共通調査〕

【1】従属節用法

(1)事態の原因

・マイニジ アメ フルスケ センタグモノガ カワガネー。(八戸市)

・マイニチ アメヤ フル {サカイ／サカイニ} センタクモンナ カワカンナ。(富山市)

・マイニチ アメガ フル {サカイ／サカイニ} センタクモンガ カワカヘン。(京都市)

(2)行為の理由

・タイチョー ワリースケ シゴト ヤスムゴドニシタ。(八戸市)

・タイチョーガ ワルイサカイニ リョコーニワ

イカンガニシタ。(富山市)

・タイチョーガ ワルイ {サカイ／サカイニ} シゴト ヤスマセテモロタ。(京都市)

(3)判断の根拠

・ホシガ デデルスケ アシタモ イー テンキニナルゴッタ。(八戸市)

・ホシガ デトルサカイニ アシタモ イー テンキダロワイニ。(富山市)

・ホシガ デテル {サカイ／サカイニ} イー テンキニ ナルエ。(京都市)

(4)発言・態度の根拠

・アブネースケ コノ カワデワ アソブナ。(八戸市)

・アブナイサカイニ コノ カワデ アソブナ。(富山市)

・アブナイ {サカイ／サカイニ} コノ カワデ アソンドラ アカン。(京都市)

(5)理由を表さない用法

・スグ モドッテクスケ ココデ マッテデケデ。(八戸市)

・スグ モドッテクルサカイニ コノヘンデ マットッテクレ。(富山市)

・スグ モドッテクル {サカイ／サカイニ} ココデ マッテテナ。(京都市)

【2】述語用法

・A「ヒッコシノアト パソコンノ チョーシガ ワルイガヨ。」B「ソリヤ ハコブトキニ オトシタサカイダチャ。」(富山市)

・A「シンドー。」B「アンナ ギョーサン ノム {サカイ／サカイニ} ヤデ。」(京都市)

【3】文末用法

(1)倒置

・コゴデ チョット マッテデ。スグ モドッテ クスケ。(八戸市)

・ココデ チョット マットッテ。スグ モドッテクル {サカイ／サカイニ}。(富山市)

・チョット ココデ マッテテナ。スグ カエッテクル {サカイ／サカイニ}。(京都市)

(2)終助詞的用法

・アドデ モー イチド デンワスルスケ。(八戸市)

・アトデ モイッカイ デンワ スルサカイ。(富山市)

・アトデ モー イッカイ デンワ スル {サカイ／サカイニ}。(京都市)

【4】接続詞用法

・サイキン マイニチ アメダジャ。ダスケ セン
タグモノガ カワガネージャ。(八戸市)

・サイキンワ マイニチ ヨー アメガ フル。ソ
ヤサカイ ナーシ センダクモンナ カワカンガダ
チャ。(富山市)

・サイキン マイニチ アメガ フルヤロ。{ソヤサ
カイ／ソヤサカイニ} センタクモンガ カワカヘ
ンネ。(京都市)

《補説》

○八戸市方言では、原因・理由の形式として、スケ
とガラが用いられている。

○富山市方言では、原因理由の形式として、サカイ・
サカイニ・サカライニ・ノッテ・デ・カラ・ガデ・
ガンデ・モンデ・モンダサカイ・モンダサカイニ・
モンダノッテ・モンダデが用いられている。サカイ
とサカイニが多く用いられ、方言として自然であると
認識されている。本調査の話者の場合、従属節用法
ではサカイニが現れやすく、述語用法、終助詞的
用法ではサカイが現れやすかった。カラは共通語的、
ガデ・ガンデ・モンデはノデに相当する形、モンダ
サカイ等はモノダカラに相当する形である。(⇒デ)

○京都市方言では、原因・理由の形式として、サカ
イ・サカイニ・カラ・ンデ・シが用いられている。(⇒
シ、デ)

○八戸市方言のスケは、述語用法では使用されない。
富山市方言のサカイ(ニ)も述語用法では使用しに
くく、特にサカイニの述語用法の例は得られていな
い。京都市方言のサカイ(ニ)にはこうした制限は
ない。

○八戸市方言のスケ、富山市方言のサカイ(ニ)は、
推量形に後接することができない。京都市方言のサ
カイ(ニ)も、推量形には後接しにくい。

・×アメ フルゴッタスケ カサ モッテゲ。(八戸
市)

・×アメガ フロー {サカイ／サカイニ} カサ モ

ッテケマ。(富山市)

・？ソトワ サムイヤロ {サカイ／サカイニ} ギ
ョーサン キテイコ。(京都市)

【方言文献資料】

(a) 秋田県由利郡鳥海町猿倉字芳原(現・由利本
荘市)〔資料01〕

○ハゲアが用いられている。モンダハゲアの形が多
く見られる。

○一例のみハゲンデが見られる。これは隣接する方
言(秋田県南部方言)で多用されるハンデ系のンテ
とハゲアが混交したものと考えられる。(⇒ハンデ)

【1】従属節用法

・アシタ ケンバヤヨ ヒンジャカンブサ チューシャ
スエガッタンドモ キョー キタハゲア サエネア
シケッタ。(明日来たら、膝に注射をすることができ
ただけけれども、今日来たから、できないって言う
ことだったのよ。)

・コノ シェナガノ アタリ コロット シテルモ
ンダハゲア エダサ ハルナヨ。(この背中あたりに
がころっとしてるものだから、板に張るのよ。)

・ナンボモ カウ ヒトンダンバ クルハゲンデ コ
セアレダンバ ウルエーオノ。(いくらでも買う人な
ら来るから、作れたら売れるもの。)

【2】述語用法

・ンダガ クルマンダハゲアガ。(そうか、車だから
か。)

【3】文末用法

・ンダ ンダ ソゴンダハゲアナ。(そうだ、そうだ、
[すぐ]そこだからな。)

【4】接続詞用法

・ンダハゲア トーニョー ナルアンダドヨ。(だか
ら糖尿病になるんだってよ。)

(b) 山形県西村山郡河北町谷地〔談話〕

○ハゲ・サゲが用いられている。使用例が多いのは
ハゲ。前接要素の末尾母音が[a]である場合に、ハ
が融合を起こしてゲとなる場合がある(ンダハゲ(＝
だから)がンダゲになるなど)。一方、ル語尾の動詞
に接続する場合には、ルが促音化しアッサゲ(ある
から)のようになる。

【1】従属節用法

・オランダ ユワギヤマノ ホーサ ホダエ エカ°
ネハゲ ワガンナエモナエ。(俺達は岩木山の方には
そんなに行かないから、わからないものな。)

・ヤマジャ コノー ノボリクダリ アッサゲ
ホナーテ クタビレンモナヤー。シー。(山はこの登
り下りがあるから、ほんとにくたびれるものね。)

【2】述語用法

・ンダベー ヤッパリ アエツ シカケ° ナルバ
リンナグ ズー スウハゲダモナヤ。(そうだろう、
やっぱりあれは日陰になるばかりでなく、地力を吸
うからだものね。)

【3】文末用法

・ナエンデカンデモ エネナノ イエサ ショッテ
ンダケハゲナエヤ。(何はともあれ、稲などは家に背
負って[来て]だったからな。)

【4】接続詞用法

・ンダハゲ カシエカ° ンナネケツダナナー。(だか
ら稼がねばならなかったわけだよな。)

・ンダゲ オナコ° シューナ ラグデナエツダナナ
ヤ。(だから女の人など[は] 楽でないんだよなあ。)

(c) 新潟県岩船郡朝日村高根(現・村上市)〔全国〕

○スケ・スケニが用いられている。

○ほかにニ・サニが見られる。(⇒ニ、サエ)

【1】従属節用法

・イマワ モトヨカ ンマ ヘーラネースケ ネー
ゾ コギラネバ ネーワ ジーサヤレ。(いまは以前
より馬がはいらないから、ていねいに小切らなけれ
ばなりませんよ、おじいさんよ。)

・ムラガミニ ナニヤブシカタリ キタデスケニ
キギニ イッテ クルワ。(村上になにわぶし語りが
来たそうだから、聞きに行って来るよ。)

【2】述語用法

(該当例なし)

【3】文末用法

・アメア フルド アンジ ゴンダ。 アンダ コ
トワ ソンネ マイドシワ ネーンダスケノ。(雨が
降ると、案じることだ。あんなことは、そんなに毎
年はないのだからね。)

【4】接続詞用法

(該当例なし)

(d) 新潟県糸魚川市砂場〔全国〕

○スケーニ・スカイ・スケー・スケが用いられてい
る。

○ほかにカラ・ソイ・ガデ・デが見られる。(⇒カラ、
セン、デ)

【1】従属節用法

・アキーニ ナルト トリイレニ ナリヤ ヨナ
ベダスケーニ ソノー ヨナベニモ……。 (秋になる
と、取り入れになると、よなべですから、よなべに
も……。)

・ウチニヤー モー アダー アノー アラジョタ
イダスケ フローケドモア サー オラ ウチノ
モナー イキトル アイダ ナカッタナ フロオキ
ヤ。(うちにはもうあれです、新所帯ですから、ふろ
おけなどは、そうですねえ、わたしも夫が生きてい
る間はありませんでしたね、ふろおけは。)

・ハイ アソコニ キャラメル アルスケ ヒトツ
クラサイ。(はい、あそこにキャラメルがあるから、
ひとつください。)

【2】述語用法

(該当例なし)

【3】文末用法

・イヤ ソリヤー ナイガダ。 イマミタイニ ヒ
ラケンスカイ。(いえ、そりゃないんです。いまのよ
うに開けていませんから。)

【4】接続詞用法

・ンダスカイ アカギレダツチャー ソノー ヒビ
ヤー キレルト ビリビリト イターテ フントニ
モー。(だから、あかぎれだという、ひびがされると、
ビリビリと痛くてほんとうにもう……。)

(e) 石川県輪島市名舟町〔全国〕

○サカイ・サカエ・サケー・サケ・スケが用いられ
ている。

【1】従属節用法

・コレ マ サーシブンナイド マ イカンナラン
サカイ サーンナラ。(これは久しぶりですけども、
行かなければならないから、さようなら。)

・ソノ イキジニ ソノ イクモンヤサカエー サ
ケノ キゲンモ アッタンヤテヤ。(その勢いで行く
ものだから、酒の勢いもあったのだよ。)

・オリャ ナ マ ツイデヤサケー イッテ ミテ クルワイ。(おれは、まあ、ついでだから、行って見て来るよ。)

・アエトツサケ モツテクマツシェナー。(あいてますから、持って行ってください。)

・オレ キョ アメア フッタスケ オッタウェシエー。(わたしはきょうは雨が降ったからいたんですよ、ええ。)

【2】述語用法

(該当例なし)

【3】文末用法

・イマ マツリヤ カエーシェン ナッテー アチコチニ ナットサカエー。(いまはまつりは改正になって、あべこべになっていますから……。)

【4】接続詞用法

(該当例なし)

(f) 福井県丹生郡織田町笈松(現・越前町)〔全国〕

○サカエ・サケー・シェケ・スケーが用いられている。形容動詞に接続する場合は、ナ形に後接する。

○ほかにケン・ケー・デが見られる。デの使用例が多い。(⇒ケー、デ)

【1】従属節用法

・イマノ ヒタ ハデナサケー ピチャーット ネマッテナシテモノーオ……。 (いまの人は、はですから、じっとすわっていらっしやってもねえ……。)

・ホナー イッテミルシャケ ドーカ オネゲーシマス。(それでは行ってみるから、どうかお願いします。)

・ムスコニ ヨメオ トラナラズト モテー イタンジャケド ヤットー モロータスケー マー ラクン ナッタンデスニヤ コレデー。(むすこに嫁をとらなければなるまいと思っていたんだけど、やっともらったから、まあらくになったんですよ、これで。)

【2】述語用法

(該当例なし)

【3】文末用法

・ドーカ ヒトツ ンナー バングニ ノコイトイテオクレノ モライニ クルサカエ。(どうかひとつそれでは、夕方に残しておいてくださいね、もらいに来るから。)

・アー フンナー アー バング マター ムライニクルサケー。(ああ、それでは夕方にまたもらいに来ますから。)

【4】接続詞用法

・ホヤサケー アナ ウイコト アイナシテ ウライマ オモテ イトシノ。(だからあんなつらい目にあいなさって、わたしはいま思っ、かわいそうですよ。)

(g) 滋賀県犬上郡多賀町萱原〔全国〕

○サカイニが用いられている。用例数は多くない。

いずれも敬語とともに用いられていることから、ていねいな表現であると思われる。

○ほかにデが見られる。用例数はサカイニよりもデが多い。(⇒デ)

【1】従属節用法

・マー イツデモ ワスレヤハルサカイニ ワスレンヨーニ コーテキテ アゲテナ。(まあ、いつでもお忘れになるから、忘れないように買ってきてやってくださいよ。)

・マ ヒンルイガ ヒテヤロート ユーテ オクレルサカイニ マ アンタトコ コンニチワ カエッテ ヤスンデ オクレヤス。(まあ、親類がしてやろうと言ってくれますので、まあ、あなたのところは、きょうは帰ってお休みください。)

【2】述語用法

(該当例なし)

【3】文末用法

・アー ダイジョーブヤ マー クロテモ カエリマスサカイニ。(ああ、だいじょうぶです。まあ暗くても帰りますから。)

【4】接続詞用法

(該当例なし)

(h) 大阪府大阪市〔全国〕

○サカイ・サカイニが用いられている。

○ほかにヨッテ・ヨッテニが見られる。用例数はサカイ系よりもヨッテ系が多い。(⇒ヨッテ)

【1】従属節用法

・マー オヒサ オヒサシブリデッサカイ ユックリ シトクレヤンナ。(まあ、お久しぶりですから、ゆっくりなさってください。)

・マタ アラタメテナー ゴチソーニ ナリニ サンジマスデ ゴザイマスサカイニ モー コンニチワ コレデ シツレーサシテ イタダキマスデ ゴザリマスヨッテニ ソロソロ。(またあらためてね、ごちそうになりてまいりますでございますから、もうきょうはこれで失礼させていただきますから、そろそろ……。)

【2】述語用法

(該当例なし)

【3】文末用法

・ウン チョット ハヨー ヨージ カタズイタモンヤサカイ。(うん、少し早く用事が片づいたものだから。)

・ウン フナ チョット ウン チョット オクイイテルサカイニナー。(うん、ちょっと奥の方へ行っているからね。)

【4】接続詞用法

(該当例なし)

*『日本方言大辞典』の関連形式と使用地域

さかい 《さかい》北海道函館、青森県津軽、岩手県九戸郡、山形県、新潟県、富山県、石川県、福井県、長野県諏訪、三重県、滋賀県、京都府、大阪府大阪市・泉北郡、兵庫県、奈良県、和歌山県、徳島県海部郡、香川県小豆島 《さーかい》兵庫県淡路島 《さい》秋田県 《さいに》三重県阿山郡 《さえ・さえて》山形県最上郡 《さか》三重県阿山郡・南牟婁郡、和歌山県 《さかいで》盛岡、山形県米沢市、富山県砺波、徳島県海部郡 《さかいに》青森県三戸郡、新潟県西頸城郡、富山県砺波、石川県鹿島郡、福井県、三重県、滋賀県蒲生郡・犬上郡、京都市、大阪府東成郡・泉北郡、兵庫県、奈良県、和歌山県日高郡・東牟婁郡、香川県小豆島 《さかいにゃ》新潟県佐渡 《さかに》新潟県下越、和歌山県日高郡 《さから》山形県米沢市 《さからい》富山県、三重県志摩郡 《さからいで・さからいに》富山県砺波 《さき》三重県度会郡 《さけ》山形県、新潟県佐渡・上越、石川県能美郡、福井県、三重県、京都府乙訓郡・京都市、大阪府河内、兵庫県加古郡・神戸市、奈良県宇陀郡、和歌山県 《さけに》新潟県佐渡、福井県、三重県、滋賀県、奈良県

《さけん》兵庫県加古郡、奈良県、鹿児島県薩摩南部 《しかい》青森県三戸郡、東京都神津島、京都府竹野郡 《しかいで》東京都神津島 《しからえに》新潟県西頸城郡 《しけ》新潟県上越市 《しけに》青森県上北郡 《しけれに》新潟県西頸城郡 《すか》新潟県佐渡 《すかい》青森県南部、山形県・鶴岡市、新潟県、長野県更級郡、滋賀県高島郡、兵庫県但馬、奈良県吉野郡 《すかえれ》新潟県西蒲原郡 《すからん》新潟県西頸城郡 《すけ》北海道南部、青森県上北郡、山形県、新潟県、福井県足羽郡、滋賀県高島郡 《すけあいん》山形県 《すけーに》新潟県中魚沼郡・三島郡 《すけに》新潟県 《すけん》新潟県佐渡 《すつけに》新潟県中越 《はかい》滋賀県伊香郡、京都府乙訓郡・京都市、兵庫県南部、奈良県南部、和歌山県 《はかいに》兵庫県赤穂郡、和歌山県 《はけ》山形県、三重県伊賀、滋賀県高島郡・野洲郡、京都府乙訓郡、兵庫県神戸市、和歌山県海草郡・有田郡 《はけに》和歌山市

【参考文献】

金田弘 (1976)『洞門抄物と国語研究』桜楓社

亀井孝 (1936)「理由を表はす接続助詞「さかいに」
『方言』6.9

小林千草 (1977)「近世上方語におけるサカイとその
周辺」近代語学会編『近代語研究』5、武蔵野書院
小林好日 (1944)「東北方言に於ける助詞「さかい」
『国語学論集<橋本博士還暦記念会>』岩波書店

【方言文献資料目録】

資料 01：日高水穂 (2002)「秋田県由利郡烏海町方言の談話資料と文法解説」真田信治編『消滅に瀕した方言語法の緊急調査研究(1)』科研費成果報告書

(日高水穂)

シ【接続助詞・原因理由】

〔分布〕（GAJには報告地点なし）

○シは京都府京都市でさかんに用いられている。（⇒方言文献資料a・b）

○大阪府、奈良県、和歌山県、新潟県佐渡島でも、シが他の優勢形式と併用されることがある。ただし、シの意味が原因・理由、並列のどちらとして使われているのかは文脈に依存しており、判断が難しい。

（⇒方言文献資料c・d・e・f）

〔意味用法〕

○原因・理由の接続助詞。から。ので。並列の接続助詞としても使われる。

○従属節用法では、(1)事態の原因、(2)行為の理由、(3)判断の根拠、(4)発言・態度の根拠、(5)理由を表さない用法のすべてをカバーしている。

○述語用法での使用は、方言差がある。（⇒〔共通調査〕）

○文末用法では、倒置も終助詞的用法も可能である。

○接続詞用法での使用には方言差がある。（⇒〔共通調査〕）

〔接続〕

○活用語の非過去形／過去形に接続する。

○推量形にも後接する。

○丁寧形への後接には方言差がある。（⇒〔共通調査〕）

〔語誌〕

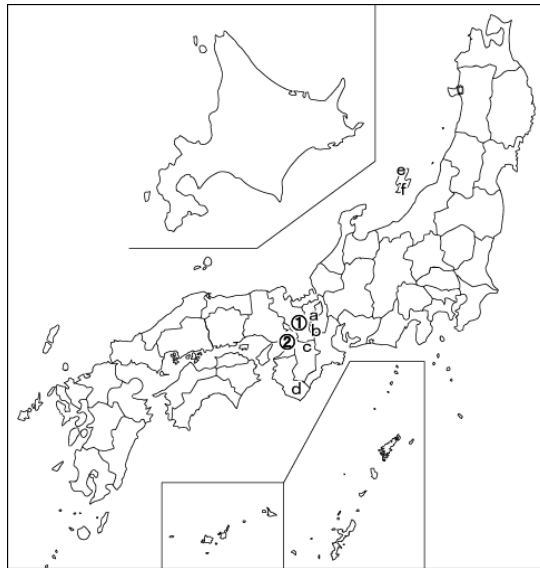
○接続助詞としての用例は室町時代ごろからみられ、前件と後件の関係は文脈によって並列、順接、逆接などさまざまであった。

○古い例ほど推量などの意味を持つ「まい」や「う」に後接することが多い。

○現代の話し言葉で用いられるシは並列の接続助詞「し」の用法をもとにして、関係のあることがらが複数あるという意味からそれとなく理由を表すのにも使われていると考えられるが、現在の京都市方言のシは唯一の理由を表す場合にも使われるようになっている。

・コノウデドケー キノー オトシテシモタシ コワレシモタンヤ。（京都府京都市）

〔報告地点〕



（丸数字：共通調査 アルファベット：方言文献資料）

①京都府京都市

②大阪府摂津地方

a 京都府京都市〔講座〕

b 京都府京都市〔全国〕

c 奈良県山辺郡都祁村（現・奈良市）〔全国〕

d 和歌山県東牟婁郡古座町（現・串本町）〔全国〕

e 新潟県佐渡郡相川町大倉（現・佐渡市）〔全国〕

f 新潟県佐渡郡畑野村後山（現・佐渡市）〔全国〕

〔共通調査〕

【1】従属節用法

(1) 事態の原因

・マイニチ アメガ フルシ センタクモンガ カワカヘン。（京都市）

・マイニチ アメ フルシ センタクモン カワケヘンナー。（摂津地方）

(2) 行為の理由

・タイチョーガ ワルイシ シゴト ヤスマセテモータ。（京都市）

・タイチョー ワルイシ ノミカイ イカンコトニシタ。（摂津地方）

(3) 判断の根拠

・ホシガ デテルシ アシタモ エー テンキニナル {ヤロ／エ}。（京都市）

・メッチャ ノンダシ アシタ ゼッタイ シンドイワ。（摂津地方）

(4) 発言・態度の根拠

- ・アブナイシ コノカワデ アソンドラ アカン。
(京都市)
- ・アブナイシ ココデ アソンド(ラ) アカン。(摂津地方)

(5) 理由を表さない用法

- ・イッカイデ エーシ ピラミッドニ ノボッテミタイワー。(京都市)
- ・スグ モドッテクル {シ/カラ} ココデ マットツテナ。(摂津地方)

【2】述語用法

- ・A「シンドー。」B「アンナ ギョーサン ノムシヤデ。」(京都市)
- ・A「キブシ ワルイ。」B「アンナ アホミタイニ ノム {?シ/カラ} ヤデ。(摂津地方)
- ・A「ナンカ タロー ゲンキ ナイナー。」B「シアイ マケタ {×シ/カラ} カモナー。(摂津地方)

【3】文末用法

(1) 倒置

- ・ココデ チョット マッテテナ。 スグ カエツテクルシ。(京都市)
- ・チャー ココデ マットツテ。 スグ モドッテクルシ。(摂津地方)

(2) 終助詞的用法

- ・アトデ モー イッカイ デンワスルシ。(京都市)
- ・アトデ モッカイ デンワスルシ。(摂津地方)

【4】接続詞用法

- ・サイキンマイニチアメガフルヤロ。ソヤシ センタクモンガ カワカヘンネ。(京都市)
- ・(シの回答なし) (摂津地方)

《補説》

○京都府京都市のシは接続助詞用法のすべてに使われるが、大阪府摂津地方のシは述語用法が不自然あるいは不適格である。

○京都府京都市の「シ」は、伝聞・推定・推量・丁寧などのモダリティ表現にも後接する。大阪府摂津地方のシは伝聞・推定・推量には後接するが、丁寧のモダリティ形式には後接不可である。

○京都市方言のシは、標準語のカラがもつ慣用表現

にも置き換えが可能である。

- ・オネガイヤシ モット マジメニ ベンキョーシテ。(京都市)

○京都府京都市の「シ」は、接続詞用法では「ソヤシ」「セヤシ」が一般的だが、指示詞が略された「ヤシー」も使われる。

- ・センタッキノ チョウシ ワルイヤンカ。ヤシニ テーデ アロテン。(洗濯機の調子が悪いじゃないか。だから手で洗ったのだ。)(京都市)

○接続詞用法のうち、前件・後件の間に話者交替があり、後件の結論部分を略して「だから？」のように上昇調で相手に問い返す表現(聞き手に結論を求める用法)には、「シ」は使われない。この点、標準語の「だから」の機能よりも狭いといえる。

A「タイヘンヤ。 アメ フツテキタ。」

B 1「ソヤシ ソレガ ドーシタン。」

B 2「ソヤシ ナンナン。」

B 3「×ソヤシ？」(京都市)

【方言文献資料】

(a) 京都府京都市〔講座〕

○原因・理由表現(「確定(順接)」)について、サカイ系が京都府全域で使われる主流の形式であるが、一方で「ローカルな語法」として、大阪方言的なヨッテニが淀川流域に沿って京都市南部に侵入しており、また京都市を中心としてシが使われている。○京都市のシは、「雨が降るシ中止だ(雨が降るので中止だ)」のように用い、サカイに比べてより俗語的である。

(b) 京都府京都市〔全国〕

○シとともに、サカイ・サカイニ・ハカイ、ノデ・ンデも多く使われている。

○並列と原因・理由との意味的区別がつけにくい、シの使用頻度は他方言に比べて多い。

【1】従属節用法

- ・モー チョット ユックリシテ イタダキマシタラ アノ モージキ シュジンモ カエラレマスデ ゴザイマスシネー アノ ゴイッショニ マ チョット ユーハンデモ イッ アガッテ イタダキマシタラト ゾンジマスデ ゴザイマッサカイ。(もうちょっとゆっくりしていただきましたら、もうじ

き主人も帰られますでございますしね、ごいっしょにまあちょっと夕飯でも あがっていただきましたらと存じますでございますから。)

・オット ヤッパリ コドモノ コトデスシネ ヤッパ ハナヤカナホガ イート オモイマスノデコチラノ ノシメノ ハナヤカナホニ サシテ イタダキマスデ ゴザイマスサカイニ。(すると、やはり子どものことですしね、やはりはなやかな方がいいと思いますので、こちらの熨斗目のはなやかな方にさせていただきますでございますから……。)

・オユカゲン ミテキマスシ オフロ ハイットクレヤスカ ソノ アイダニ ゴハンコシラエ シトキマスシ。(お湯加減を見て来ますからお風呂にはいってくださいますか、その間にご飯の用意をしておきますから。)

・アー チョード ヨロシオスシー フナ ハイットクレヤスナ サキー。(ああ、ちょうどよろしゅうございますから、でははいってくださいませ、先に。)

【2】述語用法

(該当例なし)

【3】文末用法

・オユカゲン ミテキマスシ オフロ ハイットクレヤスカ ソノ アイダニ ゴハンコシラエ シトキマスシ。(お湯加減を見て来ますからお風呂にはいってくださいますか、その間にご飯の用意をしておきますから。)

【4】接続詞用法

(該当例なし)

(c) 奈良県山辺郡都祁村(現・奈良市) [全国]

○サカイ系、ヨッテ系を主に用いるが、シも原因・理由の表現として使っていることがある。

【1】従属節用法

(該当例なし)

【2】述語用法

(該当例なし)

【3】文末用法

・イテクル ドンナヤラ ワカラヘンシノー。(行ってくるよ。どんなのやかわからないからねえ。)

【4】接続詞用法

(該当例なし)

(d) 和歌山県東牟婁郡古座町(現・串本町) [全国]

○サカイ系を主に用いる。ただし、シやデも原因・理由の表現として使っていることがある。

【1】従属節用法

・モー オソ ナルシ オヤスミヨ。(もう遅くなるからお休みなさい。)

【2】述語用法

(該当例なし)

【3】文末用法

・オマエ モー フロ イッテニー ヤスマンシヨ モー ツカレタルシー。(あなたもうふろにはいつて休みなさいよ、もう疲れていますからね。)

【4】接続詞用法

(該当例なし)

(e) 新潟県佐渡郡相川町大倉(現・佐渡市) [全国]

○スケ・スケン・スケニなどのサカイ系の形式を多用するが、1例だけシで原因・理由を表現している例がみられた。

【1】従属節用法

・アテビノ キノ チト イリコンラナ コレアラ ラ モンラシノー ミナ キモチ ワルテ。(あてびの木の少し入り込んだような小平だものだからねえ、みんな気味が悪くて。)

【2】述語用法

(該当例なし)

【3】文末用法

(該当例なし)

【4】接続詞用法

(該当例なし)

(f) 新潟県佐渡郡畑野村後山(現・佐渡市) [全国]

○サケ・サケー・サキなどが多用されるが、談話資料中にシが1例だけ使われている。

【1】従属節用法

(該当例なし)

【2】述語用法

(該当例なし)

【3】文末用法

・ソー セデム イーキムヌ マー オレ カエリ
ニ ヨルシーノー ハカットイテ クリー。(そう
(まで) しないでもいいけれどね、まあ、おれ帰りに寄るからね。量っておいてくれ。)

【4】接続詞用法

(該当例なし)

* 『日本方言大辞典』の関連形式と使用地域

し 《し》新潟県佐渡島、鹿児島県肝属郡 《しゃ》
熊本県玉名郡 《なし》徳島県那賀郡 《のんし》
新潟県佐渡島

《参考文献》

堀池直明 (1999) 「「シ」を用いた原因・理由表現について」『筑波日本語研究』4 (筑波大学文芸・言語研究科日本語学研究室)

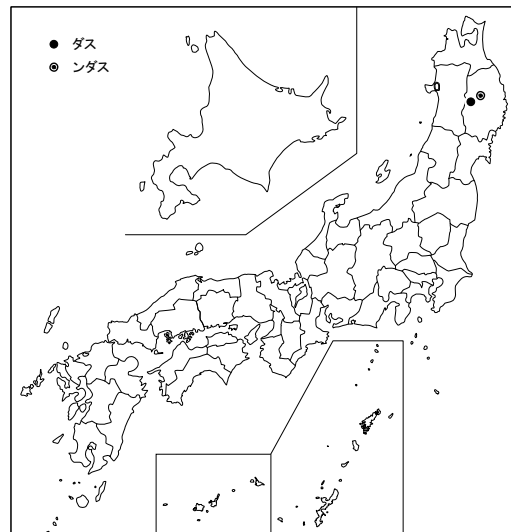
前田直子 (2005) 「現代日本語における接続助詞「し」の意味・用法：並列と理由の関係を中心に」『人文』4 (学習院大学人文科学研究所)

(船木礼子)

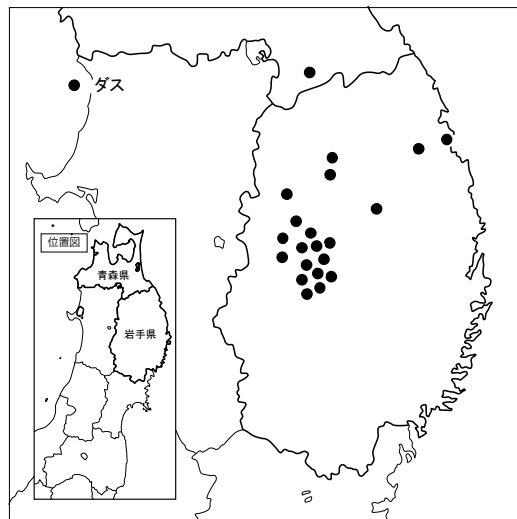
ダス【接続助詞・原因理由】

ダシ・ンダス

【分布】



(GAJ33 図「雨が降っているから行くのはやめろ」より)



(資料 03「澤山あるからやらう」より)

○青森県三戸郡・岩手県旧南部藩地域に分布する。

○資料 03 によると、岩手県盛岡市付近を中心にとまった分布があり、その以北から青森県との県境付近に点在する。

○方言文献資料 a にはダシの用例が見られる。当該方言ではシ・スの区別があいまいであることからダスと同じ形であるものと見なす。

【意味用法】

○原因・理由の接続助詞。から。ので。

○従属節用法では、(1) 事態の原因、(2) 行為の理由、(3) 判断の根拠、(4) 発言・態度の根拠、(5) 理由を表

さない用法のすべてをカバーする。

○述語用法は確認できない。

○文末用法での使用も可能である。

○接続詞用法での使用も可能である。

〔接続〕

○活用語の非過去形／過去形に後接する。(例)「エッペア アルダス ヤル。(澤山あるからやらう。)」

(資料 03・岩手県盛岡市新田町)・「イッペェア アルンダシ ケルナハン。(澤山あるからやらう。)」(資料 03・岩手県盛岡市花屋町)

○推量形への後接例は確認できない。

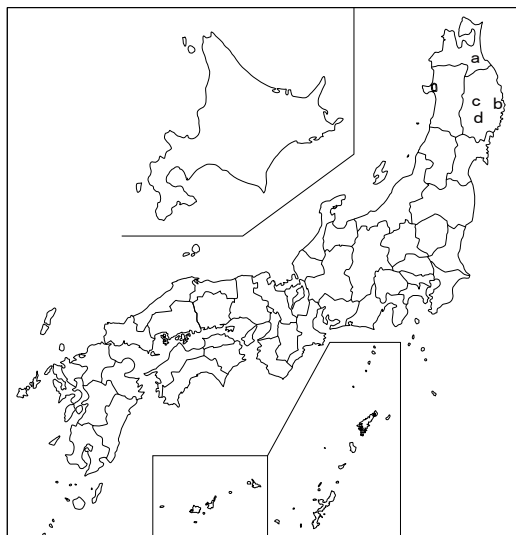
○丁寧形に後接する。(⇒方言文献資料 c)

〔語誌〕

○分布域が、太平洋側におけるサカイ系のサケ・シケ・スケなどの分布の南側に位置していることから、これらの変化形と考えられる。青森県三戸郡五戸町では、次の例のようなシケ類が、ダシと併用される。

・「オラ トキア ガッコーサ ヘーッテモ エバヘーナクテモ イーダシケ オラ ヨケー ヘネンダモノナ。」(私の時は、学校に入ってもよければ入らなくてもよかったから、私は余計に入らなかったもんな。)

〔報告地点〕



(丸数字: 共通調査 アルファベット: 方言文献資料)

a 青森県三戸郡五戸町〔全国〕

b 岩手県宮古市高浜〔全国〕

c 岩手県盛岡市本町通り〔資料 01、資料 02〕

d 岩手県江刺市(現・奥州市)〔談話〕

〔方言文献資料〕

(a) 青森県三戸郡五戸町〔全国〕

○従属節で形容詞につくダシ一例のみ。

○ほかに、スケ・シケがみられ、活用語の非過去形／過去形に後接する。また、ダシケの用例が複数ある。(⇒サカイ)

【1】従属節用法

・コノ カミサマ ニジューヨニンモ コドモ モッテー ソシテ マンツ コマッテー コノ ニジューヨニン アンズガルネー ドーヤシテ アズカッタ イーダカ ハー トシトリモ マズカクナルシ ドヤッタ イダカッテ ヘテ カミサマ マンツ イタッタツ。 ソヤシテ マンツ ヨンナカ イーダシ ヨソノ タサ イテ ソッテ キタツ。(この神様は、24 人も子供を持って、そうしてなんとも困って、この 24 人を養うのにどうして育てたらいいか、年越しも間近になるし、どうしたらいいのかと言って、神様は、まあ、いたのだそうだ。そうして、まあ、世の中がいいし、よその田に行つて(稲を)背負って来たそうだ。)

【2】述語用法

(該当例なし)

【3】文末用法

(該当例なし)

【4】接続詞用法

(該当例なし)

(b) 岩手県宮古市高浜〔全国〕

○従属節で形容詞につくンダスの一例のみ。

○ほかに、ガラ、スケがみられる。(⇒カラ、サカイ)

【1】従属節用法

・ソースター カデヤサンサ ミンナ ソレンスタケー トコア マーッツラベリ オッケンダス アッササスリンス ミンナ アツベーンスタノンス。(そうして門屋さんへみんな、ほら、高いところではあちらだけが大きいので、あちらにですね、みんな集まったのです。)

【2】述語用法

(該当例なし)

【3】文末用法

(該当例なし)

【4】接続詞用法

(該当例なし)

(c) 岩手県盛岡市本町通り [資料 01、資料 02]

○ダス、ンダスが用いられるが、接続には規則性が認めにくい。ため、ンダスのンはダの入り渡り鼻音に由来すると考えられる。

○ほかに、ガラ・カラがみられる。(⇒カラ)

【1】従属節用法

・アノナ タノミテェ ゴドガ デギダ。ケサカタワ ナンタッテ イカネバネェ ヨッコ デゲテナ コノワラスモ ツレデガレネダス ヌツカンバリ ミデデ ケラエネエガナ。(あのね、頼みたいことができた。今朝はどうしても行かなければならない用事ができてね、この子供も連れていけないので、二時間ほど(面倒を)みてくれないか。)

・トッテモ アダマ イダクテ オギラレネダス オメェ オギデ カマドノ ゴハン ナントカ タノム。(とても頭が痛くて起きられないから、お前が起きて、かまどのご飯を何とか頼む。)

・スタッテサ マサボーノ アルギガダダバ ズスラズスラ ト スッテ アルグモノ、ユギノ ウエバリダゲデ ネダス オドナニ ナルマデニア、ソゴダノ アグドダノ テロテロド ヘッテシマウベツチェ。(でもさ、マサ坊の歩き方なら、ずりずりとすって歩くもの、雪の上だけでないから、大人になるまでには、底やかかとかがつるつるに減ってしまうだろうよ。)

・ダアレ オラホァ ワラシャドガ イッペダス ソレデワ モスワゲ ナガンスカラ。(何を言うの、我が家は子供が多いから、それでは申し訳ないですよ。)

・オレ コノ ゴロ ウマゴヤノ ソンジスル ヤクソクデ ジーサマカラ ベェッコバリ ジェネツコ モラウンダシ タメダノヨ。(俺はこの頃、馬小屋の掃除をする約束でじいさんから少し金をもらうので、貯めたのよ。)

・ジャ チョンド エグ オギデラナ。ベェッコバリ イソグンダス コノ フルスキ ツズミ オンツァンノ ドゴサ トドゲデ ケネエガ。(おや、ちょうどよく起きているな。少し急ぐので、この風呂

敷包みを伯父さんの所に届けてくれないか。)

・キュウヌナ セーネンダンノ ヒタァ キテ ヒルスギガラ ボークーエンシュエノ ショーカクンレン ヤルンダス カナラズ デハル ヨーニ ッテサ。(急に青年団の人が来て、昼過ぎから防空演習の消火訓練をやるから、必ず出るようにってさ。)

・ヤラエダ ハチニ ヤラエダ。ス ミツケタンダス ボッキデ オドス キニ ナッタケァ キューヌ コツツサ トンデキテ。(やられた、蜂にやられた。巣を見つけたので、棒きれで落そうと思ったら、急にこっちに飛んできて。)

・トーキョーワ ツカゴロ ナンナダガ ウルサグナッタンダス モルオガサ クルテェ ドス。(東京は近頃、何なのか面倒になったので、盛岡に来たいと言うのさ。)

・オメエサンモ カナル クドガンスヨ。オナズ ゴドゥ ナンカイモ シャベリヤンスヨ。ソントナドギヤ キゲンコォ エー ドギナンダス ダマッテ ガマン ステルドモス。(お前さんもかなりくどいですよ。同じことを何回も言いますよ。そんなときは機嫌の良いときだから、黙って我慢していますけど。)

・ソコサ イケバ オラァ ヒトリムスコ ナンダス オメハンダズ ミッテェニ ゴチャゴチャトキョーダイ イナイシ シャベレバ 「ソーガ」ッテ カッテ ケレルンドモ。(そこへいとおれは一人息子だから、お前たちみたいにゴチャゴチャと兄弟はいないし、言えば「そうか」って買ってくれるけど。)

【2】述語用法

(該当例なし)

【3】文末用法

・「オメエノ ズッカワ イズガノ ナカツガワノ ミズマスデ ナガサレテ ネエグナッタンデネエガ。(お前の実家はいつかの中津川の洪水で流されてなくなったのではないか。)」 「ソンドガンス、ドシエコシェ アバラヤデ ガンシタダス。(そうです、どうせ荒屋でしたから。)」

・オレ ハー ナンカイガァ フタルステ シャベクッテルノオ ミダゴド アルントモ ヨメッコノ

ホーデ ハナスッコ アワシェネバ。ダイタイ ハズメッカラ フタルドモ タヌンドース ナンダスサ。アワシェベット サネバ アウハズア ネンダナ。(俺は、もう、何回かは二人で言い争っているのを見たことがあるけれども、嫁の方で話を合わせなければならぬ。大体、初めから二人とも他人同士なんだから。合わせようとしなければ合うはずがないな。)

【4】接続詞用法

・「キョーダバ デエコアレエ ダベツチェ。(今日なら大根洗いの混雑だろうよ。)」 「ウン ソダツケ。ソナダダス スズグイスガワサ イグベ。(うん、そうだったよ。だから雫石川に行こう。)」

【d】岩手県江刺市(現・奥州市)〔談話〕

○文末用法で過去形式につくンダスのみがみられる。

○原典の共通語訳は必ずしも「から・ので」ではない。

○このほか、ガラ、スケがみられる。(⇒カラ、サカイ)

【1】従属節用法

【2】述語用法

(該当例なし)

【3】文末用法

・ンダガラ ソノ トージズワ デンセンビョーハ セギリビョーズノア イッペ アッタナンダスンー セギリネ ン ヤッパ ミズ ワリガラ。(だからその当時というのは伝染病で赤痢病がもうあちこちにあったんだよ、うん、赤痢はやっぱり水が悪いから。)

・マズノ ヒトアズ ズノア ナンデネガエンガ。ンー アギンド システルドゴード ヤッパ オヒヤクショー ステットゴドノ コドモダズノ ソダデガダ モズロン ツガッタナンダス。(町の人たちというのはあれではないだろうか。商売をしている家とやっぱりお百姓をしている家の子どもの育てかたともちろん違ったんだから。)

・ソイズサ モツテキテ アノ チャゴミダ ナンテモ ウツテダナンダス オワンコデ ハガツテ。(それに加えて「ぐみ」などというのも売っていたから。枴やお椀で計ってね。)

【4】接続詞用法

(該当例なし)

〔方言文献資料目録〕

資料 01: 松本源蔵 (2001) 『わたしの盛岡』 杜の都社

資料 02: 松本源蔵 (2004) 『続・わたしの盛岡』 杜の都社

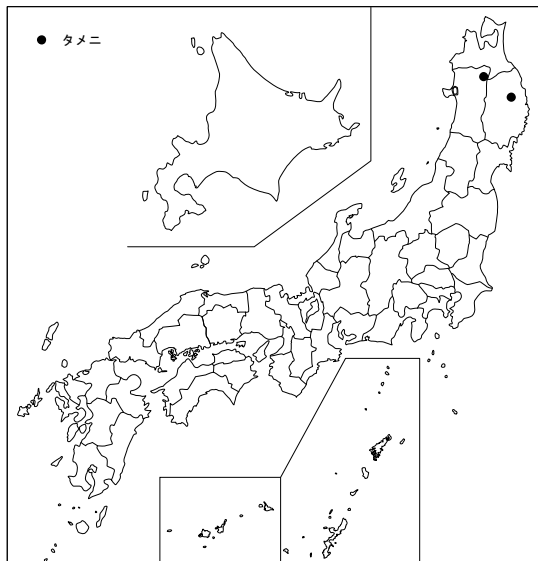
資料 03: 小林好日氏が 1938-1941 年に実施した東北方言通信調査の第 3 調査票「沢山あるからやろう」による。この調査の概要については竹田晃子 (2003) 「小林好日氏による東北方言通信調査」『東北文化研究室紀要』 44 (東北大学)、特に原因・理由表現の調査結果については竹田晃子「東北方言における原因・理由表現形式の分布」 2007 年報告書 (<http://hougen.sakura.ne.jp>) を参照。

(竹田晃子)

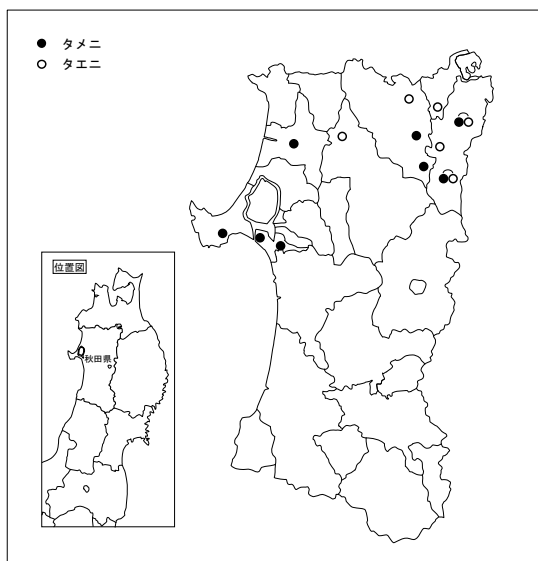
タメニ【接続助詞・原因理由】

タエニ

〔分布〕



(GAJ37 図「子どものでわからなかった」より)



(資料 01「私もすぐに行くから先に行ってくれ」より)

○GAJ37 図「子どものでわからなかった」では、秋田県鹿角市十和田と岩手県下閉伊郡川井村鈴木名の2地点にタメニの回答が見られる。GAJ33 図「雨が降っているから行くのはやめろ」には回答地点が見られない。共通語の「ために」と同様に、事態の原因の用法に現れやすいものと思われる。

○一方、秋田県北部で使用されるタメニ（タエニ）は、「私もすぐに行くから先に行ってくれ」のような理由を表さない用法でも使用される。以下ではこの

地域のタメニ（タエニ）の用法について記述する。

○秋田県内陸部（鹿角地方・北秋田地方）ではタメニの m が脱落したタエニが併用されるが、沿岸部（山本地方・男鹿地方）ではタメニのみを使用する。

〔意味用法〕

○原因・理由の接続助詞。から。ので。

○従属節用法では、(1) 事態の原因、(2) 行為の理由、(3) 判断の根拠、(4) 発言・態度の根拠、(5) 理由を表さない用法のすべてをカバーする。

○述語用法でも使用可能である。(⇒ [共通調査]《補説》)

○文末用法での使用も可能である。

○接続詞用法での使用も可能である。

〔接続〕

○活用語の非過去形／過去形に後接する。断定辞非過去形に接続する場合、ダ+タメニ（タエニ）という接続の仕方になる。これは、秋田方言を含む東北部方言の断定辞連体形がダの形をとることによる。

○推量形には後接しない。(⇒ [共通調査]《補説》)

○丁寧形には後接しない。(⇒ [共通調査]《補説》)

〔語誌〕

○名詞「為（ため）」に格助詞「に」が後接したもの。形式名詞「ため」の用法で古いのは、「名詞+のため」「動詞+ため」で「～の利益になるように」「～する目的で」の意を表すもので、上代の用例が存在する。

「名詞+のために」「用言+ために」の形で原因・理由を表す用法は、中古から見られる。

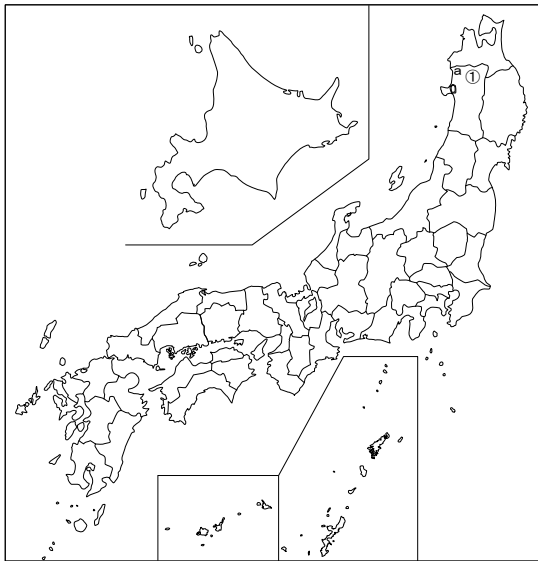
○共通語の「ため（に）」は「ために」「ため」の両形がほぼ同じ意味用法で用いられるが、秋田県北部方言のタメニ（タエニ）は、タメ（タエ）を単独で使用することはない。

○共通語の「ため（に）」は硬い文体に現れやすいが、秋田県北部方言のタメニ（タエニ）は日常的な話し言葉で用いられる。

○共通語の「ため（に）」が表す原因・理由の意味領域は、「客観的な事態」間の因果関係を示すものに限られ、後件も命令・依頼などの働きかけ表現や意志・希望などの表出表現である場合には使えないという制限がある。一方、秋田県北部方言で使用されるタメニ（タエニ）にはこうした制限はなく、汎用の原

因・理由形式として使用される。

〔報告地点〕



(丸数字:共通調査 アルファベット:方言文献資料)

①秋田県大館市

a 秋田県山本郡八峰町八森岩館〔資料02〕

〔共通調査〕

【1】従属節用法

(1) 事態の原因

・マエニジ アメ フルタメニ センタグモノ カワガネ。(大館市)

・マエニジ アメダタエニ センタグモノ カワガネ。(大館市)

(2) 行為の理由

・カラダグアイ ワリータメニ キョー シゴドヤスムハー。(大館市)

・アメ フルタエニ カサ モッテイゲー。(大館市)

(3) 判断の根拠

・ホシ イPPER デデラタエニ アシタモ テンキ イーベナー。(大館市)

・サッキ シンブンノ オドッコ シタタエニ ゴジ スギダベハー。(大館市)

(4) 発言・態度の根拠

・アブネタエニ コノカワデ アソベバ ダメダヨ。(大館市)

・キョーノ シゴド ミンナ オワツタタメニ モー イグベ。(大館市)

(5) 理由を表さない用法

・スグ モドッテクルタメニ ココデ マッテレ。(大館市)

・タノムタメニ オガネ カシテケレデー。(大館市)

【2】述語用法

・A「サイキン タローノ キゲン ワリナ。」B「ジロードゴバリ ホメルタエニダベガ。」

【3】文末用法

(1) 倒置

・ココデ チョット マッテレ。スグ モドッテクルタエニ。(大館市)

・チョット ゴセンエン カシテケネベガ。ゲズマズマデニ カエスタメニ。(大館市)

(2) 終助詞的用法

・アドガラ モーイッカイ デンワスルタメニ。(大館市)

・ヒミツ シャベレバ タダデ オガネタメニナ。(大館市)

【4】接続詞用法

・A「サイキン ムッタリ アメ フルナ。」B「ンダナ。ンダタメニ センタグモノ カワガネクテコマルナ。」(大館市)

・[「やめておけ」と注意したのに、それを守らないで間違いをおこしたので] ンダタエニ ヤメデオゲッテ イッタベシャ。(大館市)

《補説》

○大館市方言では、原因・理由表現としてタメニ(タエニ)とカラ(ガラ)が併用される。(⇒カラ)

○タメニとタエニは特に使い分けの基準はなく、同じ話者が両方の形式を併用している。

○大館市方言のタメニ(タエニ)は述語用法でも使用されるが、従属節用法に比べると使用しにくいようである。なお、共通語の「ため(に)」の述語用法の形は「ためだ」であり「ためにだ」とはならないが、大館市方言ではタメニダ(タエニダ)となる。

○大館市方言のタメニ(タエニ)は、推量形には後接しない。

・ソド サビベ {ガラ/×タメニ} イPPER キテイゲデバ。(大館市)

○大館市方言のタメニ(タエニ)は、丁寧形には後接しない。ただし、この方言では丁寧形の表現自体

が定着したものになっておらず、カラ（ガラ）に丁寧形を前接させる表現も出てきにくい。

〔方言文献資料〕

（a）秋田県山本郡八峰町〔資料 02〕

○タメニが用いられている。

○他にガラが用いられている。使用頻度はタメニのほうがやや多い。（⇒カラ）

【1】従属節用法

・オヤガダ マズ カントクー ハナレナイデ イチニチ イッパイ イルタメニ キー ヌガレナイデショ。（親方が、まあ、監督者〔を〕していて〕離れないで一日中いるから、〔雇われた人は〕気を抜くことができないでしょ。）

・メッタニ カイワスゴド ネタメニ ハナシ トギレ ナッテ。（めったに会話することがないから、話が途切れになって。）

・キセツノ サカナダタメニ マイトシ ジューイジガツスギ ナレバ マッテラッタネ。コゴデモイマダニ。（〔ハタハタは〕季節の魚だから、毎年 11 月過ぎになれば待っていたね。ここでもいまだに。）

・ジーサンガ ニシンノ センドーシテ アルイタモンダタメニ カゾクデモ ニンプデモ タノンデイッタんだネ。（おじいさんが、ニシンの船頭をして動き回っていたもんだから、家族でも、人夫でも、頼んで〔雇って〕いったんだね。）

【2】述語用法

（該当例なし）

【3】文末用法

・ンダ。コドモガダワナ コトバ ワゲアタメニ。（そうだ。子供たちはね、言葉が若いから。）

【4】接続詞用法

・デンシャノナカ セマクテ アルガイネダギ コンデ。セガラ ガクセーダスベ？ ガクセーモ イチバンデ イグシベ？ ソレダモンダタメニ マズマズー デンシャノナカモ スワイネガッタノ。（列車の中が狭くて、歩くことができないくらい込んで。それから学生でしょう？ 学生も一番〔電車〕で行くでしょう？ だから、まあまあ、電車の中も、座れなかったの。）

《参考文献》

前田直子（2009）『日本語の複文 条件文と原因・理由文の記述的研究』くろしお出版

『日本国語大辞典〔第二版〕』小学館、2001 年

〔方言文献資料目録〕

資料 01：秋田県教育委員会編（2000）『秋田のことば』（「秋田県言語地図」86 図）無明舎出版

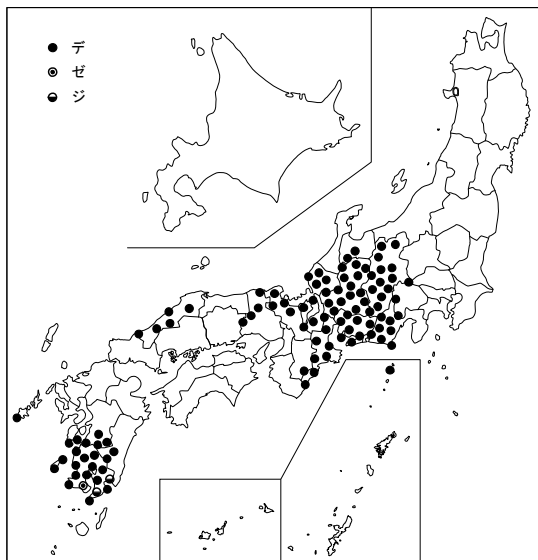
資料 02：田口瞳（2010）「秋田県山本郡八峰町八森岩館の談話と方言の特徴」日高水穂・高村竜平編『秋田学資料集Ⅰ 能代・山本の生活文化とことば』文部科学省戦略的大学連携支援事業「プロジェクト 4 A」研究成果報告書

（日高水穂）

デ【接続助詞・原因理由】

ゼ、ジ

〔分布〕



(GAJ33 図「雨が降っているから行くのはやめろ」、34 図「だから言ったじゃないか」、37 図「子どもなのでわからなかった」より)

○デは、東海地方から北陸地方南部、京都府・兵庫県の北部、島根県西部、および鹿児島県（奄美地方を除く）と宮崎・熊本県の一部にまとまって分布する。

○鹿児島県にはデに混じってゼ・ジも用いられる。ゼはデが破擦化したもの、ジはさらにゼの母音が狭くなったものと思われる。

〔意味用法〕

○原因・理由の接続助詞。から。ので。

○従属節用法では、(1) 事態の原因、(2) 行為の理由、(3) 判断の根拠、(4) 発言・態度の根拠、(5) 理由を表さない用法のすべてをカバーする。

○述語用法での使用も可能である。

○文末用法での使用も可能である。

○接続詞用法での使用も可能である。

〔接続〕

○活用語の非過去形／過去形に後接する。

○推量形への後接には方言差がある。(⇒ [共通調査] 《補説》)

○丁寧形にも後接する。

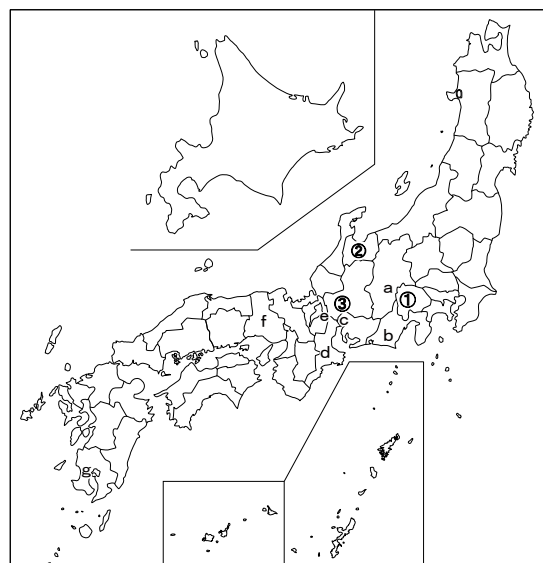
〔語誌〕

○格助詞デの動作・作用の原因・理由を表す用法か

ら、接続助詞としての用法が派生したとされる。活用語に直接付く接続助詞としての用例は、中世末から近世期の京畿中央語文献に散見されるが、それほど多くない。現代方言のデはこの京畿中央のデが伝播したものとする説がある。近世期江戸語文献にも、活用語に直接付き、原因・理由を表す接続助詞デの例が見られる。

○理由を表す接続助詞ノデは、一般に、「用言の連体形準体法+デ」が準体助詞を明示させるようになって成立したものと考えられている。

〔報告地点〕



(丸数字: 共通調査 アルファベット: 方言文献資料)

①山梨県早川町奈良田

②富山県富山市

③岐阜県岐阜市

a 長野県上伊那郡高遠町山室 (現・伊那市) [全国]

b 静岡県掛川市上西之谷 [全国]

c 愛知県海部郡立田村小家 (現・愛西市) [全国]

d 三重県一志郡美杉村川上 (現・津市) [全国]

e 滋賀県犬上郡多賀町萱原 [全国]

f 兵庫県神崎郡神崎町栗賀 (現・神河町) [全国]

g 鹿児島県鹿児島市 [全国]

〔共通調査〕

【1】従属節用法

(1) 事態の原因

・コドモドーデ ワカラナカッター。(山梨県奈良田)

・マイニチ アメ フルデ センダクモンナ カワ

カンナ。(富山市)

・マエニチ アメガ フルデ センダクモンガ
カワカヘン。(岐阜市)

(2) 行為の理由

・アンバイガ ワルイドーデ シゴトー ヤスム
コトニ シトー。(山梨県奈良田) (「ドーデ」全体で
「から」相当の意を表す。⇒《補説》)

・タイチョーガ ワルイデ リョコーニワ イカン
ガニシタ。(富山市)

・タイチョー ワルイーデ シゴト ヤスンドルン
ヤワ。(岐阜市)

(3) 判断の根拠

・ホシガ デテルデ アシタモ ヨイ オテンキニ
ナルラ。(山梨県奈良田)

・ホシガ デトルデ アシタモ エー テンキヤロ
ーナ。(岐阜市)

(4) 発言・態度の根拠

・アブナイデ コノ カーラジャー アスンヂョデ
ヨー。(山梨県奈良田)

・アブナイデ コノカワデ アソビャースナ。(岐阜
市)

(5) 理由を表さない用法

・チュード カイツテ クルデ ココデ マッテー
デヨー。(山梨県奈良田)

・スグ モドッテクルデ ココデ マットッテ。(富
山市)

・スン モドッテクルデ ココデ マットッテ。(岐
阜市)

【2】 述語用法

・A「コノゴロ タローノ キゲンガ ワルイ。」B
「オイシノ ジローガ コトオバッカ ホメルドー
デソ。」(山梨県奈良田)

・A「キモチ ワルイー。」B「アンナニ ノムデヤ
ワ。」(岐阜市)

【3】 文末用法

(1) 倒置

・ココデ チョックラ マッチテーデヨ。チュード
モドッテ クルデ。(山梨県奈良田)

・チョット ゴセンエン カシテ。ゲツマツマデニ

カエスデ。(富山市)

・ココデ チートバカ マットッテクレンカナ。ス
ン モドッテクルデエカ。(岐阜市)

(2) 終助詞的用法

・アトデ イマイチド デンワ スルデ。(山梨県奈
良田)

・オトーサンニ イーツケタルデナ。(岐阜市)

【4】 接続詞用法

・コノゴロ マイニチ アメガ フル。ソードーデ
センダクモノガ カワカノー。(山梨県奈良田)

・チカゴロァ マイニチ アメ フツチャ。ンダデ
センダクモンナ ナーシ カワカンチャ。(富山市)

・ココントコ マエニチ アメ フットル。 セ
デ センダクモン チョットモ カワカヘン。(岐阜
市)

《補説》

○富山市方言の話者は、デのほかにはサカイやノッテ
を用いる。デは劣勢であり、例文を得られていない
用法がある。

○山梨県奈良田方言では、「活用語＋断定辞ドー＋
デ」が、「～のだから」相当のほか、「～から・ので」
相当の場合にも用いられる。

・セッカク ガイコクノ ガッコーサ イクドーデ
(=行くのだから) チェント ベンキョーシテ
コデヨ。

・マイニチ アメガ フルドーデ (=降るので) セ
ンダクモノガ カワカノー。

○山梨県奈良田方言では、「アメガ フルラニ、カサ
ー モッテイカデ。」のように推量形に後接する場合
にはニを用いた例が出やすく、デの例が得られてい
ない。また、富山市方言では、デのほか、サカイな
ど他の形式も、推量形（意志形と未分化な～ウ・ヨ
ウ形）に付くことができない。

・×アメガ フロー {カラ／サカイ／ノッテ／デ}
カサ モッテケマ。(富山市)

○岐阜市方言では、終助詞的用法の場合、デ単独で
現れにくく、「アトデ マッペン デンワスルデエ
カ。」「オトーサンニ イーツケタルデナ。」のように
「エカ」「ナ」などの終助詞を付けるのが普通。

○岐阜市方言の接続詞用法における「ヤデ」は若年

層に使用される。

〔方言文献資料〕

〔a〕長野県上伊那郡高遠町山室（現・伊那市）〔全国〕

○デが用いられている。モンダデという形での使用も混じる。

〔1〕従属節用法

・ナンショー ヒトガ キタッタテ フントニ マ ツーキリ アケテルデ コマツチャッテナエー。（なにしろ客が来てもほんとうに松だけたいてい困ってしまひましてねえ。）

・ヒガ アルデ ソケー イッテ ントモヤー ナーニ デンキダモンダデ ソノ ヒガ（火があるからそこへ行ってみようと思えば、なあとに電気だものだからその火が……。）

・ミチ クライデ ダイジニ イットクレナイ。（道が暗いから気をつけて帰ってください。）

〔2〕述語用法

（該当例なし）

〔3〕文末用法

・アー ヘータイニ イクデー。（ああ、兵隊に行くから。）

・オラーモ チャット イッテ ヤスムデナー。（わたしも早く帰って休みますからね。）

〔4〕接続詞用法

・ソ نداデ ヨワッタゾエ。（それだから弱ったものだ。）

・ソエダモンダデナエー ソノ コロノ シュワ トテモ カセーダゾエ。（それだからねえ、その当時の人たちはとても働いたものだよ。）

〔b〕静岡県掛川市上西之谷〔全国〕

○デが用いられている。モンダデという形での使用も混じる。

○活用語にダデ・モンダデが付いて「～から・ので」相当と思われる例がある。

○ほかにニ・モンデが見られる。（⇒ニ）

〔1〕従属節用法

・ソリヤ ワシヤ ツラカッタデ ワスレンヨー。（それはわたしはつらかったので忘れませんよ。）

・マズー ワロージョー ソリョー ツクラニヤー

ソノアシタ ハクナン ナエーダモンダデ トーレンダデ ツクッタダン。（まずわらじを、それを作らなければその翌日はくのがないものだから、それではすまないで作ったんだ。）

・アルデネ オモチナサイ。（ありますからね、お持ちなさい）

〔2〕述語用法

（該当例なし）

〔3〕文末用法

・ソレジャ チョーチンノ シタクオ セルデネー ソレジャ。（それではちようちんの用意をしますからね、それでは。）

・サッパリ コーサク センモンダデネ。（さっぱり耕作をしないものですからね。）

〔4〕接続詞用法

（該当例なし）

〔c〕愛知県海部郡立田村小家（現・愛西市）〔全国〕

○デが用いられている。モンジャデという形での使用も混じる。

○ほかにニ・モンデが見られる。（⇒ニ）

〔1〕従属節用法

・コッチカラ コエータバッカジャッタモンジャデ カンガエニ ヒッカカッテ（こっちから引越したばかりだったので、川替えにひっかかって…。）

・ワシ ソノトキワ コドモジャデ オボエン ネアーケドヨー。（わたしはそのときはこどもだから、記憶がありませんけれどもね。）

〔2〕述語用法

（該当例なし）

〔3〕文末用法

・エレアー カゼジャッタデナー。（強い風だったからねえ。）

・マー ナニヨカ ネンブツガ デアージャデナモ。（なによりもお念仏が大事ですからね。）

〔4〕接続詞用法

（該当例なし）

〔d〕三重県一志郡美杉村川上（現・津市）〔全国〕

○デが用いられている。モンジャデ・モンヤデという形での使用も混じる。

○ほかにサカイ・サカイニ・モンデ・ンデが見られ

る。(⇒サカイ、ニ)

【1】従属節用法

・ウチデ ベントー モッテ クル モンヤデ イッセンモ ニセンゴリン ウチカラ クルノニ ツコータタラ イーヨッタワ。(家から弁当を持って来るものだから、1 銭も、2 銭 5 厘、家から来るのに使ったとか言っていましたよ。)

・トチューデ オータンジャデ エライ ハナシモシテオレンガ。(途中で会ったので長い話もしてられないが。)

【2】述語用法

(該当例なし)

【3】文末用法

・ドコモカモ アネラオ ヨーケ ヤトタデナ。(どこもかも娘たちをたくさんやとったからねえ。)

・ソイジャ マー イテクルデ。(それではまあ行って来るからね。)

【4】接続詞用法

・ソヤモンヤデ アンタ ヨーケ イソガシ シマセンナランサ。(そうですからあなた、いっそう忙しくしなければなりませんよ。)

(e) 滋賀県犬上郡多賀町萱原〔全国〕

○デが用いられている。モンヤデという形での使用も混じる。

○ほかにサカイニ・ノデ・モンデ・ガタメニが見られる。(⇒サカイ)

【1】従属節用法

・イマコソ ベンリニ ナッタデー ナニモカモアルケンドナー。(今こそ便利になったから何もかもあるけれどねえ。)

・ソコニ アルデ ミテミーヨ。(そこに あるから見てみろよ。)

【2】述語用法

(該当例なし)

【3】文末用法

・ホンナ クロー ヒタナー オクヤマバッカリイトル モンヤデ。(そんな苦勞をしましたね、奥山ばかり行っているものだから。)

【4】接続詞用法

(該当例なし)

(f) 兵庫県神崎郡神崎町栗賀(現・神河町)〔全国〕

○デが用いられるが、用例数は多くない。

○ほかにサカイ類(サケ・ハケ・サケニ・ハケニ・ハケデ)が見られる。用例はこちらのほうが多い。

【1】従属節用法

・ワシラ マタ トッショリヤデ ソンナコト オマハン ナンジャー ワター タンボニ ツクッテナー(わたしたちはまた年寄りだから、そんなことはおまえさん、なんだ、綿をたんぽに作ってねえ、)

【2】述語用法

(該当例なし)

【3】文末用法

・ドナイモ ッシャーナイ ジセツチャデナー。(どうにも仕方のない時節ですからねえ。)

【4】接続詞用法

(該当例なし)

(g) 鹿児島県鹿児島市〔全国〕

○デが用いられている。モンジャッデ・モンヤッデという形での使用も混じる。

○ほかにカラが一例見られる。(⇒カラ)

【1】従属節用法

・ヤドン オヤッドンナンダ クロザトガ ヨカチヤッデ ヤッバイ クロザトモ ソエッセー(うちの主人などは黒砂糖がいいと言いますのでやはり黒砂糖も添えて……。)

・アタエモ キーカカンデ マ ビョーインニ イットツ イタツ オンミヤッ クダサッオ。(わたしも気がかりますから、まあ病院にちよつと行ってごらんになってくださいよ。)

・アツ オサンデ ハヨ オヌッギヤッ。(暑うございますから早くお脱ぎください。)

【2】述語用法

(該当例なし)

【3】文末用法

・ホイデ マタ アμμαッ ソノモノガ ゴアスナー アー ナゴ クサハンデ オマンサン。(それでまた、あくまきそのものがですね。あの 長く 腐りませんから、あなた。)

・コラ シモター。アタイガ ケサ オセカッタモンジャッデ ミヤー。(これはしまった。わたしがけ

さ（来るのが）おそかったものですからねえ。）

・ソイジャ オマンサーモ マタ イソガシ ゴワ
ンソデー。（それではあなたもまたお忙しいことでは
ようから。）

【4】接続詞用法

（該当例なし）

*『日本方言大辞典』の関連形式と使用地域

で 《で》長野県、岐阜県、静岡県、愛知県、
三重県宇治山田市、滋賀県彦根、京都府竹野郡、
兵庫県佐用郡、奈良県吉野郡、島根県邑智郡、
岡山県津山、香川県、愛媛県、熊本県、大分県
下毛郡、鹿児島県 《て》秋田県河辺郡、長野
県更級郡、静岡県庵原郡、鹿児島県鹿児島郡
だで 《だで》長野県東筑摩郡、静岡県、京都
府竹野郡 《だんて》静岡県志太郡

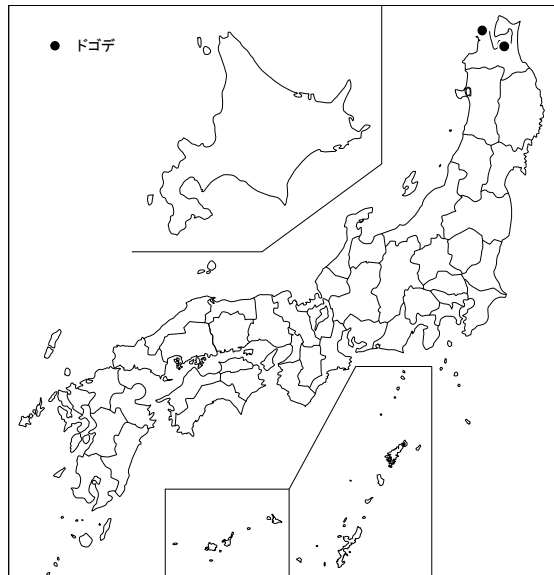
《参考文献》

彦坂佳宣（2005）「原因・理由表現の分布と歴史—
『方言文法全国地図』と過去の方言文献との対照
から—」『日本語科学』17

（小西いずみ）

ドゴロデ・トコデ

【分布】



（GAJ37 図「子どもなのでわからなかった」より）

○青森県津軽地方、下北地方において広く用いられる（上北地方・三八地方での使用は未確認）。

○津軽地方ではハンデ、下北地方ではハンデ・スケ・
ステと併用される。それらの形式と比べると、ドゴ
デは使用頻度がやや少なく、接続や用法もやや狭い
傾向がある。

○GAJ には現れていないが、方言文献資料 b にはド
ゴロデ・トコデの用例が見られる。

【意味用法】

○原因・理由の接続助詞。から。ので。

○「ので」相当の例文に多くみられる傾向がある。『方
言文法全国地図』においても 33 図「雨が降っている
から行くのはやめろ」と 35 図「だから言ったじゃな
いか」では回答されず、37 図「子どもなのでわから
なかった」でのみ回答されている。

○従属節用法では、(1)事態の原因、(2)行為の理由、
(3)判断の根拠、(4)発言・態度の根拠、(5)理由を表さ
ない用法のすべてをカバーする。

○述語用法での使用には制限がある。（⇒[共通調査]
《補説》）

○文末用法では、倒置では使用できるが、終助詞的
用法では使用できない。

○接続詞用法での使用が可能である。

【接続】

ドゴデ【接続助詞・原因理由】

○活用語の非過去形／過去形に後接する。

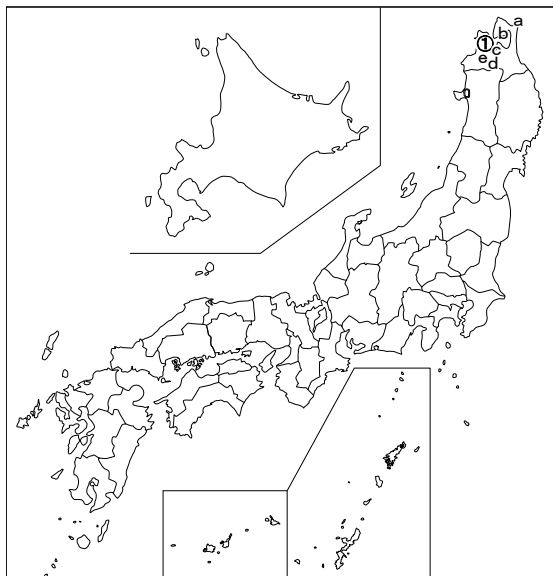
○推量形には後接しない。

○丁寧形には後接する。

【語誌】

○形式名詞「所（ところ）」に格助詞「で」がついた「ところで」が原形。「どこで」は、カ・タ行音が有聲化、「ろ」が脱落した形である。中央語では、室町時代の抄物やキリシタン資料に「ところで」の形で原因・理由を表す順接用法があるが、江戸時代になるとみられなくなり、明治時代中頃から逆接用法に限定され、現代に至る。室町時代から江戸時代の京畿では、接続詞としての用法も順接・逆接両方がみられる。

【報告地点】



(丸数字:共通調査 アルファベット:方言文献資料)

①青森県東津軽地方

a 青森県下北郡東通村 [資料 01]

b 青森県下北郡川内町 (現・むつ市) [資料 02]

c 青森県青森市大字牛館 [談話]

d 青森県南津軽郡黒石町 (現・黒石市) [全国]

e 青森県弘前市若党町、亀甲町 [集成]

【共通調査】

【1】従属節用法

(1)事態の原因

・マイニジ アメガ フルドゴデ センダグモノガ カワガナイ。(東津軽地方)

(2)行為の理由

・タイチョーガ ワルイドゴデ シゴドー ヤスム ゴドニシタ。(東津軽地方)

(3)判断の根拠

・ホシガ デデルドゴデ アスモ テンキニ ナル ビョン。(東津軽地方)

(4)発言・態度の根拠

・アブナイドゴデ コノカワデ アソブナ。(東津軽地方)

(5)理由を表さない用法

・スグニ モドツテクルドゴデ コゴデ マッテイ デケロ。(東津軽地方)

【2】述語用法

(1)A「キョ ミセ コンデルネ。」B「ニジョービダ ドゴデダネー。」(東津軽地方)

【3】文末用法

(1)倒置

・コゴデ チョット マッテイデー スグ モドツ テクルドゴデ。(東津軽地方)

【4】接続詞用法

・サイキンワ マイニヂ アメガ フル。ダドゴデ センダグモノガ カワガナイ。(東津軽地方)

《補説》

○従属節で、モンダドゴデの形が用いられることがある。

○述語用法では使用しにくい。

・A「キブン ワリシテ。」B「×アツラニ イッ ペ ノムドゴデダネ。」(東津軽地方)

○終助詞の用法では使用できない。

○推量形に後接させることができない。

・×アメ フルベドゴデ カサ モツゲ。(東津軽地方)

○「～のだ」相当形式に後接させることができない。

・×ジカンガ ネーンダドゴデ イソイダ。(東津軽地方)

○前件に聞き手に関する事態を述べ、それに基づいて後件で聞き手に対する要求や働きかける場合、使用しにくい。

・×ジュケンセダ ドゴデ モット シンケンニ ベンキョセ。(行為要求) (東津軽地方)

・×ジカンワ マダ ジューブン アルンダドゴデ

ユックリシテ イッテケロ。(行為要求)(東津軽地方)

・×シタドゴデ キョージュニ ヤルッテ シャベタツキヤ。(確認要求)(東津軽地方)

○年代差があり、若年層は使用しない場合がある。

【方言文献資料】

(a) 青森県下北郡東通村 [資料 01]

○ドゴデのほかに、ガラ、シケ・スケ、シテがみられる。(⇒カラ、サカイ、ハンデ)

【1】従属節用法

・アノ トノサマノ ハイッテエダ ヤシロノ タデアギバシラノ シタネ ヘビゴ ガマド ニシギエドゴデ トノサマノ ビョーキア ナオネ。(あの殿様の入っていた社の柱の下に、蛇と蛙とが二匹いるので、殿様の病気は治らない。)

・ジャ マヂガッテマッテ 「ジノ マナグサ アグ ハイレ」テ ヤッタドゴデ アグ ミナ ジノ マナグサ ハイッテシマッタ ド。(じいさんは間違ってしまったので、「爺さんの目に灰が入れ」と言ってやったので、灰はみんな、爺さんの目に入ってしまったんだって。)

・コマッテイダキア アル ヒトア 「クラ タデデ クラサ イレデ オゲバ イー。」ッタドゴデ クラ タデデ カギ カッテラドモ ソレデモ ノスブドア ハイル ジム。(困っていたら、ある人が「倉を建てて、倉に入れておけばいい」と言ったので、倉を建てて、鍵をかけていたけれども、それでも盗人が入るといふの。)

【2】述語用法

(該当例なし)

【3】文末用法

(該当例なし)

【4】接続詞用法

・トナリノ ババ 「ナニ クラテラバ。」ッテ ハイッテキタ ジモ。ヘタドゴデ フトノ イー ジト ババ 「トナリノ ババ チョンド イー ドゴサ キタ。」(隣のばあさんが「何を食べてるんだ」と入ってきたというもの。そうしたから、人の良いじいさんとばあさんは、「隣のばあさん、ちょうどいいところに来た。」)

(b) 青森県下北郡川内町(現・むつ市) [資料 02]

○ドゴロデ・ドゴデ・トコデが用いられる。

○ほかに、カラ・ガラ、シケ・スケ、シテ、ノデ、ハンデが見られる。(⇒カラ、サカイ、デ、ハンデ)

【1】従属節用法

・「ジサマド バサマド 『ト アケルナ』ッテ ソーシタドゴデ ワア アゲラレナイ」ッテ アゲナインダ ド。(「爺さまと婆さまが『戸を開けるな』って、そう言ったので、私は開けられない」と言って、開けないんだって。)

・ワタシガ サンニン ムスメオ モッテイルドゴデ ヌマノ ヌシニ オヨメ ヒトリ クレル ツモリシタ。オマエ イッテケロ。(私は三人の娘を持っているので、沼の主に嫁に一人をやることにした。お前、嫁に行ってくれ。)

・ムカシ ムカシ ヤマニ バケモノ イデアッタドゴデ ヨグ ハナシ キイデ イカネバ ナラナイ ヱッテ。(昔々、山に化けものがいたので、よく山の説明を聞いて行かなければならないんだって。)

【2】述語用法

(該当例なし)

【3】文末用法

・バサマ オニギリ ニギッテ ソシテ ソノヒモ オジーサンガ ヤマサ イクッテ シタドゴデノ。(おばあさんがおにぎりを握って、そしてその日もおじいさんが山に行くって言ったからな。)

・コメ カイニ イッタケア バケモノ イルンダモノ ヤマダドゴデ。(米を買いに行ったら、化けものがいるんだもの、山だから。)

【4】接続詞用法

・ハンジローガラ メズラシクモ コンド テガミキタンダ ソーダヨ。「タデデモッテ ニシン イッポン オクッタシテ ミンナシテ クッテ ケロ」ト。ソシタドゴデ ミンナ トナリキンジョ ミンナ アツバッテ 「ヤー ハンジローガラ ホントーニ キタ。イヤ イヤ ミンナシテ ワゲデ クーベシ」ッテ ホゴシタ ド。(江差の繁次郎から珍しく、この度、手紙が来たんだそうだよ。「タデでニシン一本を送ったから、みんなで食べてくれ」と。そうだったので、みんな、隣近所のみんなが集まっ

て、「やあ、繁次郎から本当に送られてきた。いやいや、みんなで分けて食べよう」と言って、分けたそうだ。）

〔c〕青森県青森市大字牛館〔談話〕

○ドゴデが用いられる。

○ほかに、ハンデ・ハデが用いられ、ドゴデより多用される。（⇒ハンデ）

【1】従属節用法

・スタキャ ムガスダバ ハヤグ エグドゴデ タエマヅ タエマヅ アガステ コノ オユワキサン ノ エアッパラ コー アリテラアヅ ホスネ メアダ ワゲ。（そしたら、昔なら早く行くので、松明、松明を明して、このお岩木さんの上の原っぱを、こうして歩いているのが星に見えたわけ。）

・ソステ コンド エサ ワラハンド ノゴステ オグドゴデア コレア ヘコキ キタアゼア テヘレバ ホレ カブナガラ エサ ハケデ エグワゲセアナ。（そして、今度、家に子ども達を残して置くので、こりゃ飛行機が来たらしいと言うと、それを被りながら家に走って行くわけよな。）

・マンダ ホロァ ドンドドンドド クーシューホラー クルドゴデ モエルドゴデ ソエゴソ ワラスサ スヅガテレバ ズブデモ マンダ ホロエノヅ ナグスベ。（また、ほら、どんどんどんどんと、空襲が、ほら、来るので、燃えるので、それこそ幼児にかまっていると自分でもまた、ほら、命をなくするだろう。）

・ハス ネアドゴデ カワ コガネバ ホラ マエネヤダベア。（橋がないので、川を越えないと、ほら、だめなのだろう。）

【2】述語用法

（該当例なし）

【3】文末用法

・サヘトリダバ ハー エヅバン スギデ ネスタ。オツケロ フパレ オツケロ フパレ テヤ コンダ スカエルドゴデヤ（さへ取りなら、はあ、一番好きでなかった。押っつけろ、引っばれ、押っつけろ、引っばれと、今度、叱られるので。）

・ニバンウヅ エヅバン ヘヅネ。エーマダラ ヘバ ナンモ キカエデバリ ヤル モンダドゴデ

ナ。（二番打ちが一番つらい。今ならすると何も機械でばかりやるものなのだな。）

【4】接続詞用法

・スタドゴデセアー コンダ サンケトド ヨルテーゴ タダエデア コリ トニ エグニ サーイギ サーイギテ サイギ ヨンデヨー。（だからね、こんど、参詣人達が夜、太鼓を叩いて明かりをとりに行くのに、祭祀、祭祀といって、祭祀を読んでね。）

〔d〕青森県南津軽郡黒石町（現・黒石市）〔全国〕

○ドゴデは従属節用法で過去形に後接する一例のみ。

○ほかに、ハデ・ハデアが用いられ、ドゴデより多用される。（⇒ハンデ）

【1】従属節用法

・アンマリ エー オデンキデ アッタドゴデ ソレ ムゴガラシ キタ ミジ キタノト ワガンネンデ アタノシ（あまりいいお天気であったので、それ、向こうからね、来た、水が来たのがわからなかったのです。）

【2】述語用法

（該当例なし）

【3】文末用法

（該当例なし）

【4】接続詞用法

（該当例なし）

〔e〕青森県弘前市若党町、亀甲町〔集成〕

○ドゴデ、モンダドゴデが用いられる。

○ハンデ・ハデも用いられ、ドゴデより多用される。（⇒ハンデ）

【1】従属節用法

・アレサ ナワコ フカゲデ コンダ スタガラ ノボテキテ ウエガラ エグ トギダバ ダマテデモ シベテエグダハデ コンダ モドリアズノアホラ サガ ノボテコネバ マネドゴデ ヘバ コンダ スタズサ フカゲデ ニグルマサモ アレーヨグ コー トツカマテ。（あれに縄を引っかけて今度は坂の下から上ってきて坂の上からすべって行く時はだまっけていてもすべっていくのだからいいが、今度は戻りというのはほら、坂を上ってこないといけないので、すると今度はそうしたもの引っかけて荷車にも、あれはよく、こうつかまって。）

・ホラ ソレ ハテルドゴデ ナンマンダデ クナト。(ほら それ 入っているの で 生で 食べるなと。)

・ホレ スケートダバ タゲベ。 ジェコ ネドゴデ ベンジャデ ネバ マエヘンナネ ホレ。(ほら。スケートなら高いだろう。お金がないからベンジャでないとだめなんですよ、ほら。)

【2】述語用法

(該当例なし)

【3】文末用法

・ハダゲニ デギダ モノバリ ヨゲ クテルモンダドゴデ ホレー。(畑にできたものばかりたくさん食べてるものだから、ほら。)

・ビニルノ フグロサ ハイタ ブリコ フタフグロ カテキテ コークビンデ オクテヤエスタネ。ホレ トーガデ ツグドゴデ。(ビニールの袋に入ったブリコを2袋買ってきて航空便で送ってやりましたよ。ほら 10 日で着くので。)

・エー タビノ ホ ウッテ ハギヤスンダキャ。スタハデ ケッキョグ ジェンコ ネドゴデ ホレハゲネドゴデ ハハオヤガ ミンナ。(よい足袋のほうかうんとはきやすいんだよ。だから結局お金がないから、ほら、はけないので母親がみんな。)

【4】接続詞用法

(該当例なし)

【方言文献資料目録】

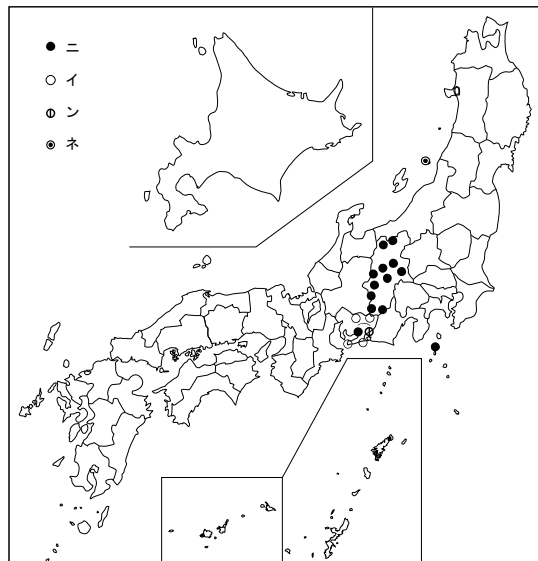
資料 01 : 大嶋孜 (1986) 『わたしの民話ノート 下 北半島 東通村の昔話』 青森県国民教育研究所

資料 02 : 青森県環境生活部文化・スポーツ振興課 史編さん室編 (2003) 『下北半島西通りの民俗』 青森県 (青森県史叢書・平成 15 年度)

(竹田晃子)

イ・ン・ネ

【分布】



(GAJ33 図「雨が降っているから行くのはやめろ」、37 図「子供なのでわからなかった」より)

○中部地方が分布の中心。長野県、愛知県、八丈島にニが分布し、愛知県にイ、ンなどが見える。新潟県粟島にネが現れる。

【意味用法】

○原因・理由の接続助詞。から。ので。

○従属節用法では、(2)行為の理由、(3)判断の根拠、(4)発言・態度の根拠、(5)理由を表さない用法がある。

○述語用法の使用は見られない。

○文末用法での使用も可能である。

○接続詞用法での使用も可能である。

○「のだから」の用法では、後件が聞き手の利益になる事柄の場合や、終助詞的用法で用いられる。

【接続】

○活用語の非過去形／過去形に後接する。

○推量形に後接する。

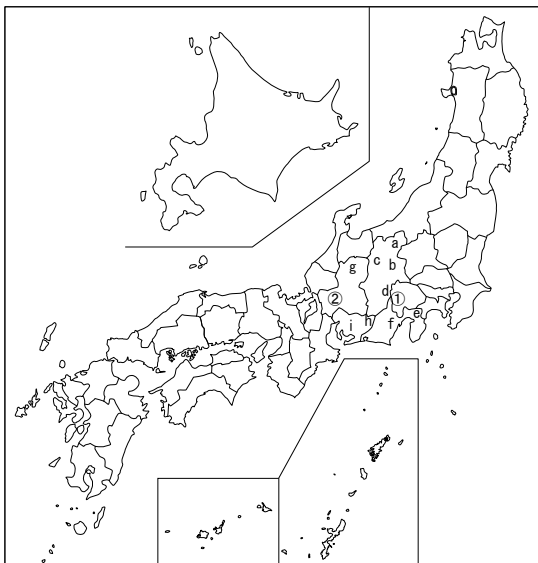
○丁寧形に後接する。

【語誌】

○格助詞の「に」から転じたものとされる。動きや状態がその中で成り立つ環境、情勢を表していた「に」から、動きや状態が成り立つ原因、理由、機縁を表す用法が生じたと考えられる。

二【接続助詞・原因理由】

【報告地点】



(丸数字:共通調査 アルファベット:方言文献資料)

①山梨県早川町奈良田

②岐阜県岐阜市

a 長野県中野市桜沢 [資料 01]

b 長野県上田市塩田 [資料 01]

c 長野県大町市 [資料 01]

d 長野県長谷村非持山 (現・伊那市) [資料 01]

e 静岡県吉原市吉永 (現・富士市) [全国]

f 静岡県掛川市 [全国]

g 岐阜県長谷郡古川町黒内 (現・飛騨市) [全国]

h 愛知県南設楽郡作手村菅沼 (現・新城市) [全国]

i 愛知県北設楽郡富山村中の甲 (現・豊根村) [談話]

[共通調査]

【1】従属節用法

(1) 事態の原因

(該当例なし)

(2) 行為の理由

・アンバイガ ワルイニ シゴトー ヤスム コトニ シトー。(山梨県奈良田)

・アンバイガ ワルイニ シゴトー ヤスマズ。(山梨県奈良田)

・ヨミチワ クライニ イッショニ イカザー。(山梨県奈良田)

・クラナツタニ ツラッテ カエロマイ。(岐阜市)

・アカンボガ ネットルニ シズカニ シヤー。(岐阜市)

・アメ フルニ カサ モッテキヤーヨ。(岐阜市)

・アカンボガ ネットルニ シズカニ シヤー。

・アカンボガ ネットルニ シズカニ シテマエンカナ。(岐阜市)

(3) 判断の根拠

・ホシガ デテルニ アシタモ ヨイ オテンキニナルラ。(山梨県奈良田)

(4) 発言・態度の根拠

・アブナイニ コノ カワデ アソビヤースナ。(岐阜市)

(5) 理由を表さない用法

・ゴムシンドーニ ゼニョー カイテ クレデー。(山梨県奈良田)

・タノムニ カネ カシテ。(岐阜市)

・スン モドッテ クルニ ココデ マットッテ。(岐阜市)

【2】述語用法

(該当例なし)

【3】文末用法

(1) 倒置

・エキマデ ムカエニ キテ クレーヘン? ヒチジニツクニ。(岐阜市)

(2) 終助詞的用法

・アトデ イマイチド デンワ スルニ。(山梨県奈良田)

・チョックラ イッテ クルヨ、オヤトウワナーヨ
プリンガ レーゾーコニ ハイッテルニ。(山梨県奈良田)

・オイシノ コトワ ゼッタイ ワスレノーニ。(山梨県奈良田)

・オトッサンニ イートウケテ クレルニ。(山梨県奈良田)

【4】接続詞用法

(該当例なし)

《補説》

○山梨県奈良田方言では、文末用法は見られない。

○山梨県奈良田方言では、従属節用法で行為の理由や判断の根拠を示す場合や、文末用法で終助詞的用法をとるときに、「ニ」は「ドーデ」や「デ」と併用される。行為の理由を表す用法の場合、後件が叙述、

意志、勧誘の場合に「ニ」が出る。

山梨県奈良田方言の「【1】従属節用法(2)行為の理由」例

・アンバイガ ワルイ {ドーデ/ニ} シゴトー ヤ
スム コトニ シトー。

・アンバイガ ワルイ {ドーデ/ニ} シゴトー ヤ
スマズ。

・ヨミチワ クライ {ドーデ/ニ} イッショニ イ
カザー。

山梨県奈良田方言の「【1】従属節用法(3)判断の根拠」例

・ホシガ デテル {デ/ニ} アシタモ ヨイ オ
テンキニ ナルラ。

山梨県奈良田方言の「【1】文末用法(3)終助詞的用法」例

・アトデ イマイチド デンワ スル {デ/ニ}。
・チョックラ イッテ クルヨ、オヤトウワナーヨ
プリンガ レーゾーコニ ハイッテル {ドーデ/ニ}。
・オイシノ コトワ ゼッターイ ワスレノー {デ/
ニ}。

山梨県奈良田方言では「のだから」に相当する用法においても「ニ」と「ドーデ」の併用が見られる。後件が聞き手の利益になる事柄の場合には「ニ」がよりそぐう。終助詞的用法でも「ニ」と「ドーデ」の併用が見られる。

・ジカンワ マダ アルニ ュックリ シテ イカ
ンナ。

・チャンスワ マダ アル {ニ/ドーデ} ゲンキ
オ ダサデョー。

・ハイ チュード ターイン {デル/デキル} {ニ/
ドーデ} アト インメードーデ シンボー シテ
ーデョー。

・オリヤー ゼッターイ アノ シトト ケッコンス
ル {ドーデ/ニ}。

・オレガ アマイ カオー スルト チュード チ
ョーシニノル {ドーデ/ニ}。

○岐阜市方言では文末用法において「ニ」が出現しているが、話者からは共通語の終助詞「よ」に相当する岐阜市方言終助詞「ニ」との区別がつきにくいとの内省を得ている。

○岐阜市方言の「ニ」は「デ」と併用される。岐阜市方言の原因・理由を表す汎用形式は「デ」の方であり、「ニ」が現れるのは従属節用法で行為の理由、発言・態度の根拠を表すときや、理由を表さない用法においてである。

岐阜市方言の「【1】従属節用法(2)行為の理由」例

・クラナッタ {デ/ニ} ツラッテ カエロマイ。

・アカンボガ ネットル {デ/ニ} シズカニ シヤー。

・アカンボガ ネットル {デ/ニ}、シズカニ シテマ
エンカナ。

・アメ フル {デ/ニ} カサ モッテキヤーヨ。

岐阜市方言の「【1】従属節用法(4)発言・態度の根拠」例

・アブナイ {デ/ニ} コノ カワデ アソビヤース
ナ。

岐阜市方言の「【1】従属節用法(5)理由を表さない用法」例

・スン モドッテ クル {デ/ニ} ココデ マット
ッテ。

・タノム {デ/ニ} カネ カシテ。(以上、全て岐
阜市)

ただし、報告者の観察によると「ニ」の方が出にくいとのことである。

○『方言文法全国地図』の原因理由の地図を見ると、「ニ」が認められる地点では併用回答が多く見られる。「デ」「カラ」「サゲ」「ンデ」と併用しているさまがうかがえる。

○逆接「～のに」を「ニ」で表す地域もあるが、原因・理由の「ニ」を使う地域で同じく逆接にも「ニ」を使うのは、『方言文法全国地図』1集40図「植えたのに(枯れてしまった)」によると長野県の以下の地点である。

563178 長野県上水内郡鬼無里村大字鬼無里字土倉
ニ (3併用。ノニ、ガ)

566177 長野県松本市島立区北栗 ニ (2併用。ケ
ンド)

567047 長野県南安曇郡奈川村古宿 ニ

567289 長野県茅野市大字湖東字須栗平 ニ

567318 長野県南佐久郡八千穂村大字畑字佐口 ニ

568023 長野県木曽郡開田村大字西野字下向 ニ

568122 長野県木曽郡檜川村大字奈良井下町 ニ
 569028 長野県木曽郡上松町下瀬木 ニ
 660034 長野県木曽郡南木曽町大字読書字新町 ニ
 (2 併用。ノニ)
 662015 長野県下伊那郡平谷村西町 ニ (3 併用。
 ケド、ノニ)
 662107 長野県下伊那郡南信濃村和田新町 ニ
 これらの地点では、原因・理由表現には「ニ」の他に「デ」「カラ」「サゲ」「ンデ」などを併用しているが、逆接表現には「ニ」が単用回答で出現している箇所が 11 地点中 7 地点ある。併用回答の出ている地点の 4 地点中 3 地点に「ノニ」との併用が見え、またこの地域は準体助詞の「の」が沈潜する地域である。長野県の上記の地域では、逆接は「ニ」が主要形式であるが、原因・理由を表す「ニ」は他の形式と交替しうるのであることがうかがえる。

【方言文献資料】

(a) 長野県中野市桜沢 [資料 01]

○従属節用法において行為の理由を表す場合にニを用い、特に後件が命令、禁止、勧誘の場合にそぐうと指摘している。文末用法での使用もある。
 ○他に使われている形式にはカラ、サケ、スケア、デ、ンテがある。(⇒カラ、サカイ、デ、ヨッテ)

【1】従属節用法

・アメ フルニ カサ モツテケ。(雨が降るから傘を持っていけ。)
 ・アブネニ ソンナ トケ エクナ。(危ないからそんなところへ行くな。)

【2】述語用法

(該当例なし)

【3】文末用法

・キョーワ シゴト ヤスマズヨ、アメモ フルニ。
 (今日は仕事を休もうよ、雨も降るから。)

【4】接続詞用法

(該当例なし)

(b) 長野県上田市塩田 [資料 01]

○従属節用法において行為の理由を表す場合にニを用いると指摘している。
 ○他に使われている形式にはカラ、デ、モンデがある。(⇒カラ、デ)

【1】従属節用法

・アメ フッテルニ カサ サシテケヨナー。(雨が降っているから傘をさして行けよなあ。)

【2】述語用法

(該当例なし)

【3】文末用法

(該当例なし)

【4】接続詞用法

(該当例なし)

(c) 長野県大町市 [資料 01]

○従属節用法において行為の理由を表し、後件が命令、禁止、勧誘の場合にニを用いる。命令、禁止、勧誘を表す文とともにのみ用いられると指摘している。文末用法での使用もある。

○他に使われている形式にはデ、ムンデ、ムンダデがある。若年層ではニはほとんど用いられておらず、若年層が多用するのはデ、モンデ、モンダデ、カラである。(⇒カラ、デ)

【1】従属節用法

・アミヤ フルニ カサ サシテケ。(雨が降るから傘をさして行け。)
 ・アブネニ スンナ トケ イクナ。(危ないからそんなところへ行くな。)

【2】述語用法

(該当例なし)

【3】文末用法

・キョーワ イクノ ヤメメカ、アメモ フルニ。(今日は行くのをやめようではないか、雨も降るから。)

【4】接続詞用法

(該当例なし)

(d) 長野県長谷村非持山 (現・伊那市) [資料 01]

○従属節用法において行為の理由を表す場合にニを用いると指摘している。

○他に使われている形式にはサケー、デ、モンデ、ダニヨッテ、ソイデ、ンテがある。(⇒サカイ、デ、ヨッテ)

【1】従属節用法

・アミヤー フルニ カサー セーテケ。(雨が降るから傘をさして行け。)

【2】述語用法

(該当例なし)

【3】文末用法

(該当例なし)

【4】接続詞用法

(該当例なし)

(e) 静岡県吉原市吉永(現・富士市)〔全国〕

○ニはこの1例のみである。

○カラが主に使われている。(⇒カラ)

【1】従属節用法

・ソーカイ インジャ マー ジュエンデモ イーヤ
マー マー タケアーニ マット マケテモライテ
ア…(そうかい。それではまあ十円でもいいよ。ま
あ高いからもっとまけてもらいたい……。)

【2】述語用法

(該当例なし)

【3】文末用法

(該当例なし)

【4】接続詞用法

(該当例なし)

(f) 静岡県掛川市〔全国〕

○ニはこの1例のみである。

○デ、モンダデ、ダモンダデがよく使われ、カラも
併用される(⇒デ、カラ)。

【1】従属節用法

・ソコントコンニ アルニ ミテ ミヨー。(その
ところにあるから見てごらんよ。)

【2】述語用法

(該当例なし)

【3】文末用法

(該当例なし)

【4】接続詞用法

(該当例なし)

(g) 岐阜県古城郡古川町黒内(現・飛騨市)〔全国〕

○ニはこの1例のみである。

○デが主に使われる。(⇒デ)

【1】従属節用法

・ハイ ソヤナーア シャ オメー タノムニ ゲ
タ イッソク カッシテヨー。(はい、そうですね。
それではあなた、お願いですからげたを一足買って
来てくださいよ。)

【2】述語用法

(該当例なし)

【3】文末用法

(該当例なし)

【4】接続詞用法

(該当例なし)

(h) 愛知県南設楽郡作手村菅沼(現・新城市)〔全
国〕

○ニはこの1例のみである。

○デ、モンデ、モンダデ、ダモンダデがよく使われ
ている(⇒デ)。

【1】従属節用法

(該当例なし)

【2】述語用法

(該当例なし)

【3】文末用法

・ソイジャー イッテコイヨ オラー オルニ。(そ
れでは行っていられしやい、わたしはここにあります
から。)

【4】接続詞用法

(該当例なし)

(i) 愛知県北設楽郡富山村中の甲(現・豊根村)〔談
話〕

○ニが用いられる。

○デ、モンデ、モンダデ、ダモンデ、ダモンダデが
よく使われ、カラも使用が見られる(⇒デ、カラ)。

【1】従属節用法

・ドーカ セツナクテ ショーネーニ ロクシン
カ° シ クリョーヨツチューモンダデ ソレオ ノ
マシタライエー ソーヤッタラ ヘー アサ ヘー
シンダッタエ。(どうか〔何故か〕せつなくて〔苦し
くて〕しかたがないから六神丸をくれっていうので
それを飲ませたらね、そうやったらもう朝、もう死
んだって言ったよ。)

【2】述語用法

(該当例なし)

【3】文末用法

・フントニ ホント ワリアイ ホカノ シュー
カ° ナンチューダカ ドージョーシテ クレルモ
ンダ^ニネー。(本当に、本当、わりあいほかの衆が何

というのか 同情してくれるのでね。)

・マー ラクニ … アシカ° イタクテ ショー
ネー^二。(まあ楽に。足が痛くてしかたがないから。)

【4】接続詞用法

(該当例なし)

* 『日本方言大辞典』の関連形式と使用地域

に 《に》東京都大島・長野県北安曇郡・上田、岐阜
県吉城郡、静岡県富士郡・掛川市、愛知県南設楽
郡

《参考文献》

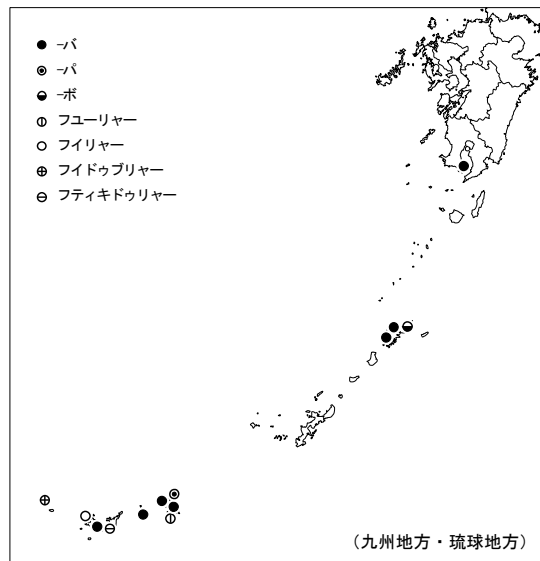
日本国語大辞典第二版編集委員会・小学館国語辞典
編集部 2001『日本国語大辞典第二版』「に」小学館
〔方言文献資料目録〕

資料 01：馬瀬良雄他執筆・長野県編集 (1992)『長野
県史 方言編』長野県史刊行会

(吉田雅子)

バ・パ・ボ

【分布】



(GAJ33 図「雨が降っているから行くのはやめろ」より)

○宮古島を中心に分布している。宮古大神島では、
バがみられるが、これはbの無声化によるものであ
る。

○奄美大島でもバはみられるがカランと併用されて
いる。大島郡宇検村湯湾では、ボも用いられるが、
bawa>bo の変化によるものであると考えられる。

○八重山諸島では、西表島と黒島にみられる。

○琉球方言以外では、鹿児島県揖宿郡頤娃町の1地
点のみフッチョイバという形でみられる。

○宮古、八重山でフイリヤー (降りおれば)、フリド
ゥブリヤー (降りぞおれば) 等の形がみられるがバ
の付いた形が変化したものだと考えられる。

【意味用法】

○原因・理由の接続助詞。から。ので。(⇒[共通調
査]《補説》)

○従属節用法では、(1)事態の原因、(2)行為の理由、
(3)判断の根拠、(4)発言・態度の根拠、(5)理由を表
さない用法のすべてをカバーする。

○述語用法での使用も可能である。

○文末用法での使用も可能である。

○接続詞的用法での使用も可能である。

【接続】

○活用語の過去形/非過去形の条件形に接続する。

○推量形にも後接する。

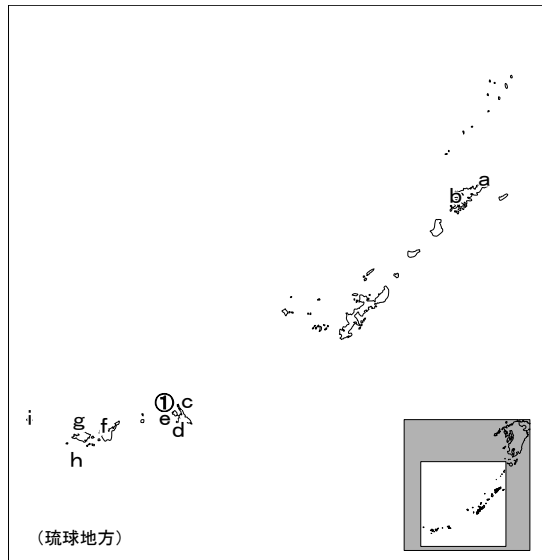
バ【接続助詞・原因理由】

○丁寧形においては、丁寧形に相当する形式が宮古方言ではみられない。

【語誌】

○中央語の「已然形+ば」に対応する。沖縄の古歌謡集『おもろさうし』（首里王府編纂 1531-1623 年編纂）でも原因・理由をあらわす「已然形+ば」に相当する形がみられる。

【報告地点】



(丸数字:共通調査 アルファベット:方言文献資料)

①宮古島市平良字下里

- a 鹿児島県笠利町赤木名〔全国〕
- b 鹿児島県大島郡瀬戸内町阿木名〔全国〕
- c 平良市大神（宮古群島大神島）〈現・宮古島市〉〔全国〕
- d 平良市西里（宮古島）〈現・宮古島市〉〔全国〕
- e 伊良部村長浜（伊良部島）〈現・宮古島市〉〔全国〕
- f 石垣市川平（石垣島）〔全国〕
- g 竹富町鳩間（鳩間島）〔全国〕
- h 竹富町波照間（波照間島）〔全国〕
- i 与那国町祖納（与那国島）〔全国〕

【共通調査】

【1】従属節用法

(1) 事態の原因

・マイニチュ アミヌ ッフイバ, キウンヌ カーラカン。

(2) 行為の理由

・ドゥーヌ バイウカイバドウ, シュグトゥー ヤスタイウ。

(3) 判断の根拠

・ブシウヌ イデューイバ, アツァマイ ゴー ワーチュウキウ ナイウバジウ。

(4) 発言・態度の根拠

・ウカーシウカイバ ウヌカーンナ アスプナ。

(5) 理由を表さない用法

・スグ ムドゥリクーツバ, クマンウティ マチューリ フィール。

【2】述語用法

・A ドゥーヌ ノーガラー バシードゥー。
B アンチャー ウパーター ヌミバサーイ。

【3】文末用法

(1) 倒置

・クマンカイ ピーチャ マチューリヨー スグ ムドゥリ クーディッシバ。

(2) 終助詞的用法

・アトゥカラ ンナ イッカイ デンワ スーディッシバ。

【4】接続詞用法

・ンナマナギャー マイニチュ アミヌ ッフイーイウ, アッシバ キウンヌ カーラカン。

《補説》

○宮古方言では、原因・理由の「から」「ので」は条件形+バの形式であらわされるが、この形式は次例のような条件もあらわす。

イキバドウ ッサリイウ。(行けばわかる。)

【方言文献資料】

〔全国〕で用いられている音韻表記をカタカナ表記にする際、琉球方言の特徴的な音韻は以下のように示す。

イウーī ウウーü キウーkī ギウーgī シウーsī
チウーcī リウーrī ツキーkī ツクーk'u ツティーtī
ツターt'a カ□ー□ ク□ー□ ムーm ルーr トゥーt
スーs

(a) 鹿児島県笠利町赤木名〔全国〕

○「已然形+ば」に対応する原因・理由をあらわすバが用いられるがカナも多くみられる。(⇒カラ)

【1】従属節用法

・ヤブシン ナリウバ ウェーティ オシウランバ
ナランガ、ウラ。(家普請だから分けてあげなくては
ならないが、それは。)

【2】述語用法

(該当例なし)

【3】文末用法

(該当例なし)

【4】接続詞用法

(該当例なし)

(b) 鹿児島県大島郡瀬戸内町阿木名〔全国〕

○「已然形+ば」に対応する原因・理由をあらわす
バが用いられるがカナ、カランも多くみられる。

【1】従属節用法

・ナマヤ イチジカンシ コーウンキジャヌー ツ
カヅティシャー ナンチョウヌ ジー アタムティカ
ラ ブーット シウラリウルバ ウリヤムカシヌ
オーヌシカヤ ニヤ ツクン アトヤ アラシウジ
ヤガチ シュータンムンナ ミウーミウ カマガマ
ガディ ココ コーウンキ イリウルバ イドウ
イチジカンヤ ニジカン、イチジツ フトッカ シウ
ラユン ユヌナカ ナトゥンカナヤ。(今は一時間で
耕耘機かなんか使ってすらすらと何町歩の土地があ
っても、すらすらとできるから、それは昔の大地主
などは、もう、それ以降は荒れ放題になるとわれて
いたんだが、狭い所までどこもかしこも耕耘機を
入れれば、やあ一時間や二時間、一日二日でできる
ような世の中になっているからね。)

【2】述語用法

(該当例なし)

【3】文末用法

(該当例なし)

【4】接続詞用法

(該当例なし)

(c) 平良市大神(宮古群島大神島)〈現・宮古島市〉
〔全国〕

【1】従属節用法

・ウウアトゥ ンマトウーパ ウトゥルスカリバトゥ
アンシ ウタウウサー イー。(父と母とがこわいから、
そんなにしていたよ。)

【2】述語用法

(該当例なし)

【3】文末用法

・シヴァ サマウィナ。 ウレー チャウブン ヤ
リバ。(心配なさるな。これはもういいから。)

【4】接続詞用法

・ヤイバ ンメ イッチャ イティ ンメ カンチ
ュー カリ ウリイリ ウリケール スクラ シー
イライ ピストウン ナシイリ ンメ ウリタカ
パタラクサ ファイ ラクン ナウウ クトウ イ
ー(だからもう精出してもう健康でいて、それらを
優秀に育てえらい人にしていて、もうそれらの働き
で食べ楽になることね。)

(d) 平良市西里〈現・宮古島市〉〔全国〕

【1】従属節用法

・ヤーシウカリヤーマイ アンマリ ウムツシカイ
バ ティー ミー ウリッティ フニ クギウイウ
チャーナ ミーッティ キウシウタイウサーイ。(ひ
もじいのだが、あまりおもしろいので、おもしろい
と見ていて舟を漕ぐのだけを見てきたんですよ。)

【2】述語用法

(該当例なし)

【3】文末用法

・マタ バガ ディカシ クーディッシバ。
(また私がでかす〔たくさん釣って〕来るから。)

【4】接続詞用法

・ヤイバドゥ ンナマガミマイ ハーリーヤ チャ
ー アリドゥーウイウ。(だから今までもハーリー船
はずっとあったのです。)

・アシバドゥ サニチュガミ ウイガ カキヤード
カー ノーガ スーディガー。(だから3月3日まで
それが間に合わなければどうしようかと。)

(e) 伊良部村長浜(伊良部島)〈現・宮古島市〉〔全
国〕

【1】従属節用法

・バンマイ アティ ンフカイバイ ハー キョー
ヤ ンミヤ スグ イザンマイ マーリ ンミヤ
ムナ パタラキー ッタムドーイ。(わたしもとても温
かいから、さあ、きょうはもう大いにあちこちまわ
ってみんな働いて来たよ。)

【2】述語用法

(該当例なし)

【3】文末用法

・コノ オコザラオ シウティルナヨート ムナ マ
タ パナスマイ アショイーバ。(このオコザラを捨て
てるなよと、またみんな話もしているから。)

・キョーヤ ンミヤ ザオ ワーチュチュ ャイバ
イ。(きょうは、まあ、いい天気だから。)

【4】接続詞用法

(該当例なし)

(f) 石垣市川平(石垣島) [全国]

○「已然形+ば」に対応する原因・理由をあらわす
バがみられるが、キも用いられている。(⇒ケー)

【1】従属節用法

・ヌチュヌ ハタ トウコー オービドゥ ヤリバ、
ドゥー ブーサ アリディリ ウント パーヤ ギ
ウバララ。(命があった得はそれだから、体が強くあ
ってうんとわたしたちは働こうね。)

【2】述語用法

(該当例なし)

【3】文末用法

(該当例なし)

【4】接続詞用法

(該当例なし)

(g) 竹富町鳩間(鳩間島) [全国]

【1】従属節用法

・ヒナン シラリン クトーティン ナーヌ マー
ル パルーティ シー ベーンケンマー ガッコー
マーキル メー クンクリヤーヌ アリバ ガッコ
ウル カー ヒナン シラリ ミーティ シー…。

(避難できるところといってもなく、どこへ行こう
かとしていると、学校まで、まあコンクリート造り
があるので、まあ学校へ避難できるんだと…。)

【2】述語用法

(該当例なし)

【3】文末用法

(該当例なし)

【4】接続詞用法

(該当例なし)

(h) 竹富町波照間(波照間島) [全国]

【1】従属節用法

・マー マナラ マー ブヤトゥ バフタナリー
ンギ コシバ エシター ダイマ マーニゲー シ
ウコリヤー マー。(まあ、今から、まあ、じいさん
とわたし二人で行って来ますので、それであなたが
たはまあ願って下さいよねえ。)

・ウタマンジヌ マター ブヤー イチウル カイ
ルカヤー カイルカヤータ マチダーパチュ ヤバ
カイリ シラシャロマー。(子供たちが、またじいさ
んいつ帰るだろうか、帰るだろうかと、待っている
はずだから、帰らなければならないでしょう。)

【2】述語用法

(該当例なし)

【3】文末用法

・バヌン ダーグ シウコラシバー。(私も道具を準
備しておくから。)

【4】接続詞用法

(該当例なし)

(i) 与那国町祖納(与那国島) [全国]

○与那国方言では、原因・理由をあらわす「已然形
+ば」に対応する形式は、音変化によりくずれた形
であられる。

【1】従属節用法

トウチャ トウチ イツティドゥ ワルユンガラ
ン トウチヌ サツタ ンディンディ イビツタティヌ
ハナンツキツティ アツタンツティン マン マギドゥ
ツキワルン ムヌ アリヤ シガツタ ミヌリヤン
アン ウムイッチ。(年も年でいらしたから、年のせ
いというものでちょっとしたかぜでも、もうお敗け
になるものだから、しかたがないから思い切りなさ
い。)

【2】述語用法

イスガサ ミヌカ□ドゥ ウトゥダントヌ ダミク□
ラニヌンツキ コッチ ダミヤドゥ。(忙しくはな
いけれど、きょうだいたちの家をまわれないで、背
中が痛くなるからね。[きょうだいたちの家をまわら
ないのは腰が痛くなるからだ] の意。)

【3】文末用法

(該当例なし)

【4】接続詞用法

(該当例なし)

《参考文献》

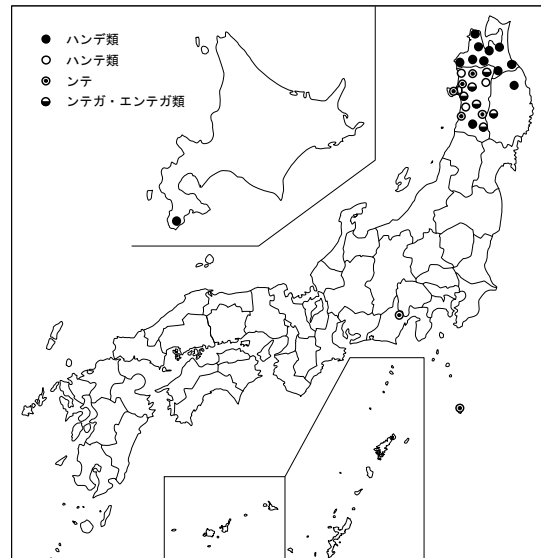
沖縄古語大辞典編集委員会 編（1995）『沖縄古語大辞典』角川書店

野原三義（1998）『新編 琉球方言助詞の研究』沖縄学研究所

（中本謙）

ハデ・ハデア・ハンデ・ヘアンデ・ヘンデ・ヒエンデ・エンデ・セーデ・ハンテ・ヒヤンテ・アンテ・エンテ・エッテ・エンテガニ・エンテガ・ンテ・ンテガラ・ンテガニ・ンテガ・テカニ

〔分布〕



（GAJ33 図「雨が降っているから行くのはやめろ」より）

○主に青森県津軽地方から秋田県全域に分布する。青森県にはハンデ類、秋田県にはハンテ類、ンテが多い。

○ハンデ類としてまとめたものは、北海道ハンデ、青森県ハンデ・ハデ・ハンデ・ヘアンデ・ヘンデ、秋田県南部ヒエンデ・エンデ、岩手県北部セーデである。

○ハンテ類としてまとめたものは、ハンテ・ヒヤンテ・アンテ・エンテ・エッテである。いずれも秋田県内に見られる。

○秋田県にはエンテ類とカラ（ニ）の混交形であるエンテガ類（エンテガニ・エンテガ）、ンテとカラ（ニ）の混交形であるンテガ類（ンテガラ・ンテガニ・ンテガ）がある。（⇒カラ）

○青森県下北半島と秋田県由利地方南部から山形県庄内・最上・村山地方にかけての地域に、ハンデ系とサカイ系の形式の混交形がある。（⇒サカイ）

〔意味用法〕

○原因・理由の接続助詞。から。ので。

○従属節用法では、(1)事態の原因、(2)行為の理由、(3)判断の根拠、(4)発言・態度の根拠、(5)理由を表さない用法のすべてをカバーする。

ハンデ【接続助詞・原因理由】

○述語用法でも使用可能である。(⇒[共通調査]《補説》)

○文末用法での使用も可能である。

○接続詞用法での使用も可能である。

【接続】

○活用語の非過去形／過去形に後接する。

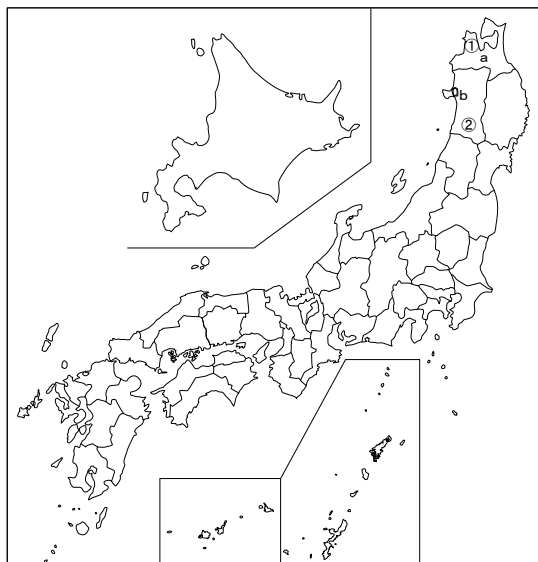
○推量形にも後接する。(⇒[共通調査]《補説》)

○丁寧形にも後接する。(⇒[共通調査]《補説》)

【語誌】

○名詞「程(ほど)」に格助詞「に」が後接した「ほどに」に由来する。古くは「(~している)うちに」という時間的経過の意味を表していたが、室町期以降に、原因・理由の意味を表す接続助詞として用いられるようになった。

【報告地点】



(丸数字:共通調査 アルファベット:方言文献資料)

①青森県東津軽地方

②秋田県湯沢市

a 青森県南津軽郡黒石町(現・黒石市)〔全国〕

b 秋田県南秋田郡富津内村(現・五城目町)〔全国〕

【共通調査】

【1】従属節用法

(1) 事態の原因

・メンヅ アメガ フルハンデ センダグモノガ カワガネ。(東津軽地方)

・マイニジ アメ フルエンテ センダグモノ カワガネー。(湯沢市)

(2) 行為の理由

・カラダアンベ ワルハンデ シゴド ヤスムゴド ニシタ ジャ。(東津軽地方)

・アンベ ワリエンテ シゴド ヤスムゴドニ シタ。(湯沢市)

(3) 判断の根拠

・ホシ デデダハンデ アスモ テンキニ ナルベ一。(東津軽地方)

・ホシガ デデラエンテ アシタモ エー テンキニ ナルベオノ。(湯沢市)

(4) 発言・態度の根拠

・アブネハンデ コノカワデ アソブナ。(東津軽地方)

・アブナイエンテ コノ カワデ アソブナ。(湯沢市)

(5) 理由を表さない用法

・スグニ モドッテクルハンデ コゴデ マッテデ ケロ。(東津軽地方)

・ソンマ モドッテクルエンテ コゴデ マッテデ ケレ。(湯沢市)

【2】述語用法

・A「キブン ワリシテ。」B「アッタラニ イッペ ノムハンデダネ。」(東津軽地方)

・A「キブン ワリ。」B「アンタニ エッペ ノム エンテダ。」(湯沢市)

【3】文末用法

(1) 倒置

・コゴデ チョット マッテデ。スグ モドッテクルハンデ。(東津軽地方)

・コゴデ ビヤッコ マッテデケレ。スグ クルエンテ。(湯沢市)

(2) 終助詞的用法

・アドデ モイッカイ デンワスハンデ。(東津軽地方)

・アドデ モー イッカイ デンワスルエンテ。(湯沢市)

【4】接続詞用法

・サイキン メンヅ アメ フル。{ンダハンデ/スタハンデ} センダグモノ カワガネ。(東津軽地方)

・サイキン マイニジ アメ フル。ンダエンテ セ

ンダグモノ カワガネー。(湯沢市)

《補説》

○東津軽方言では、原因・理由表現としてハンデとドゴデが併用される。ハンデは現在もさかんに使われているが、ドゴデは現在はあまり使われなくなっている。(⇒ドゴデ)

○湯沢市方言では、原因・理由表現としてエンテとガラが併用される。エンテのほうがより方言的な形式であると認識されている。

○湯沢市方言のエンテは述語用法でも使用されるが、従属節用法に比べると使用しにくいようである。東津軽方言のハンデにはこうした制限はない。

○東津軽方言のハンデ、湯沢市方言のエンテは、推量形にも後接する。

・アメ フルベハンデ カサ モッテゲ。(東津軽地方)

・アメ フルベエンテ カサ モッテエゲ。(湯沢市)

○外ヶ浜町方言のハンデは、丁寧形にも後接する。湯沢市方言のエンテも、丁寧形にも後接する。ただし、この方言では丁寧形（敬語一般）の使用がさかんではないため、定着した表現とは言えない。

・チョット ハナシコ アリマスハンデ コゴサキテケへ。(東津軽地方)

・ビヤッコ ハナシ アルシエンテ ココサキテケレ。(湯沢市)

〔方言文献資料〕

〔a〕青森県南津軽郡黒石町（現・黒石市）〔全国〕

○ハデ・ハデアが用いられている。用例数はハデが多い。

○ほかにドゴデ・ダシが見られる。(⇒ドゴデ、ダス)

【1】従属節用法

・シタラシ バンゲ マダ クルハデ キタラ アノー ドコサモ デネテ エテキヘジャ。(それならね、晩方また来ますから、帰って来たら、あのう、どこへもでかけないで(家に) いてください。)

・アスコサ アレア テアシ アラル ユコ トテ オイダハデア マデニ アラテ マー エサ ハテ…。(あそこに、あれ、手足を洗う湯をとっておいながら、ていねいに洗って、まあ、家にはいって…。)

【2】述語用法

(該当例なし)

【3】文末用法

・コレ ワーズガダドモ コレ オイワイノ オシルシデシハデ。(これはわずかですが、これ、お祝いのおしるしですから。)

・モドレバ ソシテ シャベテ オクハデア。(もどればそう言うておきますから。)

【4】接続詞用法

(該当例なし)

〔b〕秋田県南秋田郡富津内村（現・五城目町）〔全国〕

○ンテが用いられている。また、ンテガ・テカニが見られる。これらは、ンテカラニの縮約したものである。

○ほかにカラが見られる。(⇒カラ)

【1】従属節用法

・コンダ マタ クルンテ マツ イクデア。(こんどまた来るから、まあ帰るよ。)

・サカナウリナバ ナニ マイニチ クランテガ マズシャ クウシノ ンメンダリ エヤンダズ シコシ カシテケンシェデアー。(さかな売りなら、なに、毎日来るから、まあ、お菓子のおいしくていいのを、少し買ってきてくださいね。)

・エノシロ マワネ ワシダチャ ミンナ ヤバリダスモンデ アッタテカニナー。(家の後をまわらないこどもたちにも、みんなやはり出すものであったからねえ。)

【2】述語用法

(該当例なし)

【3】文末用法

・マイニツ クルンテナー。(毎日来るからね。)

【4】接続詞用法

(該当例なし)

*『日本方言大辞典』の関連形式と使用地域

はんで 《はんで》北海道松前郡・同南部、秋田県平鹿郡、山形県最上郡、福島県相馬郡 《はんで》秋田県 《はで》北海道松前郡、青森県津軽、山形県西田川郡 《へで》青森県南部 《ほで》山形県西置賜郡

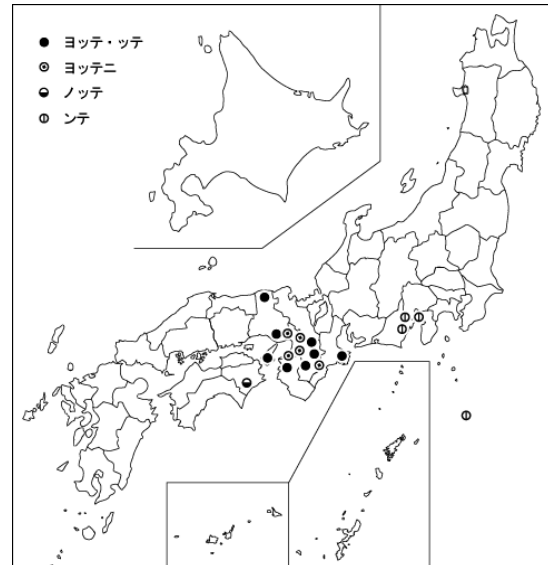
えんて 《えんて》秋田県河辺郡 《えあんて》秋

田県平鹿郡

(日高水穂)

ニヨッテ・ヨッテニ・ヨッテン・ユッテン・ノッテ・
ニッテ・ンッテ・ンテ・ッテ・テ・テ

〔分布〕



(GAJ33 図「雨が降っているから行くのはやめろ」、37 図「子供なのでわからなかった」より)

○大阪府、奈良県、三重県、兵庫県にヨッテ・ヨッテニが使われている。

○方言文献資料 c・d によれば、ニヨッテは東京都利島、島根県隠岐島に見られる。また山田 (2007) によれば、岐阜県にもあるという。ただし岐阜県恵那郡・郡上郡・可児郡の方言文献資料には「ニヨッテ」の記録があるが、この形式は現在では衰退が著しい。

○〔共通調査〕によれば、富山県、徳島県にノッテがある。また〔講座〕によれば、大分県南奥地にノッテがある。

○方言文献資料 c・e・f・g によれば、静岡県中部、東京都利島・八丈島・長崎県対馬・熊本県天草にンテ・テ・テがある。

〔意味用法〕

○原因・理由の接続助詞。から。ので。

○従属節用法では、(1) 事態の原因、(2) 行為の理由、(3) 判断の根拠、(4) 発言・態度の根拠、(5) 理由を表さない用法のすべてをカバーしている。

○〔共通調査〕によれば、述語用法での使用不可。

〔方言文献資料〕の中でも確実な例がみられない。

○文末用法では、倒置も終助詞的用法も可能である。

ヨッテ【接続助詞・原因理由】

○接続詞用法での使用には方言差がある。(⇒[共通調査]・[方言文献資料])

【接続】

○活用語の非過去形／過去形に接続する。

○推量形への後接には方言差がある。(⇒[共通調査]《補説》)

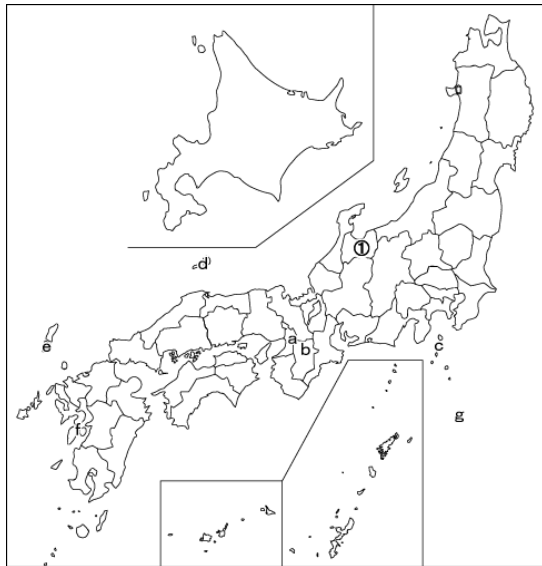
【語誌】

○中世資料に現れる「によりて」「によつて」は、近世上方資料において「よつて」を経て「よつてに」が見られるようになる。これが大阪府や奈良県のヨッテ・ヨッテニに繋がっている。

○ニヨッテが各地へ伝播し変遷して、ニヨッテの/nijo/の融合から富山県のノッテや大分県のノッチェが生まれたと考えられる。また伊豆諸島のンテは、ニヨッテからノッテを経てンテへと変化したと考えられるが、ニテ由来とする説もある。

○近世の方言資料をみると、尾張で「によつて」・「よつて」が使われている。また薩摩にも「よつて」が見られるという。

【報告地点】



(丸数字:共通調査 アルファベット:方言文献資料)

①富山県富山市

a 大阪府大阪市 [全国]

b 奈良県山辺郡都祁村 (現・奈良市) [全国]

c 東京都利島村 [全国]

d 島根県隠岐郡 (隠岐諸島) [講座]

e 長崎県下県郡巖原町豆酏 (現・対馬市) [全国]

f 熊本県本渡市佐伊津 (現・天草市) [全国]

g 東京都八丈町 (八丈島) [資料 01]

【共通調査】

【1】従属節用法

(1) 事態の原因

・マイニチ アメ {ダノッテ／ナモンダノッテ／ダモンダノッテ} センダクモンナ (ナーン) カワカンナ。(富山県富山市。ただしサカイ類などの他の回答語形を省略。以下同。)

(2) 行為の理由

・タイチョーガ ワルイ {ノッテ／×モンダノッテ} キョーワ シゴト {オ／φ} ヤスモー。(富山県富山市)

(3) 判断の根拠

・ホシガ デトルノッテ アシタモ (イー) テンキダロワイニ。(富山県富山市)

(4) 発言・態度の根拠

・アブナイノッテ コノ カワデ アソブナ。(富山県富山市)

(5) 理由を表さない用法

・スグ モドッテクルノッテ ココデ マットッテ。(富山県富山市)

【2】述語用法

・ノッテの使用不可 (富山県富山市)

【3】文末用法

(1) 倒置

・ココデ チョット マットッテ。スグ (ニ) モドッテ クルノッテ。(富山県富山市)

(2) 終助詞的用法

・アトデ {モー イッカイ／マタ} デンワスル ノッテ。(富山県富山市)

【4】接続詞用法

・ノッテを含む形式の回答なし (富山県富山市)

《補説》

○富山県富山市のノッテは、推量表現に後接しない。

・×アメガ フローノッテ カサ モッテケマ。

・×アメガ フルダローノッテ カサ モッテケマ。

○富山県富山市では「ノッテ」の使用頻度は少なく、「モンダノッテ」は稀であるという (小西いずみ報告)。

【方言文献資料】

(a) 大阪府大阪市〔全国〕

○ヨッテニはヨッテンと発音されることがある。また丁寧形式デス・マスに後接する場合、デシヨッテニのように丁寧形式の語末母音とヨッテニの語頭が融合することがある。

○サカイ、シ、ノデ・ンデ、デも併用している。

【1】従属節用法

・ハヨ ベベ チャントシテ ゴアイサツニ デナハレヤー ユーテナー ホンマニ イチバンニ オモヤエナー ワチシノ ホー プンケデシタヨッテンナー オモヤエ イチバンニ オレーニナー イキマシテ オカシ モローテ クルノン ソレガイチバン ウレシ ゴワシタ。（「早く着物をちゃんとしてごあいさつに出なさいよ」と言ってね、ほんとにいちばん（先）に本家へね、わたしの方は分家でしたからね、本家へいちばんに回礼にね行きて、お菓子をもらって来るのが、それがいちばんうれしゅうございました。）

・マー オイオイ サム ナリマスヨッテニ ドーゾ オカゼ メサンヨーニ キオ ツケトクレヤスナ。（まあ、おいおい寒くなりますから、どうぞおかげを召さないように気をつけてくださいね。）

・マタ アラタメテナー ゴチソーニ ナリニ サンジマスデ ゴザイマスサカイニ モー コンニチワ コレデ シツレーサシテ イタダキマスデ ゴザリマスヨッテニ ソロソロ。（またあらためてね、ごちそうになりてまいりますでございましてから、もうきょうはこれで失礼させていただきますから、そろそろ……。）

【2】述語用法

（該当例なし）

【3】文末用法

・モー フンナ ユーテル ウチニ スグ トーカエバスサンデスヨッテニナー。（もうそうこうしているうちにすぐ十日戎さんですからね。）

・マー タダイマノ カター ミナ ハデズキデシヨッテニナー。（まあ、このごろの方はみんなはで好きですからね。）

【4】接続詞用法

・ソーデシヨッテニ ヨッポドノナ オヒトヤ ナイトナ イキャハリセナンダ。（そうですから、よほどのね、お方でないとね、いらっしやいませんでした。）

(b) 奈良県山辺郡都祁村（現・奈良市）〔全国〕

○ヨッテ・ヨッテンを使用する。これらはユッテ・ユッテンと発音されることもある。

○サカイ・サケー・サケ・サケーニ・モンヤサケニ・モンヤサケ・サキーなど、サカイ系の形式も多用する。

○接続詞にはヨッテ系ではなく、サカイ系のソヤケやニ系のソンデニが使われている。

【1】従属節用法

・ウチノ ヨメニナ ユサゴツチュ モノー ムカシ コー デケタラ ア コシアエテンテ ユータヨッテンナ ユサゴツテ オトーサン ナンデーツチュオンネー。（家の嫁にねえ、「ゆさごというものを昔子どもができたらしらえたのだ」と言ったのでね、「ゆさごって、おとうさん何ですか」と言うのよね。）

・ワシラノ ジウンニワナ テカンコトー アトツイトッテモ バーサン コワイモンヤヨッテン ホットイテ ホシトイテ ホシテ タンボイ イタヤロ。（わたしたちのころにはねえ、はっきりと跡がついていても、ばあさんがこわいものだから、ほっておいて干しておいて、そしてたんぼに出たでしょう。）

・ソヤケド マヨイン バスノ ツゴーモ ヨカッタユッテン ヨカッタケドナー。（だけどそのかわりバスのつごうもよかったからよかったけれどねえ。）

・モー ダイブンニ ナガイキ サシテモロタユッテ アリガタイケロエー ケドエ シニタイツ チュー コトワ ナイモンナー。（もうたいそう長生きさせてもらったからありがたいけれどね、だからといって死にたいということはないですものね。）

【2】述語用法

（該当例なし）

【3】文末用法

・ドンナンデモ カマヘン ドーニナト スルヨッ

テ。(どんなのでもかまいません、どうにでもしますから。)

【4】接続詞用法

(該当例なし)

(c) 東京都利島村〔全国〕

○ニヨッテ・ニッテ・ンッテを使用する。

○ニ、デも併用している。

○接続詞にはヨッテ系ではなく、ダニが 1 例使用されている。

【1】従属節用法

・ムカシー ヨイ クラシヲ シター ウチナモンダニヨッテナー カメー アロラジヨ。(昔いい暮らしをした家だものですから、かめがあるんですよ。)

・トーキョーエ イッテ アンデモ ラレガイノチヨガ チーサイ トキダッケニヨッテ アイダアレガ ゴジューシゴニ ナンノーニヨッテ ヤットノ アカンボジブンダッケニヨッテ アレダナー ゴジューシゴネングライ……。 (東京へ行って、なんでも私の家の千代が小さいときでしたから、あれだ、あれが 54、5 歳になるでしょうから、ほんの赤ん坊のころでしたから、あれですね、54、5 年ぐらい……。)

・ア オレガイノ イエー イケバナー パバーガイターニッテ チャー ノンデ イケバ ヨカッタニ。(おれの家へ行けばね、おばあさんがいたから、お茶を飲んで行けばよかったのに。)

【2】述語用法

(該当例なし)

【3】文末用法

・ヨーデン ナッタニヨッテ マー ソーシテ。(夕方の別れのあいさつ時) 夕方になったので、そして。)

・ムカイアイダニッテナー ズット ア ア チーット ハナイテイテモ。(家が) 向かいあいですからね、ずっと、少し離れていまして。)

【4】接続詞用法

(該当例なし)

(d) 島根県隠岐郡(隠岐諸島)〔講座〕

○島根県全体で見るとケーが広く用いられているが、隠岐にはニヨッテがある。

・キョーワ サブイニヨッテ……。 (今日は寒いので……。)

(e) 長崎県下県郡厳原町豆酏(現・対馬市)〔全国〕

○テ・テーを使用する。

○ケー・ケ・デも併用している。

○接続詞にはヨッテ系ではなく、デ系のホデー、ソイデが使われている。

【1】従属節用法

・ミチョッタ モンジャテー イマー アヤチ イタ クリョート モーチ カズレ ヒッカカイ ヒッカカイシテ イタチ ミータ トクンニ ナーンガ サキー イタチ ミール トキニ ヒトーテンタキジャットジャン ハッ。(見ていたものだから、いまあそこへ行ってやろうと思って、「かずら」にひっかかりひっかかりして行ってみたら、なあんだ、さき(のほう)に行ってみると、きりたった崖だった。)

・ンナラ オイガ アトカラ テアーチ モッテクイテ イタッ スコランナー。(ではわたしがあとからたいて持つて行くから、行って働きなさい。)

【2】述語用法

(該当例なし)

【3】文末用法

・イモワ タカラバイ ナラン シナー ネットジャテ ナン。(いもは宝ですよ。ならないものはないのですから。ねえ。)

・イ イ チョド シオドキジャッタテナー。(ちょうど干潮でしたからねえ。)

【4】接続詞用法

(該当例なし)

(f) 熊本県本渡市佐伊津(現・天草市)〔全国〕

○「あいさつ」会話ではテ・テーが多く使われている。ただし自由会話ではケ・ケー・ケンおよびシェンが多用され、ヨッテ系のテ・テーは少ない。

【1】従属節用法

・コーユー フーデ ゴザーステ モ ナニサム マイトキ マッテクンナハレッテ ユー。(「こんなような状態でございますので、もうなんとかもうしばらく待ってください」と言って……。)

・シー アロ イエンノハシー アルテ モッテ
イケー。(それでは縁の端にありますから、持って
行きなさい。)

・モー オレモ イソガシューシテ ワリヤー マ
タ クッテ。(わたしも忙しいのであなた、また
来るよ。)

・オイモ イソガシカテ マタ アオーデー。(わ
たしも忙しいのでまた会いましょう。)

【2】述語用法

(該当例なし)

【3】文末用法

・ハヨー アガッテクレ ハヨー ミンナ キトラ
ルテ。(早くあがっておくれ、早く、みんな来て
いらっしやるから。)

・モー オレモ イソガシューシテ ワリヤー マ
タ クッテ。(わたしも忙しいのであなた、また
来るよ。)

【4】接続詞用法

(該当例なし)

(g) 東京都八丈町(八丈島) [資料01]

○ンテ・テを使う。これらは「～(二)ヨリテ」か
ら変化したものである。

○動詞の接続形に後接する。

○主節には働きかけや評価的な内容、ノダのかたち
がくることが多い。

○接続詞としてダーンテ・ソイドーテ・ホイドーテ
を使用する。

【1】従属節用法

・antei ha: hukuro iqpe:N naro:te ke:rouzjaite
juto. (「お姉さん、もう袋いっぱいになったから帰
ろうよ」というと。)

・ojo: koroshitewa iketoko kotonno dekiNno:te
korose:te jo sjomeNga koqci: todoite. (親を殺し
ては生かしておくことができないから殺せという書
面がこっちへ届いて。)

・cjoudo uriisjei ikeba uriga uNde aNnoute sono
urjodemo moNde tasiN site kaminaga: hjouro:
agarogoNte juto. (「ちょうどウリ畑へいけば、ウリ
が熟んでいるだろうから、そのウリ(を)でももい
で、足しにしてたべながら、お昼をめしあがりまし

よう」というと。)

・kodomoga miNna o:ze:daga miNna i: kurasio
sitaroNte omea joqkezja. (子どもがみんな大勢だ
けど、みんないい暮らしをしているから、あなたは
いいよ。)

・kora momoka: umareto:te momotarouteqte cukeroga
jokaNnouwa:teqte momotaroute jo no: cukete
sodatetaraqteiga. (「これは、モモから生まれたか
ら、桃太郎とつけるのがいいだろう」といって、桃
太郎という名をつけて育てたそうだが。)

・sogoN kuroNte adaN heNzjo kakodo:zja no. (そ
んなふう(年賀状が)来るから、なにしろ、返事
を書くんだよね。)

・cutomeniNdo:te hjakusjaojo sezunado:te
honedo:te, taokicigara ike jaote joNte, ara
ikiNno:te, keto: sono gena ike:teqte. (「勤め人
だから、百姓をしなくちゃだから、たいへんだから、
トウキチのところに行けよ」というから、「私は行か
ないから、くれてやったその人、行け」といって。)

【2】述語用法

(該当例なし)

【3】文末用法

・ikoutei aga kaqte ikoNte. (行きながら私が買っ
ていくから。)

・motonogani era naqke hu:da:Nte na:. (まえのよ
うにたくさんないようだからね。)

【4】接続詞用法

・da:Nte ko: hucu:no hijo:toriNcje:no kaNge:jo
sutowa. (だから、この、普通の日庸とりのような考
えをすると。)

・hoido:te mukasiwa, maNwa deNwano aroni, deNwano
naqkeNte, huneno kuroga wakariNno:do:zja. (それ
だから、むかしは、いまは電話があるけど、電話が
ないから、船が来るのがわからないんだよ。)

・soido:te, ciqtomo azinasido:zja. (それだから、
少しも味がないんだよ。)

* 『日本方言大辞典』の関連形式と使用地域

よって 《よって》東京都利島・八丈島、三重県、
滋賀県彦根、大阪市、兵庫県神戸市・淡路島、奈良
県、和歌山県、徳島県海部郡、高知県鶴来島 《よ

つてに》三重県志摩郡・飯南郡、滋賀県、大阪府大阪市・泉北郡、兵庫県神戸市・淡路島、奈良県、和歌山県 《よってん》奈良県 《よて》奈良県吉野郡 《よんて》東京都八丈島 《にって》東京都利島 《のって》富山県、徳島県海部郡、福岡市 《のっちえ》大分県大分郡 《んて》東京都利島・八丈島、静岡県田方郡・志太郡 《いて》東京都八丈島 《て》長崎県対馬、熊本県天草郡

《参考文献》

糸井寛一（1983）「9 大分県の方言」『講座方言学 9 九州地方の方言』国書刊行会

金沢裕之（1998）『近代大阪語変遷の研究』和泉書院
神部宏泰（1982）「7 島根県の方言」『講座方言学 8 中国四国地方の方言』国書刊行会

小林賢次（1996）『日本語条件表現史の研究』ひつじ書房

小林千草（1977）「近世上方語におけるサカイとその周辺」近代語学会編『近代語研究』5、武蔵野書院
彦坂佳宣（1997）『尾張近辺を主とする近世期方言の研究』和泉書院

———（2000）「西部日本における原因・理由表現の分布と歴史」『論究日本文学』72（立命館大学文学会）

———（2005）「原因・理由表現の分布と歴史—『方言文法全国地図』と過去の方言文献との対照から—」『日本語科学』17号

山田敏弘（2007）「美濃方言の原因・理由表現」方言文法研究会編『全国方言文法辞典《原因・理由表現編》』科学研究費補助金研究成果報告書

〔方言文献資料目録〕

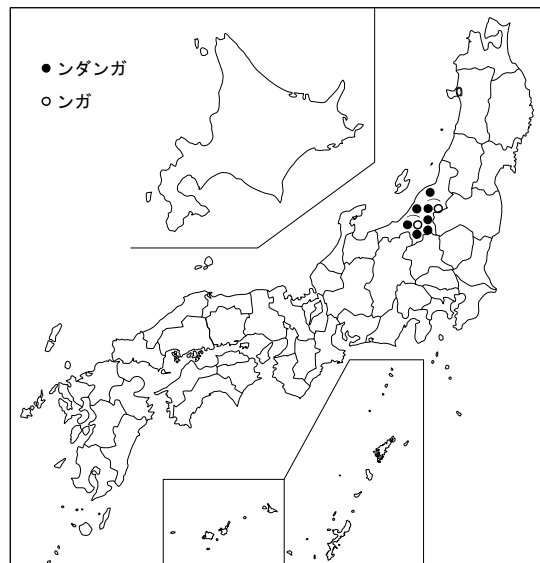
資料 01：金田章宏（2001）『八丈方言動詞の基礎研究』笠間書院

（船木礼子）

ンダンガ【接続助詞・原因理由】

ンガ・アンダンガ・ンダン・モンガ

〔分布〕



（GAJ33 図「雨が降っているから行くのはやめろ」、37 図「子供なのでわからなかった」より）

○GAJ においては新潟県中越地方に分布が見られる。
○方言文献資料によると、新潟県中越・下越地方にンダンガとンガが広く現れている（⇒資料 01）。また、長野県下水内郡栄村秋山郷方言にンダンガとアンダンガの用例が見える（⇒資料 03）。

〔意味用法〕

○原因・理由の接続助詞。から。ので。

○従属節用法では、(1)事態の原因、(2)行為の理由、(3)判断の根拠、(4)発言・態度の根拠、の用例がある。
(5)理由を表さない用法の用例は見られない。また、使用には方言差がある。（⇒[方言文献資料]）

○述語用法の用例は見られない。

○文末用法での使用がある。

○接続詞用法での使用には方言差がある。（⇒[方言文献資料]）

〔接続〕

○活用語の非過去形／過去形に後接する。

○丁寧形に後接する。

○推量形への接続の用例は見られない。

〔語誌〕

○GAJ では新潟県中越地方に見えるのみだが、方言文献資料によると新潟県下越地方でも使われ、長野県栄村でも使用が見えることから、もとはより広い地

域で用いられる形式であったと推測される。

○GAJ ではンダンガが7地点、ンガが2地点で現れており、ンガはいずれもンダンガとの併用である。方言文献資料01を見るとンダンガの方が多く出現する。○GAJ には現れていないが方言文献資料に見える形式には、アンダンガ、ンダン、モンガがある。ンダンとモンガの用例は少ない。ンダンは談話資料に見られる形式で、ンダンガの末尾の「ガ」が一時的に脱落したものである可能性も考えられる。モンガは高年層に使用されるという報告がある。

○ンダンガは、もとは「から」「ので」に相当するが、徐々に「のだから」相当の用法にシフトしていく傾向があるようである。

これは複数の要因によって生じた変化であると推測される。要因として、以下のような三点が考えられる。

(1) ンダンガからンガが派生

新潟方言では、ンダンガを使用した「から」「ので」相当の原因理由表現は、次のように言い表される。

出てきた んだんが (出てきたから)
から

また、ンダンガを使用した「のだから」相当の原因理由表現は、次のようになる。

出てきた がん だ んだんが (出てきたのだから)
の だ から

ンダンガによる「のだから」相当の形式は、「出てきたがんだんが」のように、ンダが重なり、またガも重なり、複雑である。このため、重なる部分が脱落し、ンガの部分だけで「から」を表すようになったのではないかと推測される。GAJ でンガが現れている2地点ともンダンガが併用されており、ンダンガの出現は7地点と数も多い。また方言文献資料においてもンダンガの方が出現数が多い。これらのことから、ンダンガが先にある形式であり、ンガはンダンガから派生した語形ではないかと推測するものである。

(2) ンダンガの分節意識

ンダンガは1形式であるが、これを「ンダ」と「ンガ」に分節してとらえる意識が生じたのではと考える。「ンダ」の部分が「のだ」に相当すると意識され

るようになったのではないかと推測される。(1)の事象も影響して、ンダンガは「ンダ (のだ)」+「ンガ (から)」だと分節してとらえることも生じたのではないかと推測する。

(3) ンダンガと併用される原因理由表現形式との意味分担

ンダンガを使用する地域では、原因理由表現にサカイ類、カラ、ノデと、複数の形式を使用していることがGAJや方言文献資料からわかる。複数ある形式のうち、ンダンガはそのままの形では「のだから」相当の原因理由表現を担当する形式にシフトしていき、ンダンガ以外の形式であるンガ・スケ類・カラ・ノデが「から」「ので」担当形式になる、という傾向があるのではないかと推測される。

資料04によると、長野県下水内郡栄村秋山郷ではンダンガは「のだから」相当として用いられると報告されている。これはンダンガと、それ以外の形式とで、意味分担が進んだ状況を呈しているということである可能性も考えられる。

上記(1)(2)(3)は、この順で生じたということではなく、これら三つの要因が併行した、と考える方が妥当性が高いと思われる。

以上記したことは方言文献資料の用例から推測したことにとどまる。共通調査を実施しその結果を分析した記述によって、ンダンガの意味用法、その他の形式との相関を明らかにすることは今後の課題である。

【報告地点】



(アルファベット: 方言文献資料)

- a 新潟県岩船郡朝日村高根 (現・村上市) [全国]
- b 新潟県新潟市東万代町 [資料 01]
- c 新潟県新津市程島 (現・新潟市) [資料 01]
- d 新潟県西蒲原郡吉田町下中野 (現・燕市) [資料 01]
- e 新潟県東蒲原郡上川村黒谷 (現・東蒲原郡阿賀町) [資料 01]
- f 新潟県南蒲原郡下田村吉ガ平 (現・三条市) [資料 01]
- g 新潟県栃尾市上檜立・梅之俣 (現・長岡市) [資料 01]
- h 新潟県長岡市大積町灰下 [資料 01]
- i 新潟県刈羽郡西山町妙法寺 (現・柏崎市) [資料 01]
- j 新潟県古志郡山古志村宝下駄 (現・長岡市) [資料 01]
- k 新潟県小千谷市首沢 [資料 01]
- l 新潟県刈羽郡小国町三桶 (現・小千谷市) [資料 01]
- m 新潟県柏崎市大字折居字餅粮 [談話]
- n 新潟県柏崎市拝庭 [資料 01]
- o 新潟県北魚沼郡広神村滝之又 (現・魚沼市) [資料 01]
- p 新潟県北魚沼郡小出町干溝 (現・魚沼市) [資料 01]
- q 新潟県南魚沼郡六日町上薬師 (現・南魚沼市) [資料 01]

- r 新潟県南魚沼郡塩沢町三郎丸 (現・南魚沼市) [資料 01]
- s 新潟県十日町市四日町 [資料 02]
- t 新潟県十日町市 [資料 03]
- u 新潟県中魚沼郡津南町結束 [全国]
- v 長野県下水内郡栄村秋山郷 [資料 04]

[方言文献資料]

(a) 新潟県岩船郡朝日村高根 (現・村上市) [全国]

○ンガの使用が見える。

○ほかにスケ・スケニ・サニが使われる (⇒サカイ・セン)。

【1】従属節用法

(該当例なし)

【2】述語用法

(該当例なし)

【3】文末用法

・イリガタガ ドーシテ ドーシテ タイシタ ワ
レ カガルンガ。(奥の田んぼはどうしてどうして、
たいしてあなた、手間がかかりますから。)

【4】接続詞用法

(該当例なし)

(b) 新潟県新潟市東万代町 [資料 01]

○ンダンガの使用が見える。

【1】従属節用法

(該当例なし)

【2】述語用法

(該当例なし)

【3】文末用法

(該当例なし)

【4】接続詞用法

・「またオンチョロチョロの穴のぞき」という声をした。
た。ほうしるんだんが、二人の泥棒が、「このうち
では、おらがのぞいていることが、わかってるげだ
が、どうしる」とヒソヒソ、相談していた。(「また
オンチョロチョロの穴のぞき」という声をした。だ
から二人の泥棒は「このうちでは、おれがのぞい
ていることがわかっているようだが、どうする」と
ヒソヒソ、相談していた。)

(c) 新潟県新津市程島 (現・新潟市) [資料 01]

○ンダンガの使用が見える。

○ほかにスケが使われる。(⇒サカイ)

【1】従属節用法

・あんにゃは、手前で仕事がいやだんだんが、「ほら、おじ、ほら、おじ」というて、おじにばっか、仕事をさせていた。(兄は、自分で仕事をするのがいやなので「ほら、弟、ほら、弟」と言って、弟にばかり仕事をさせていた。)

【2】述語用法

(該当例なし)

【3】文末用法

(該当例なし)

【4】接続詞用法

・ほうして、年の暮れになって、もう年夜がくるてがんに、米も味噌も、食うもんもねえてが。ほうしるんだんが、ととは、山へいって、松をきってきて、町へ売りにいったてが。(そうして年の暮れになって、もう大晦日が来るというのに、米も味噌も、食べるものもないて。だから、お父さんは山へ行って松を切ってきて町へ売りに行ったて。)

(d) 新潟県西蒲原郡吉田町下中野(現・燕市)〔資料 01〕

○ンダンガの使用が見える。

○ほかにスケが使われる。(⇒サカイ)

【1】従属節用法

・あるどごに、ばさと娘があって、娘は山のむこうの村へ嫁ごにいった。ほうして、うちへもなかなか顔を見せねんだんが、ばさは娘が見たくてどうしようもなかった。(あるところにおばあさんと娘がいて、娘は山の向こうの村へ嫁に行った。そうして、うちへもなかなか顔を見せないで、おばあさんは娘が見たくてしかたなかった。)

【2】述語用法

(該当例なし)

【3】文末用法

(該当例なし)

【4】接続詞用法

(該当例なし)

(e) 新潟県東蒲原郡上川村黒谷(現・東蒲原郡阿賀町)〔資料 01〕

○ンガの使用が見える。

【1】従属節用法

・「まだ、ようく、よまない瓜だんが、これを部屋にふとんをかけて寝せておけばよい」と、寝せておいた。(「まだよく熟していない瓜だから、これを、布団をかけて部屋に寝かせておけばよい」と、寝かせておいた。)

【2】述語用法

(該当例なし)

【3】文末用法

(該当例なし)

【4】接続詞用法

(該当例なし)

(f) 新潟県南蒲原郡下田村吉ガ平(現・三条市)〔資料 01〕

○ンダンガの使用が見える。

○ほかにスケが使われる。(⇒サカイ)

【1】従属節用法

・「それでも助けてやろうかとおもたども」というて、たわらをかつねたどころが、「俵薬師、目の願だ」なんていうているんだんが、「このウソこきめ、俵薬師だなんて」というて、川んなかへ、ほん投げてしもた。(「それでも助けてやろうかと思ったけれども」と言って、俵を担いだところが、「俵薬師、目の願だ」なんて言っているで、「この嘘つきめ、俵薬師だなんて」と言って、川の中へ放り投げてしまった。)

【2】述語用法

(該当例なし)

【3】文末用法

(該当例なし)

【4】接続詞用法

(該当例なし)

(g) 新潟県栃尾市上桧立・梅之俣(現・長岡市)〔資料 01〕

○ンダンガ、ンガの使用が見える。

○ほかにスケが使われる。(⇒サカイ)

【1】従属節用法

・こんだ、山道におえていた、ふきっばを、フツツンと、ふったぎって、それを、かわいげな赤っ子のずきんにしてかぶせた。ほうして、赤ん坊が泣くんだんが、「おう、よいよい、いい子だ」なんて、赤ん

坊をいさぶりにいさぶり、あいんでいった。(今度は山道に生えていた蔦の葉をぷつぷつとちぎって、それをかわいい赤ん坊のずきんにしてかぶせた。そうして、赤ん坊が泣くので「おう、よいよい、いい子だ」なんて言いながら赤ん坊をゆさぶりゆさぶり、歩いていった。)

・「じさ、そんげにあやまるがだけや、お前、ぼんさまになって、おいら子のあとを、とむらってもらいたい」というんだんが、じさも、しかたなしに、「ああ、いいとも、そうしよう。だけや、おいらの頭をすってくれ」というて、頭をさげた。(「おじいさん、そんなにあやまるのなら、お前、坊様になって、私の子の菩提を弔ってもらいたい」と言うので、おじいさんも仕方なしに「ああ、いいとも、そうしよう。それなら、私の頭を刺ってくれ」と言って、頭を下げた。)

・「さあ、それじゃ、とてもはなしたくはないども、まあ、お前さんのお気に入りのおようだんが、ようござんす、これからのつきあいもござんすし、それでけっこうでござんす」というて、馬を売った。(「さあ、それではとても手放したくはないけれども、まあ、お前さんのお気に入りのおようだから、ようございます、これからのつきあいもござんすし、それでけっこうでござんす」と言って、馬を売った。)

【2】述語用法

(該当例なし)

【3】文末用法

(該当例なし)

【4】接続詞用法

(該当例なし)

(h) 新潟県長岡市大積町灰下 [資料01]

○ンダンガの使用が見える。

○ほかにスケが使われる。(⇒サカイ)

【1】従属節用法

・「太郎、二郎、三郎、いま、きたろ」というた。もう、夕方になってうす暗くなっているし、手もツルツルしているようだし、声も似ているんだんが、子どもたちは、「そら、こんだ、ほんとのかつかだ」というて、戸をあけて、うちへ入れた。(「太郎、二郎、三郎、今帰ってきたよ」と言った。もう夕方になっ

て薄暗くなっているし、手もツルツルしているようだし、声も似ているので、子供達は「そら、今度は本物のお母さんだ」と言って、戸を開けて家へ入れた。)

・「ねら、どうやって木にあがったか、ほんとうのことをいうてみれ」というた。ほうしたれば、二郎は、ちんこいんだんが、「ナタを持ってきて、木にナタ目のだんだんをつければ、あがらる」と、ほんとうのことというてきかした。(「おい、どうやって木に上がったか、本当のことを言ってみろ」と言った。そうすると二郎は小さいので「ナタを持ってきて、木にナタ目のだんだんをつければ、上がれる」と本当のことを言ってみせた。)

【2】述語用法

(該当例なし)

【3】文末用法

(該当例なし)

【4】接続詞用法

(該当例なし)

(i) 新潟県刈羽郡西山町妙法寺 (現・柏崎市) [資料01]

○ンダンガの使用が見える。

○ほかにスケが使われる。(⇒サカイ)

○「知らねえがらんだんが」は「知らないのだから」にあたる。ここでは、「がら」が「のだ」に相当し、「んだんが」は「から」相当である。

知らねえ が ら んだんが (知らないのだから)
の だ から

【1】従属節用法

・「八卦おきの、えらいじさがいるそうだが、たんだ今、ここへつれてこい。そのじさから一つみてもらおう」てがで、じさのところへ、迎いのかごがとんできた。じさは、ほんとうは、八卦どころか、何も知らねえがらんだんが、真っ青になっていた。(「八卦をする、えらいおじいさんがいるそうだが、今すぐここへ連れて来い。そのおじいさんに一つみてもらおう」と、おじいさんのところへ迎えのかごが来た。おじいさんは、本当は八卦どころか何も知らないのだから、真っ青になっていた。)

・へびは、なめくじのツラツラした汁にさわれば、

からだがとけるんだんが、なめくじをおそれている。
(蛇はなめくじのぬらぬらした汁に触ると体が溶けるので、なめくじを恐れている。)

【2】述語用法

(該当例なし)

【3】文末用法

(該当例なし)

【4】接続詞用法

・ほうして、出ることもならんで、せつながって
いて、その思いが、殿様のどこへいって病気になった。
ほうしるんだんが、そのへびとなめくじと蛙を掘り
出して放してやったら、殿様の病気は、たちまちな
おって、じさは、ほうびのかねを、いっぺもろたと。
(そうして出ることもならなくて苦しがついて、
その思いが殿様のところへ行ったら殿様は病気になっ
た。だから、その蛇となめくじと蛙を掘り出して放
してやったら、殿様の病気はたちまち直って、おじ
いさんは褒美の金をいっぱいもらったと。)

(j)新潟県古志郡山古志村宝下駄(現・長岡市)〔資
料 01〕

○ンダンガの使用が見える。

○ほかにスケが使われる。(⇒サカイ)

【1】従属節用法

・一度は、かしてくれたが、いっこうになさねんだ
んが、権蔵は、こんだ、かしてくれなかった。だど
も、つあつあの病気は、だんだん悪くなっていくし、
もう薬を買うかねもたえたんだんが、二人の子ども
は、また、本家へ、かねかりにいった。(一度は貸し
てくれたが、いっこうに返さないの、権蔵は今度は
貸してくれなかった。だけれども、父の病気はだ
んだん悪くなっていくし、もう薬を買う金もなくな
ったので、二人の子供はまた本家へ金を借りに行っ
た。)

・そこへ、本家の権蔵おやじがきたんだんが、子ど
もたちは、一本歯の下駄のことを話して、「こんだ、
お前のどこからかりたかねも、やっとなされる」と
いうたれば、「いや、おれのかせたかねは、おまえら
にくれてやるすけ、その下駄をよこせ。」(そこへ、
本家の権蔵おやじが来たので、子供達は一本歯の下
駄のことを話して、「今度はお前のところから借りた

金もやつと返せる」と言う、と、「いや、おれの貸した
金はお前らにやるから、その下駄をよこせ。」)

【2】述語用法

(該当例なし)

【3】文末用法

(該当例なし)

【4】接続詞用法

・つあつあが病気になって、バツタリ寝ているよう
になってしまった。ほうして、だんだん、貧乏にな
って、薬も買わねえようになった。ほうしるんだ
んが、二人の子どもが、つあつあの本家の権蔵とい
う家へいっちゃん、かねやこめをかりてきた。(父が病
気になって、バツタリ寝ているようになってしまっ
た。そうしてだんだん貧乏になって、薬も買えない
ようになった。だから、二人の子供が、父の本家の
権蔵という家へ行ったら、金や米を借りてきた。)

(k)新潟県小千谷市首沢〔資料 01〕

○ンダンガの使用が見える。

○ほかにスケが使われる。(⇒サカイ)

【1】従属節用法

・「おらは、いつか前に、飲みかけたがえるをはなし
てやったへっぴだども、あのときの約束通り、ここ
のうちのあんにやさの嫁にしてくれ」というた。し
かたがないんだんが、せがれの嫁にしたどころが、よ
う働く嫁だった。(「私は、いつか前に、飲みかけた
蛙を放してやった蛇だが、あの時の約束通り、ここ
のうちの惣領の嫁にしてくれ」と言った。しかたが
ないので、せがれの嫁にしたところ、よく働く嫁だ
った。)

【2】述語用法

(該当例なし)

【3】文末用法

(該当例なし)

【4】接続詞用法

・あるとき、親どんが、うちのつばにわの草とりを
していたれば、へっぴががえるをくわえて、ギーギ
ーといわしていた。ほうしるんだんが、そのがえる
を助けてやろうとおもて、「へっぴ、へっぴ、そのが
える、おんにくしてくれや。もし、お前が女だけや、
おらどこのあんにやのどこへ、嫁になってこいや」

というたれば、へっぴは、がえるをはなした。(ある時、親御さんが、うちの庭の草取りをしていると、蛇が蛙をくわえてギーギーと言わしていた。だから、その蛙を助けてやろうと思って、「蛇、蛇、その蛙、おれにくれよ。もし、お前が女だったら、おれの惣領のところへ嫁になり来いよ」と言うと、蛇は蛙を放した。)

〔1〕新潟県羽羽郡小国町三桶(現・小千谷市)〔資料 01〕

○ンダンガの使用が見える。

○ほかにスケが使われる。(⇒サカイ)

〔1〕 従属節用法

・加賀の山奥に、芋掘りのじょうずな、芋掘り五郎という人が住んでいた。五郎は、まいんち、山へ芋掘りにいっては暮らしていた。それも親もなければ、かかもない一人もんで、山へ行つて、いちんち、芋掘りをしてきて、手前の食う分だけを残して、あとは人にくれてしまうんだんが、よくなし五郎ともよばれていた。(加賀の山奥に、芋掘りの上手な、芋掘り五郎という人が住んでいた。五郎は毎日山へ芋掘りに行つては暮らしていた。それも親もなければ妻もない一人者で、山へ行つて一日芋掘りをしてきて、自分の食べる分だけを残してあとは人にやってしまうので、欲なし五郎とも呼ばれていた。)

〔2〕 述語用法

(該当例なし)

〔3〕 文末用法

(該当例なし)

〔4〕 接続詞用法

(該当例なし)

〔m〕新潟県柏崎市大字折居字餅粮〔談話〕

○ンダンガ、ンガ、ンダン、モンガの使用が見える。

○ほかにエニ、スケが使われている (⇒セン・サカイ)。

○〔n〕新潟県柏崎市栢庭ではンガの従属節用法の使用が見え、栢崎市では従属節用法と文末用法があることがうかがえる。

〔1〕 従属節用法

(該当例なし)

〔2〕 述語用法

(該当例なし)

〔3〕 文末用法

・ンー エチリワ ヨンキロダケラ ニキロ ニキロモ アルンダンガノー。(うん一里は四キロならばニキロ、ニキロもあるからねえ。)

・オラガ オロシカラ アレノ コノ コツラノ アワエガ オラガ セーヨリ ターケアーデスンガ。(わたしの家の「おろし」から、あれの、この小面の間がわたしの背より高いですから。)

・ンー マー エチリワ ネードモ ハンミチモ アルンダン ハンリモ アルンダン リスーニ シテノー。(うんまあ一里はないけれども半道もあるから、半里もあるから、里数にしてねえ。)

・ダ マタ アノ コンスキテノワ マタ アラーアレデスモンガ アノ ラクダシ ムコアーエ ナゲンニワネー。(しかしまたあの木鋤というのは、またあれはあれですから、あの、楽だし、遠くへ投げるにはねえ。)

〔4〕 接続詞用法

(該当例なし)

〔n〕新潟県柏崎市栢庭〔資料 01〕

○ンガの使用が見える。

○〔m〕新潟県柏崎市大字折居字餅粮ではンガの文末用法の使用が見え、栢崎市ではンガには従属節用法と文末用法があることがうかがえる。

〔1〕 従属節用法

・そこで、せがれは、「まあ、いい言葉も、だいぶ、覚えたんが、国へ帰ろう」と、村へ帰った。(そこで、せがれは「まあ、いい言葉もだいぶ覚えたから、国へ帰ろう」と、村へ帰った。))

〔2〕 述語用法

(該当例なし)

〔3〕 文末用法

(該当例なし)

〔4〕 接続詞用法

(該当例なし)

〔o〕新潟県北魚沼郡広神村滝之又(現・魚沼市)〔資料 01〕

○ンダンガの使用が見える。

○ほかにスケが使われる。(⇒サカイ)

【1】従属節用法

・小僧は、「はあ、こら、おおごとだ」とおもて、むこうを見たら、チャカンチャカンと、あかりがめえるんだんが、「ああ、いいかった、あこへいってとめてもらおう」と、そのあかりをたよっていった。(小僧は、「はあ、これはおおごとだ」と思って、向こうを見たら、チラチラと灯りが見えるので、「ああ、よかった、あそこへ行って泊めてもらおう」と、その灯りを頼って行った。)

【2】述語用法

(該当例なし)

【3】文末用法

(該当例なし)

【4】接続詞用法

(該当例なし)

(p) 新潟県北魚沼郡小出町干溝(現・魚沼市)〔資料 01〕

○ンダンガ、ンガの使用が見える。

○ほかにスケが使われる。(⇒サカイ)

○「出てきたがんだんだんが」は「出てきたのだから」にあたる。ここでは、「がんだ」が「のだ」に相当し、「んだんが」は「から」相当である。

出てきた が ん だ んだんが (知らないのだから)
 の だ から

【1】従属節用法

・「こら、まあ、おおごとのこった。ひり食ったばつかに出てきたがんだんだんが、この峠を一時間もかかれば、うちへいがつるはずだが、今から暗くなるてや、こら、おかしい。」(「これは、まあ、大変だ。昼飯を食ってすぐに出てきたのだから、この峠を一時間も行けばうちへ着けるはずだが、今から暗くなるとは、これはおかしい。」)

・もとから、どくされの、おっかながりのとんべえだんだんが、いっそ、はあ、ブルブル、からだかふるえはねた。なんねせ、どこへいごうようもねえんが、まあ、杉の木のとっちょうに、木のぼりしよりしょうがないと、杉の木のとっちょうにのぼって、しっかりつかまって、ブルブル、ふるえていた。(もとから臆病者の、おっかながりのとんべえだから、いっそうもう、ブルブル、体が震え始めた。なんに

せよ、どこへ行きようにもないので、まあ、杉の木のとっぺんに、木登りするよりしょうがないと、杉の木のとっぺんに登って、しっかりつかまってブルブル震えていた。)

・なじょう、かじょうしょうたつても、下へおつれば、死人のかん桶が待っているし、いごうようもねえんだんが、何ねせ、ここで夜明けを待つよりしょうがねえと、ブルブルと、ふるえしきに、それでも、おっかなおっかな、そのかん桶のンまったべとんどこを、こうのぞいて見た。(なんのかんのしても、下へ降りれば死人の棺桶が待っているし、動きようもないので、何にせよここで夜明けを待つよりしかたがないと、ブルブルと震えながら、それでも恐る恐る、その棺桶の埋まった土のところを、こうのぞいて見た。)

・とんべえは、「はて、まあ、いつ、雪が降るやらかねんが、まあ、雪の降らねえうちに、隣り村へ豆の托鉢にでもいってこう」とおもて、朝げ早く出かけて、峠にかかった。(とんべえは「はて、まあ、いつ雪が降るやらかないから、まあ、雪の降らないうちに隣り村へ豆の托鉢にでも行っておこう」と思って、朝早く出かけて、峠にかかった。)

【2】述語用法

(該当例なし)

【3】文末用法

・「そうら、狐め、ざま見ろ。夜があけてもねってなんいるんだんが、それでそうだ、ああ、おもしろかった」(「そうら、狐め、ざまを見ろ。夜が明けても眠ってなどいるから。それでそうだ、ああ、おもしろかった。」)

【4】接続詞用法

(該当例なし)

(q) 新潟県南魚沼郡六日町上薬師(現・南魚沼市)〔資料 01〕

○ンダンガの使用が見える。

○ほかにスケ、ツケが使われる。(⇒サカイ)

【1】従属節用法

・ほうしているうちに、手前の村のとっちょうへきたたんだんが、三九郎じさは、「そうそう、おらの村は、ひでりでおおごとのがんだつけ」とおもて、ひしや

くにいっぺ、水を汲んで、バシヤンとおんまけたと。
(そうしているうちに、自分の村の上に来たので、三九郎じいさんは、「そうそう、おれの村は日照りでたいへんなことだから」と思って、ひしゃくにいっぺい水を汲んで、バシヤンとまいたと。)

・「命をくれたぞ、おれが恩を忘れんな」てって、放したと。そうしたら、また、外で、チリンチョンチョンと、雀がさえずるんだんが、出てみたら、ひょうたんの種が一つあったてんが。(「命を助けてやったぞ、私の恩を忘れるな」と言って、放したと。そうしたらまた外で、チリンチョンチョンと、雀がさえずるので、出てみたら、ひょうたんの種が一つあったて。)

【2】述語用法

(該当例なし)

【3】文末用法

(該当例なし)

【4】接続詞用法

・ほうしたら、深い深い川の底の竜宮の方までおってもとと。すったんだんが、すこでまた、「ごめんなされ、こんにゃひとばん、とめてくだされ」というて、とめてもろたと。(そうしたら、深い深い川の底の竜宮の方まで落ちてしまったと。だから、そこでまた、「ごめんなされ、今夜一晚、泊めてくだされ」と言って、泊めてもらったと。)

(r) 新潟県南魚沼郡塩沢町三郎丸(現・南魚沼市)

[資料 01]

○ンダンガの使用が見える。

○ほかにスケが使われる。(⇒サカイ)

【1】従属節用法

・狐が、夕方かどへ出てみたら、プンプンとうまげなにおいがしてくるんだんが、「あつけなうまいにおいは、どこからしてくるか」とにおいをかぎかぎ、ピョコピョコ、鼻を動かしていったれば、川ばたへいった。(狐が、夕方、表へ出てみたら、プンプンとうまそうな匂いがしてくるので、「あんうまそうな匂いはどこからしてくるか」と匂いをかぎかぎ、ピョコピョコ、鼻を動かして行って、川べりへ着いた。)

・「おら、きょうは魚がいっぺとれたんだんが、いま、

ひとなべにたどこだ。お前も寄って食っていがんかい、狐どん」(「おれは、今日は魚がいっぱいとれたので、今、ひと鍋煮たところだ。お前も寄って食っていないかい、狐どん。」)

・狐は下ばつかむいて、ねも出さんけや、こっちをむきもしねえ、知らん顔してるてが。いくら呼んでも、そうだんだんが、「こんつらもん、かもうたつても、しょうがねえ」とおもて、かわすはかえってきた。(狐は下ばかり向いて、声も出さなければこちらを向きもしない、知らん顔してるて。いくら呼んでもそうなので、「こんなもん、かまってもしょうがない」と思って、かわうそは帰ってきた。)

・また、つぐの晩になって、かわすが出かけていって、「おうい、狐どん、狐どん」というども、こった、天ばっか見て、ねも出さんし、こっちをむきもしねえ、知らん顔してるてが、いくら呼んでも、そうだんだんが、「狐め、また、おれをだましたな」とおもて、うちへ帰った。(また、次の晩になって、かわうそが出かけていって「おうい、狐どん、狐どん」と言っても、こんどは天ばかり見て、声も出さないし、こっちを向きもしない、知らん顔してるて。いくら呼んでもそうなので、「狐め、また、おれをだましたな」と思って、うちへ帰った。)

【2】述語用法

(該当例なし)

【3】文末用法

(該当例なし)

【4】接続詞用法

(該当例なし)

(s) 新潟県十日町市四日町 [資料 02]

○ンダンガ、ンガの使用が見える。

○ほかにスケ、ツケが使われる。(⇒サカイ)

【1】従属節用法

・サバ屋はにくくって、どうしようもないども、「いやだ」なんていえば、ばさに食わっるんだんが、また一匹さったしたれば、またいつきのうちに、ムシャムシャと食ってもとと。(サバ屋は憎くてどうしようもないけれども、「いやだ」なんて言えば、おばあさんに食われるから、また一匹差し出したら、また一瞬でムシャムシャと食ってしまったと。)

・ばさはでっけえサバを三匹も食ったんだんがウツラウツラとしながら、「おお、サバをいっぺ食ったら、ねぶったくなったぞや」と、いったと。ばさはジロのはたで、いつときウツラウツラしていたが、そのうちに、「ああ、サバをいっぺ食って、うまかったつけ、こんだ餅でも焼いて食おうか」とひとりごとをいいしに、餅をワタシの上にあげて焼きはじめたども、なんたらまた、サバを食ったばかりで腹くちえんだんが、またコクンコクンと眠ったと。(おばあさんは大きい鯖を三匹も食ったのでウツラウツラとしながら、「おお、鯖をいっぱい食ったら眠くなったよ」と言ったと。おばあさんはいろいろばたで、少しの間ウトウトしていたが、そのうちに、「ああ、鯖をいっぱい食って、うまかったから、こんどは餅でも焼いて食おうか」とひとりごとを言いながら、餅を渡し金の上にのせて焼き始めたけれども、なんだかまた、鯖を食ったばかりで腹がいっぱいだから、またコクンコクンと眠ったと。)

・ばさが目をさまして、餅を食おうとしたら、ワタシの上の餅が一つもなかったんだんが、ばさはたまげて、「おお、おお、ジロの荒神さまが、ンなあがらしたか。はちゃこんだ、甘酒でもわかそうか」と、ひとりごとをいいしにばさはでっけい鍋をかけて、こんだ、甘酒をわかしはねたと。(おばあさんが目を覚まして、餅を食おうとしたら、渡し金の上の餅が一つもなかったの、おばあさんは驚いて、「おお、おお、いろいろの荒神様が全部召し上がったか。では今度は、甘酒でも沸かそうか」と、ひとりごとを言いながらおばあさんは大きな鍋をかけて、今度は甘酒を沸かし始めたと。)

・「はちゃ仕方がねんが、水でも飲んでこうかなあ」と、ひとりごとをいいしに、流しへ行つたと。(「じゃあしかたがないから、水でも飲んでくるかなあ」と、ひとりごとを言いながら、流しへ行つたと。)

【2】述語用法

(該当例なし)

【3】文末用法

(該当例なし)

【4】接続詞用法

(該当例なし)

(t) 新潟県十日町市〔資料 03〕

○ンダンガ、ンガが使用されている。

【1】従属節用法

(該当例なし)

【2】述語用法

(該当例なし)

【3】文末用法

・アレ アノ コロ ホレ ガッコエ センセガ イタンダ。スダセンセガ イテ アレ シタンダンガ。(あれあの頃ほら学校に先生がいたんだ。須田先生がいてあれしたから。)

・A: ソーアンダンガ オマエ ジクシテ オッタナシテヤ バカ ンマゲダンダンガ。(そうだからあんた、熟柿で落ちたなんていえばばかにうまそうだから。(波線部は【4】接続詞用法))

B: ア。ホント ンメガンダンガ アラ。(あ。本当にうまいんだから、あれは。)

【4】接続詞用法

・A: ソーアンダンガ オマエ ジクシテ オッタナシテヤ バカ ンマゲダンダンガ。(そうだからあんた、熟柿で落ちたなんていえばばかにうまそうだから。(波線部は【3】文末用法))

(u) 新潟県中魚沼郡津南町結束〔全国〕

○ンダン、ンガ、ンダンガが使用されている。

○ほかにスケアが使われている(⇒サカイ)。

【1】従属節用法

・エー マーダー アッ アッダー ヒガ ナゲンダン マダ アッダナー ヒルマノ アカリガ アルンダンガ イージャ ネーカー。(いや、まだあれだ、日が長いから、まだあれだね、昼間のあかりがあるからいいじゃないか。)

【2】述語用法

(該当例なし)

【3】文末用法

・テツダワナケリヤー コドモバッカジャ セガー ノッコチクテ タカク ツマンネンガー (手伝わなければ、こどもばかりでは背が小さくて、高く積めないから。)

・f: ホントニ アノ トキヤー ホントニ ナンネンモ ツズイタテー。(本当にあの時は本当に何年も

続きましたねえ。)

m: ソイデ コノー ヤマチジャ ソレサッ ヨーキ
サイ ツズケバー ハタライテルンダンガー。(それで
この山地ではねえ、陽気さえ続けば働いている
から。)

【4】接続詞用法

(該当例なし)

〔v〕長野県下水内郡栄村秋山郷〔資料 04〕

○ンダンガ、アンダンガが使用されている。

○ほかにスケア類 (スケア、スケアー、スケアデ、
スケアレ、スケネ)、セー類 (セー、セーネ、セーデ)
が使われている。(⇒サカイ、セン)

○話者の内省によると、併用しているンダンガ類と、
スケア類・セー類とでは、意味に違いがある。「降る」
を例に取ると、フロアンダンガは「降るのだから」
に相当し、フロスケアーとフロセーは「降るから」
に相当するとのことである。新潟県の用法を合わせ
見るに、ンダンガ、アンダンガは、もとは「から」「の
で」に相当するが、徐々に「のだから」相当の用法
にシフトしていく傾向があるようである。

【1】従属節用法

・アメガ ゲァネ フロアンダンガ カソァ セァ
ーシテ エゲ。(雨がひどく降るのだから傘を差して
行け。)

・コノ メカンナ スッケァアンダンガ ボチャレ。
(この蜜柑は酸っぱいから捨てろ。)

・メソテガ フッテ チタンダンガ、ソロソロ フ
ヨノ ヨーエモ シネァケバ ナンネァナー。(みぞ
れが降ってきたんだから、そろそろ冬の準備もしな
ければならないなあ。)

・アラネガ フッテソァ ホッペタネ タタケツケ
ロアンダンガ オァーカサマデ エガンネァ。(あら
れが降ってさ、頬に叩きつけるものだから、大赤沢
まで行けないでしまったよ。)

・コドシャ オーエチンダンガ ヨァーチャ エ
ーカナ。(今年は大雪だから(春以後の) 陽気が良い
かな。)

【2】述語用法

(該当例なし)

【3】文末用法

・マサカ コッチノ ホァーエ クルト オモッテ
ネアンダンガ。(まさかこっちの方へ来るとしてい
ないから。)

【4】接続詞用法

(該当例なし)

《参考文献》

大橋純一 (2005) 「I 総論」平山輝男編集代表・小林
隆新潟県編者『日本のことばシリーズ 15 新潟県の
ことば』明治書院

剣持隼一郎 (1983) 「8 新潟県の方言ー越後方言ー」
飯豊毅一・日野資純・佐藤亮一編『講座方言学 6
中部地方の方言』国書刊行会

坂口直樹 (1999) 「新潟県南蒲原郡における理由表現
の社会言語学的研究」『地域言語』11 地域言語研
究会

都竹通年雄 (1984) 「中部地方の方言の文法」『国文
学解釈と鑑賞』49 巻 1 号 至文堂

〔方言文献資料目録〕

資料 01: 稲田浩二監修・水沢謙一編 (1974) 『日本の
昔話 8 越後の昔話』日本放送出版協会

資料 02: 十日町市史編さん委員会編 (1993) 『十日町
の昔ばなし』十日町市役所

資料 03: 外山正恭 (2005) 「V 生活の中のことば」平
山輝男編集代表・小林隆新潟県編者『日本のこと
ばシリーズ 15 新潟県のことば』明治書院

資料 04: 馬瀬良雄他執筆・長野県編集 (1992) 『長野
県史 方言編』長野県史刊行会

(吉田雅子)